

民事訴訟法目次

民事訴訟法

第一編 總則	一
第一章 裁判所	一
第一節 管轄	一
第二節 裁判所職員ノ除斥	一
第二章 當事者	四
第一節 當事者能力又訴訟能力	五
第二節 共同訴訟	六
第三節 訴訟參加	七
第四節 訴訟代理人及補佐人	八
第三章 訴訟費用	九
第一節 訴訟費用ノ負擔	九
第二節 訴訟費用ノ擔保	九
第三節 訴訟上ノ救助	一〇
第四章 訴訟手續	一一
第一節 口頭辯論	一一
第二節 期日及期間	一一
第三節 送達	一二
第四節 裁判	一三
第五節 訴訟手續ノ中斷及中止	一四
第六節 第一審ノ訴訟手續	一五
第七節 第二審ノ訴訟手續	一六
第八節 地方裁判所ノ訴訟手續	一七

民事訴訟法目次

第一節 辯論ノ準備	二五
第二節 證據	二六
第一款 總則	二六
第二款 證人訊問	二七
第三款 鑑定	二七
第四款 書證	二九
第五款 物證	三〇
第六款 當事者訊問	三二
第七款 證據保全	三三
第八章 裁判所ノ訴訟手續	三三
第一節 上訴	三四
第二章 控訴	三四
第一款 上告	三六
第二款 抗告	三八
第三章 再審	三九
第四編 督促手續	四〇
第五編 強制執行	四二
第一章 總則	四二
第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強	四二
第一節 執行	四九
第一節 動産ニ對スル強制執行	四九
第二節 遺則	四九
第三節 有體動産ニ對スル	五〇
強執行	五〇
信託及ヒ他ノ財産權	五〇
ニ對スル強制執行	五三

民事訴訟法目次

第四款 配當手續	五六
第二款 不動産ニ對スル強制	五六
執行	五六
第一款 通則	五七
第二款 強制競賣	五七
第三款 強制管理	五八
第四款 船舶ニ對スル強制執行	六六
第五款 船舶ニ對スル強制執行	六七
第六款 金錢ノ支拂ヲ目的トセサ	六七
ル債權ニ付テノ強制執行	六九
第七款 假差押及ヒ假處分	六九
第八章 公示催告手續	七二
第九款 仲裁手續	七四
第十款 民事訴訟法ノ施行法	七八
第十一款 民事訴訟費用法	七九
第十二款 民事訴訟用印紙法	八〇
第十三款 民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スルニ	八〇
付テノ規定	八二
第十四款 人事訴訟手續法	八二
第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組	八二
事件ニ關スル手續	八二
第二章 親子關係事件、相續人	八二
廢除事件及ヒ隱居事件	八二
ニ關スル手續	八四
第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ	八四

非訟事件手續法

第一章	總則	八八
第二章	民事非訟事件	八八
第三章	法人ニ關スル事件	九〇
第四章	財産ノ管理ニ關スル事件	九〇
第五章	信託ニ關スル事件	九三
第六章	裁判上ノ地位ニ關スル事件	九三
第七章	保存、供託、保管及ヒ	九四
第八章	鑑定ニ關スル事件	九四
第九章	隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件	九五
第十章	相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件	九六
第十一章	遺言ノ確認及ヒ執行	九六
第十二章	法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記	九七
第十三章	商事非訟事件	九七
第十四章	會社及ヒ發賣ニ關スル	九七

第一章	事件	九七
第二章	會計ノ清算ニ關スル事	九九
第三章	商標登記	九九
第四章	通則	九九
第五章	未成年者、妻及ヒ法	一〇一
第六章	定代理人ノ登記	一〇二
第七章	支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記	一〇二
第八章	算人ノ登記	一〇二
第九章	合名會社及ヒ合資會社ノ登記	一〇三
第十章	株式會社ノ登記	一〇四
第十一章	株式合資會社ノ登記	一〇五
第十二章	外國會社ノ登記	一〇六
第十三章	非訟事件手續法第二條第三項ノ指	一〇七
第十四章	定地	一〇七
第十五章	商事非訟事件印紙法	一〇七
第十六章	競賣法	一〇七
第十七章	通則	一〇八
第十八章	動産ノ發賣	一〇八
第十九章	不動産ノ發賣	一〇八
第二十章	船舶ノ發賣	一一〇
第二十一章	增價發賣	一一一
第二十二章	增價發賣	一一三

第一章	實體規定	一一三
第二章	總則	一一三
第三章	破産財團	一一三
第四章	破産債權	一一三
第五章	財團債權	一一三
第六章	法律行為ニ關スル破産ノ效力	一一六
第七章	否認權	一一八
第八章	取戻權	一一八
第九章	別除權	一一八
第十章	相殺權	一一八
第十一章	手續規定	一一八
第十二章	總則	一一八
第十三章	破産宣告	一一八
第十四章	破産管財人	一一八
第十五章	監査委員	一一八
第十六章	債權者集會	一一八
第十七章	破産財團ノ管理及換價	一一八
第十八章	破産債權ノ届出及調査	一一八
第十九章	配當	一一八
第二十章	強制和議	一一八
第二十一章	破産廢止	一一八
第二十二章	小破産	一一八
第二十三章	復權	一一八
第二十四章	罰則	一一八

第一章	總則	四二
第二章	和議ノ開始	四三
第三章	和議債權及其ノ届出	四三
第四章	債權者集會	四四
第五章	和議ノ認否	四五
第六章	和議ノ廢止	四五
第七章	讓歩及和議ノ取消	四六
第八章	罰則	四六

民事訴訟法

(明治二十三年四月二十一日法律第二十九號)

改正 (明治三十一法律一、四四、七二)

昭和六法律第一七

民事訴訟法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟中改正法律(大正十五年四月二十四日法律第六十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

民事訴訟法中左ノ通改正ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第五號ヲ以テ昭和四年十月一日ヨリ施行ス)

第一章 總則

第一節 裁判所

民事訴訟法 第一章 總則

第一條 訴ハ被告ノ普通裁判所所在地ノ裁判所ノ管轄ニ屬ス

△普通裁判所(二一四)

△合意管轄ノ制限(二七)

第二條 人ノ普通裁判所ハ住所ニ依リテ定ムル日本ニ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ普通裁判所ハ居所ニ依リ、居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定ムル

△居所(二一、二三)

△假住所(二四、九)

△地域(共通法一、九)

第三條 大使、公使其ノ他外國ニ在リテ治外法權ヲ享クル日本人カ前條ノ規定ニ依リ普通裁判所ハ東京市ニ在ルモノトス

△普通裁判所(二)

第四條 法人其ノ他ノ社團又ハ財團ノ普通裁判所ハ其ノ主タル事務所又ハ營業所ニ依リ當者ノ住所ニ依リテ定ムル

第五條 普通裁判所ハ訴訟ニ付國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定ムル

第六條 第一項ノ規定ハ外國ノ社團又ハ財團ノ普通裁判所ニ付テハ日本ニ於ケル事務所、營業所又ハ業務擔當者ニ之ヲ適用ス

△法人ノ住所(民五〇)

△會社ノ住所(商四四)

第七條 財產權上ノ訴ハ義務履行地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

△合意管轄ノ制限(二七)

ヲ爲スコトヲ得
移送ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ不
服ヲ申立ツルコトヲ得ス
△即時抗告ノ期間(四一五)
△抗告ノ方式(四一六)
第三十四條 移送ノ裁判確定シタルトキハ訴
訟ハ初ヨリ移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫屬シ
タルモノト看做ス
前項ノ場合ニ於テハ移送ノ裁判ヲ爲シタル
裁判所ノ書記ハ其ノ裁判ノ正本ヲ訴訟記録
ニ添附シ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之
ヲ送付スルコトヲ要ス
△訴訟事件ノ移送(三〇、三一)
第二節 裁判所職員ノ除斥、忌避
及回避
第三十五條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ法律上
其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラル
一 判事又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事
件ノ當事者ナルトキ又ハ事件ニ付當事
者ト共同權利者、共同義務者若ハ償還
義務者タル關係ヲ有スルトキ
二 判事カ當事者ノ四親等内ノ血族若ハ
三親等内ノ姻族ナルトキ又ハナリシト
キ
三 判事カ當事者ノ後見人、後見監督
人、保佐人又ハ戸主若ハ家族ナルトキ

四 判事カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲
リタルトキ
五 判事カ事件ニ付當事者ノ代理人又ハ
輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ
六 判事カ事件ニ付仲裁判所ニ開與シ又
ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁判ニ
關與シタルトキ但シ他ノ裁判所ノ囑託
ニ因リ受託判事トシテ其ノ職務ヲ行フ
コトヲ妨ケス
△上告ノ理由(三九五ノ二號)
△再審ノ理由(四二〇ノ二號)
△證人訊問(二七一以下)
△鑑定(三〇一)
△輔佐人(八八)
△仲裁判所(七八六以下)
△民七二五、七二六、九〇一以下、
九一〇以下
第三十六條 除斥ノ原因アルトキハ裁判所ハ
申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲
ス
△除斥ノ原因(三五)
△申立、申述ノ方式(一五〇)
第三十七條 判事ニ付裁判ノ公正ヲ妨クヘキ
事情アルトキハ當事者ハ之ヲ忌避スルコト
ヲ得當事者カ判事ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ
又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ
其ノ判事ヲ忌避スルコトヲ得但シ忌避ノ

原因カ其ノ後ニ生シ又ハ當事者カ其ノ原因
アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラ
ス
△上告ノ理由(三九五ノ二號)
△再審ノ理由(四二〇ノ二號)
△口頭辯論(二二五以下)
△準備手續(二四九以下)
第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル
申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ判事所屬ノ裁判
所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ヲ爲シタル日ヨ
リ三日内ニ之ヲ説明スルコトヲ要ス前條第
二項但書ノ事實亦同シ
△申立、申述ノ方式(一五〇)
△期間ノ計算(一五六以下)
△說明方法(二六七)
△回避(四二)
△印紙ノ貼用(民印六ノ二項)
第三十九條 合議裁判所ノ判事ノ除斥又ハ忌
避ニ付テハ其ノ裁判所、區裁判所ノ判事ノ
除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判所ノ所在地
ヲ管轄スル地方裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲
ス
△決定及命令(二〇四、二〇五、二〇七)
△合議裁判所(裁構三、一九、三二、三
四、四〇、四三、五三)
第四十條 判事ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付裁判

ニ關與スルコトヲ得但シ意見ヲ述フルコ
トヲ得
△除斥、忌避ノ裁判ノ管轄(三九)
第四十一條 除斥又ハ忌避ノ理由アリトスル
決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗
告ヲ爲スコトヲ得
△除斥、忌避ノ申立要件(三八)
第四十二條 除斥又ハ忌避ノ申立アリタルト
キハ其ノ申立ニ付テハ裁判ノ確定ニ依ル迄
訴訟手續ヲ停止スルコトヲ要ス但シ急遽ヲ
要スル行為ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
△除斥、忌避ノ申立要件(三八)
第四十三條 第三十五條及第三十七條第一項
ノ場合ニ於テハ判事ハ監督權アル判事ノ許
可ヲ得テ回避スルコトヲ得
△除斥ノ原因(三五)
△忌避ノ原因及時期(三七)
第四十四條 本節ノ規定ハ裁判所書記ニ之ヲ
準用ス此ノ場合ニ於テハ裁判ノ書記所屬ノ
裁判所ノ書記ニ對シテハ八五、九三)

能力者ノ法定代理ハ本法ニ別段ノ定アル場
合ヲ除ク外民法其ノ他ノ法令ニ從フ訴訟
行為ヲ爲スニ必要ナル授權亦同シ
△權利能力ノ始期(民一)
△外國人ノ權利能力(民二)
△法人ノ權利能力(民四三)
△胎兒ノ地位(民七二、九六八、九九三)
△未成年者ノ行為能力(民五、六)
△禁治產者(民八)
△禁治產者ノ行為能力(民一一)
△妻ノ行為能力(民一五)
第四十六條 法人ニ非サル社團又ハ財團ニシ
テ代表者又ハ管理入ノ定アルモノハ其ノ名
ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘララルコトヲ得
△法定代理ニ關スル規定ノ準用(五八)
△法人(民三三以下)
第四十七條 共同ノ利益ヲ有スル多數者ニシ
テ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ其中ヨ
リ總員ノ爲ニ原告若ハ被告ト爲ルヘキ一
人若ハ數人ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ
得
訴訟ノ費用ノ後前項ノ規定ニ依リテ原告又
ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ定ムタルトキハ他ノ
當事者ハ該訴訟ヨリ脱退ス
△授權ヲ證スル書面(五二)
△當事者ノ變更(五七、二項)
第四十八條 前條ノ規定ニ依リテ選定セラレ

タル當事者中死亡其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ
資格ヲ喪失シタル者アルトキハ他ノ當事者
ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得
△多數共同者ノ訴訟ト其ノ總代理人(四七)
第四十九條 未成年者及禁治產者ハ法定代理
人ニ依リテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得但
シ未成年者カ獨立シテ法律行為ヲ爲スコト
ヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
△上告ノ理由(三九五ノ二項四)
△再審ノ理由(四二〇ノ二項四)
△父又ハ母ノ代表(民八八四)
△後見人ノ代表權(民九二二)
第五十條 禁治產者、妻又ハ法定代理人カ
相手方ノ提起シタル訴又ハ上訴ニ付訴訟行
爲ヲ爲スニハ保佐人ノ同意、夫ノ許可又ハ
親族會ノ同意其ノ他ノ授權ヲ要セス
準禁治產者、妻又ハ法定代理人カ訴、控訴
若ハ上告ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認
諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル脱退ヲ爲ス
ニハ常ニ特別ノ授權アルコトヲ要ス
△當事者ノ脱退及ヒ效力(七二)
△訴ノ取下ト其ノ方式(二二六)
△控訴ノ取下(三六三)
△上告ノ取下(三九六)
△裁判上ノ和解(一三六)
△和解ノ申立(三五六)
△和解、請求ノ拋棄若ハ認諾ノ效力(二

○三
 第五十一條 外國人ハ其ノ本國法ニ依レハ訴訟能力ヲ有セザルトキト雖日本ノ法律ニ依レハ訴訟能力ヲ有スヘキトキハ之ヲ訴訟能力者ト看做ス
 △人ノ能力(法例三)
 第五十二條 法定代理權又ハ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス
 第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ選定及變更亦同シ
 前項ノ書面ハ訴訟記録ニ之ヲ添付スルコトヲ要ス
 △多數共同者ノ訴訟ト其ノ總代人(四七)
 △無能力者ノ訴訟能力(四九、五〇)
 第五十三條 訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メテ其ノ補正ヲ命ジ若シ補正ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ一時訴訟行為ヲ爲サシムルコトヲ得
 △當事者ノ資格ト準據法(四五)
 △無能力者又ハ外國人ノ訴訟能力(四九、五一)
 △期間ノ伸縮(二五八ノ一項)
 第五十四條 訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アル者カ爲シタル訴訟行為ハ其ノ欠缺ナキニ至リテ

當事者又ハ法定代理人ノ選定ニ因リ行爲ノ時ニ選リテ其ノ效力ヲ生ス
 △無能力者又ハ外國人ノ訴訟能力(四九、五一)
 第五十五條 第五十三條及前條ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者カ訴訟行為ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 △多數共同者ノ訴訟ト其ノ總代人(四七)
 第五十六條 法定代理人ナキ場合又ハ法定代理人カ代理權ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ未成年者又ハ禁治產者ニ對シ訴訟行為ヲ爲サシムル者ハ選定ノ爲メ損害ヲ受クル虞アルコトヲ曉明シテ受託裁判所ノ裁判長ニ特別代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得
 裁判所ハ何時ニテモ特別代理人ヲ改任スルコトヲ得
 特別代理人カ訴訟行為ヲ爲スニハ後見人ト同一ノ授權アルコトヲ要ス
 特別代理人ノ選任及改任ノ命令ハ特定代理人ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 △曉明方法(二六七)
 △送達(二六〇以下)
 △法定代理人(民八八四、九〇九、九二三)
 第五十七條 法定代理權ノ消滅ハ本人又ハ代

理人ヨリ之ヲ相手方ニ通知スルニ非サレハ其ノ効ナシ
 前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ變更ニ之ヲ準用ス
 △代理權ノ消滅(民一一一)
 △親權ノ喪失(民八九六以下)
 △多數共同者ノ訴訟ト其ノ總代人(四七)
 第五十八條 本法中法定代理及法定代理人ニ關スル規定ハ法人ノ代表者及法人ニ非スシテ其名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘララルコトヲ得ル社團又ハ財團ノ代表者又ハ管理人ニ之ヲ準用ス
 △非法人ノ代表者又ハ管理人ノ訴訟資格(四六)
 第二節 共同訴訟
 第五十九條 訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ數人ニ付共通ナルトキ又ハ同一ノ事實上及法律上ノ原因ニ基クテキハ其數人ハ共同訴訟人トシテ訴ヘ又ハ訴ヘララルコトヲ得
 訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ同種ニシテ事實上及法律上同種ノ原因ニ基クテキ亦同シ
 △共有(民二四九)
 △不可分債權(民四二八)
 △連帶債務(民四三二)
 △共同不法行爲(民七一九)
 △決議無効ノ訴(商一六三)

第六十條 他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲メ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ屬中當事者雙方ヲ共同被告トシ第一審ノ受託裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得
 第六十一條 共同訴訟人ノ一人ノ訴訟行為又ハ之ニ對スル相手方ノ訴訟行為及其ノ一人ニ付生シタル事項ハ他ノ共同訴訟人ニ影響ヲ及ボサス
 第六十二條 訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ一人ノ訴訟行為ハ全員ノ利益ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ス
 共同訴訟人ノ一人ニ對スル相手方ノ訴訟行為ハ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス
 共同訴訟人ノ一人ニ付訴訟手續ノ中断又ハ中止ノ原因アルトキハ其中斷又ハ中止ハ全員ニ付其ノ效力ヲ生ス
 △共有物ノ變更(民二五一)
 △貸借借ト抵當權者(民三九五)
 △決議無効ノ訴(商一六三)
 △訴訟手續ノ中断及中止(二〇八以下)
 第六十三條 第五十條第一項ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ於テ共同訴訟人ノ一人カ提起シタル上訴ニ付他ノ共同訴訟人ノ爲スヘキ訴訟行為ニ之ヲ準用ス
 △無能力者ノ訴訟能力(五〇)
 △控訴ノ物體(三六〇)

△上告ノ物體(三九三)
 △抗告ノ物體(四一〇)
 第三節 訴訟參加
 第六十四條 訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ訴訟ノ屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ訴訟ニ參加スルコトヲ得
 △第三者ニ對スル執行力(四九七ノ二)
 第六十五條 參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ具シ參加ニ依リテ訴訟行為ヲ爲スヘキ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 書面ニ依リテ參加ノ申出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ書面ハ之ヲ當事者雙方ニ送達スルコトヲ要ス
 參加ノ申出ハ參加人トシテ爲シ得ル訴訟行為ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 △送達(二六〇以下)
 第六十六條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ曉明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス
 前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △曉明方法(二六七)
 △口頭辯論(二二五)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)

△即時抗告期間(四一五)
 第六十七條 當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘシテ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ異議ヲ述フル權利ヲ失フ
 △口頭辯論(二二五以下)
 △準備手續(二四九以下)
 第六十八條 參加人ハ參加ニ付異議アル場合ニ於テモ參加ヲ許ササル裁判確定セサル間ハ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得
 參加人ノ訴訟行為ハ當事者カ之ヲ援用シタルトキハ參加ヲ許ササル裁判確定シタル場合ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス
 △從參加ノ異議及其ノ裁判(六六ノ一項)
 第六十九條 參加人ハ訴訟ニ付攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ提出、異議ノ申立、上訴ノ提起其ノ他一切ノ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得但シ參加ノ時ニ於ケル訴訟ノ程度ニ從ヒ爲スコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス
 參加人ノ訴訟行為カ被參加人ノ訴訟行為ト抵觸スルトキハ其ノ效力ヲ有セス
 △攻撃防禦ノ提出時期(一三七)
 △控訴ノ物體(三六〇)
 △上告ノ物體(三九三)
 △抗告ノ物體(四一〇)
 第七十條 前條ノ規定ニ依リテ參加人カ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得又ハ其ノ訴訟行為カ效力ヲ有セザリシ場合、被參加人カ參加人

ノ訴訟行為ヲ妨ケタル場合及被參加人カ參加人ノ爲スコト能ハサル訴訟行為ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲サザリシ場合ヲ除クノ外裁判ハ參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

△訴訟告知ノ效力(七八)

第七十一條 訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ侵害ラルヘキコトヲ主張スル第三者又ハ訴訟ノ目的ノ全部若ハ一部カ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル第三者ハ當事者トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十二條及第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條 前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲メ訴訟ニ參加シタル者アル場合ニ於テハ參加前ノ原告又ハ被告ハ相手方ノ承諾ヲ得テ訴訟ヨリ脱退スルコトヲ得但シ判決ハ脱退シタル當事者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

△第三者ニ對スル執行力(四九七ノ二)

第七十三條 訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタルコトヲ主張シ第七十一條ノ規定ニ依リテ訴訟ニ參加スルコトヲ得其ノ參加ハ訴訟ノ繫屬ノ初ニ過リテ時効ノ中断又ハ法律上ノ期間遵守ノ效力ヲ生ス

△時効中断ノ原因(民一四七)

第七十四條 訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承継シタルトキハ裁判所

ハ當事者ノ申立ニ因リ其ノ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受ケシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依リテ決定ヲ爲ス前當事者及第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

第七十二條ノ規定中脱退及判決ノ效力ニ關スルモノハ第一項ノ規定ニ依リテ訴訟ノ引受アリタル場合ニ之ヲ準用ス

△申立、申述ノ方式(二五〇)

△訴訟審理ノ方式(二五〇)

第七十五條 訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合ニシテ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

△參加ノ申出(六五)

第七十六條 當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得ル第三者ニ其ノ訴訟ノ告知ヲ爲スコトヲ得

△從參加ノ要件(六四)

△主參加ノ要件(七一)

△債務承継ト訴訟ノ引受(七四)

△必要ノ共同訴訟(七五)

△訴訟ノ告知(七七、七八)

第七十七條 訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ

記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ相手方ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

△口頭辯論(二二五以下)

△準備手續(二四九以下)

第七十八條 訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セザリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ノ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス

△從參加ノ效力(七〇)

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第七十九條 法令ニ依リテ裁判上ノ行為ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得ス但シ區裁判所ニ於テハ許可ヲ得テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

△上告ノ理由(三九五ノ一項四)

△再審ノ理由(四二〇ノ一項三)

△支配人ノ代理權(商三〇ノ一項)

△船舶管理人之代理權(商五五三ノ一項)

△船長ノ代理權(五六六ノ一項)

△辯護士ノ職務(辯二)

第八十條 訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之

ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面カ私文書ナルトキハ裁判所ハ該該吏員ノ認許ヲ受クヘキ旨ヲ訴訟代理人ニ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ當事者カ口頭ヲ以テ訴訟代理人ヲ選任シ裁判所書記カ圖書ニ其ノ陳述ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

△訴訟代理ノ準用規定(八七)

△訴訟記録ニ添付スル書面(五二ノ二項)

第八十一條 訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル訴訟行為ヲ爲シ且辨濟ヲ受領スルコトヲ得

左ニ掲ケル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ受クルコトヲ要ス

一 反訴ノ提起

二 訴ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル脱退

三 控訴、上告又ハ其ノ取下

四 代理人ノ選任

訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得ス但シ辯護士ニ非サル訴訟代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

△代理人ノ權限(八二)

△反訴提起ノ要件(二九九)

△訴訟參加(六四以下)

△強制執行(四九七以下)

△假差押及假處分(七三七以下)

△訴ノ取下(二二六)

△裁判上ノ和解(一三六、三五六)

△請求ノ拋棄又ハ認諾(二〇三)

△當事者ノ脱退(七一)

△控訴(三六〇)

△上告(三九三)

第八十二條 前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行為ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨ケス

△支配人ノ代理權(商三〇ノ一項)

△船舶管理人之代理權(商五五三ノ一項)

△船長ノ代理權(商五六六ノ一項)

第八十三條 數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス

當事者カ前項ノ規定ニ異ル定ヲ爲スモ其ノ效力ヲ有セズ

△支配人ノ共同代理(商三〇ノ二項)

第八十四條 訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生セズ

第八十五條 訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因ル消滅、當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅、變更ニ因リテ消滅セ

△訴訟手續ノ中断及中止(二〇八一—二一)

一

△中断規定ノ不適用(二二三)

第八十六條 一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メ訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セズ

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者カ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 第五十二條第二項、第五十三條、第五十四條及第五十七條ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

第八十八條 當事者又ハ訴訟代理人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ輔佐人ト共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

輔佐人ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

△訴訟代理人陳述取消更正ノ效力(八四)

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔

第八十九條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

△證據保全ニ關スル費用(二五二)
 △訴訟費用(民費用法以下)
 第九十條 裁判所ハ事情ニ從ヒ勝訴ノ當事者ヲシテ其ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナル費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
 △訴訟費用(民費用法以下)
 第九十一條 當事者カ適當ノ時期ニ攻擊若ハ防禦ノ方法ヲ提出セサル爲メ又ハ期日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ訴訟ヲ遲滞セシムタルトキハ裁判所ハ之ヲシテ其勝訴ノ場合ニ於テモ遲滞ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
 △訴訟費用(民費用法以下)
 第九十二條 一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得
 △訴訟費用(民費用法以下)
 第九十三條 共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ裁判所ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔

セシメ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ負擔セシムルコトヲ得
 裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナル費用ヲ爲シタル當事者ヲシテ其ノ行為ニ因リテ生シタル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得
 △共同訴訟(五九以下)
 第九十四條 第八十九條乃至前條ノ規定ハ當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタル場合ニ於テハ其ノ異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ加入ト異議ヲ述ヘタル當事者トノ間ニ於ケル負擔ニ關シ之ヲ準用ス參加ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ加入ト相手方トノ間ニ於ケル負擔ニ付亦同シ
 △訴訟費用ノ負擔(八九九三)
 △訴訟參加(六四以下)
 第九十五條 裁判所ハ事件ヲ完結スル裁判ニ於テ職權ヲ以テ其ノ審級ニ於ケル訴訟費用ノ全部ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ事情ニ從ヒ事件ノ一部又ハ中間ノ争ニ關スル裁判ニ於テ其ノ費用ノ裁判ヲ爲スコトヲ得
 △判決ノ種類及判決ヲ爲ス時期(一八二一)
 第九十六條 上級裁判所カ本案ノ裁判ヲ變更スル場合ニ於テハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所カ其ノ事件ヲ完結スル裁判ヲ爲

ス場合亦同シ
 △訴訟事件ノ移送(三〇、三一)
 △差戻判決(三八九)
 △差戻又ハ移送(四〇七)
 第九十七條 當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定メ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス
 △裁判上ノ和解(一三五)
 △和解ノ申立ト其ノ效果(三五六)
 △和解ト訴訟費用ノ裁判(一〇三)
 第九十八條 法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生セシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行為ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得ザリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行為ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス
 前二項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △授權ヲ證スル書面(五二二)
 △授權ノ欠缺ト追認ノ效力(五四)

△申立、申述ノ方式(一五〇)
 △訴訟審理ノ方式(一一五)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △即時抗告ノ提起(四一五)
 第九十九條 裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴訟ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行為ヲ爲シタル者ノ負擔トス
 第一百條 裁判所カ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ其ノ裁判カ執行力ヲ生シタル後申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ定ム
 訴訟費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ原本並費用額ノ説明ニ必要ナル書面ヲ提出スルコトヲ要ス
 第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △説明方法(二六七)
 △即時抗告ノ提起(四一五)
 △訴訟費用額計算(一〇五)
 第一百一條 裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス前相手方ニ費用計算書ノ原本ヲ交付シ陳述ヲ爲スヘキ旨並一定ノ期間内ニ費用計算書及費用額ノ説明ニ必要ナル書面ヲ提出スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス
 相手方カ期間内ニ前項ノ書面ヲ提出セザル

トキハ裁判所ハ申立人ノ費用ノミニ付裁判ヲ爲スコトヲ得但シ相手方ノ費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ妨ケス
 △訴訟費用額確定ノ裁判手續(一〇〇)
 △期間ノ伸縮(一五八ノ一項)
 △説明方法(二六七)
 第一百二條 裁判所カ訴訟費用額ヲ定ムル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ前條第二項ノ場合ヲ除ク外各當事者ノ負擔スヘキ費用ハ其ノ對當額ニ付相殺アリタルモノト看做ス
 △訴訟費用額確定ノ裁判手續(一〇一)
 △相殺(民五〇五ノ一項)
 第一百三條 第九十九條ノ場合ニ於テ當事者カ訴訟費用ノ負擔ヲ定メ其ノ額ヲ定メサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ其ノ額ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第一百二條第二項第三項、第一百一條及前條ノ規定ヲ準用ス
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △和解ト訴訟費用ノ負擔(九七)
 第一百四條 前條ノ場合ヲ除ク外訴訟カ裁判ニ因ラスシテ完結シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ訴訟費用ノ額ヲ定メ且其負擔ヲ命スルコトヲ要ス參加又ハ之ニ付テノ異議ノ取下アリタルトキ亦同シ
 第八十九條乃至九十四條、第一百條第二項第

三項、第一百一條及第一百二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 △和解、請求ノ拋棄若ハ認諾ノ效力(二〇三)
 △取下ノ效力(二三七)
 △控訴ノ取下(三六三)
 △上告審ノ訴訟手續(三九六)
 △從參加ノ要件(六四)
 △訴訟費用額ノ計算(一〇五)
 第一百五條 裁判所ハ裁判所書記ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲サシムルコトヲ得
 △訴訟費用ノ負擔(八九九八)
 第一百六條 費用ヲ要スル行為ニ付テハ裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得
 當事者カ裁判所ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セザルトキハ裁判所ハ前項ノ行為ヲ爲ササルコトヲ得
 第二節 訴訟費用ノ擔保
 第一百七條 原告カ日本ニ住所、事務所及營業所ヲ有セザルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ訴訟費用ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ原告ニ命スルコトヲ要ス擔保ニ不足ヲ生シタルトキ亦同シ
 前項ノ規定ハ請求ノ一部ニ付争ナキ場合ニ於テ其ノ額カ擔保ニ十分ナルトキハ之ヲ適

用セズ
 △住所(民二二四、二四、五〇)
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 第百八條 擔保ヲ供スヘキ事由アルコトヲ知
 リタル後被告カ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準
 備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ擔保ノ
 申立ヲ爲スコトヲ得ス
 △擔保提供ノ申立(二〇七)
 △準備手續(二四九以下)
 第百九條 擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告
 カ擔保ヲ供スル迄應訴ヲ拒ムコトヲ得
 第百十條 裁判所ハ擔保ヲ供スヘキコトヲ命
 スル決定ニ於テ擔保額及擔保ヲ供スヘキ期
 間ヲ定ムルコトヲ得ス
 擔保額ハ被告カ各審ニ於テ支出スヘキ費用
 ノ總額ヲ標準トシテ之ヲ定ム
 △擔保提供ノ申立(二〇七)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △期間ノ伸縮(二五八)
 第百十一條 擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シ
 テハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第百十二條 擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判
 所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコト
 ヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタル
 トキハ其ノ契約ニ依ル
 第百十三條 被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定

ニ依リテ供託シタル金錢又ハ有價證券ノ上
 ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス
 △質權(民三四二以下)
 第百十四條 原告カ擔保ヲ供スヘキ期間内ニ
 之ヲ供セザルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經
 スシテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但
 シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在
 ラス
 △訴訟審理ノ方式(二二五ノ三項)
 第百十五條 擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由
 止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ
 申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要
 ス
 擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利
 者ノ同意ヲ得タルコトヲ證明シタルトキ亦
 前項ニ同シ
 訴訟ノ完結後裁判所カ擔保ヲ供シタル者ノ
 申立ニ因リ擔保權利者ニ對シ一定ノ期間内
 ニ其ノ權利ヲ行使スヘキ旨ヲ催告シ擔保權
 利者カ其ノ行使ヲ爲サザルトキハ擔保取消
 ニ付擔保權利者ノ同意アリタルモノト看做
 ス
 第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテ
 ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)

第百十六條 裁判所ハ擔保ヲ供シタル者ノ申
 立ニ因リ決定ヲ以テ供託シタル擔保物ノ變
 換ヲ命スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ供託シタル擔保ヲ契約ニ因リ
 テ他ノ擔保ニ變換スルコトヲ妨ケス
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 第百十七條 第百九條、第百十條第一項及第
 百十一條乃至前條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リ
 テ訴ノ提起ニ付供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス
 △決議無効ノ訴提起ノ擔保(商一六三ノ
 三項)
 △選舉訴訟ノ保證法(衆選八七)
 第三節 訴訟上ノ救助
 第百十八條 訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ者ニ
 對シテハ裁判所ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助
 ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非
 サルトキニ限ル
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 △即時抗告(二二四)
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第百十九條 訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ
 與フ救助ノ事由ハ之ヲ說明スルコトヲ要ス
 △說明ノ方法(二六七)
 第百二十條 訴訟上ノ救助ハ訴訟及強制執行
 ニ付左ノ效力ヲ生ス

一 裁判費用ノ支拂ノ擔保
 二 執達吏及裁判所ニ於テ附添フ命シク
 ル辯護士ノ報酬及立替金ノ支拂ノ擔保
 三 訴訟費用ノ擔保ノ免除
 △強制執行(四九七以下)
 △救助費用徵收方法(二二三)
 △辯護士ノ添附(一三五ノ二項)
 第百二十一條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル
 者ノ爲ニシテ其ノ效力ヲ有ス
 裁判所ハ訴訟ノ承継人ニ對シ擔保シタル費
 用ノ支拂ヲ命ス
 △訴訟ノ引受(七四ノ一項)
 △訴訟手續ノ中断(二〇八ノ一項)
 △即時抗告(二二四)
 第百二十二條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ
 訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス資力ヲ有スルコトヲ判
 明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟
 記録ノ存スル裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ
 因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニモ救助ヲ取消
 シ猶豫シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命スルコト
 ヲ得
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 △即時抗告(二二四)
 第百二十三條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ
 支拂フ擔保シタル費用ハ其負擔ヲ命セラレ
 タル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ
 得此ノ場合ニ於テ辯護士又ハ執達吏ハ訴訟

上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル債務名義ニ
 依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立
 及強制執行ヲ爲スコトヲ得
 辯護士又ハ執達吏ハ報酬及立替金ニ付當事
 者ニ代リ第百三條又ハ第百四條ノ裁判ヲ求
 ムル申立ヲ爲スコトヲ得
 △訴訟上ノ救助附與ノ效力(二二〇)
 △訴訟費用額ノ裁判(二〇三)
 △訴ノ取下其ノ他ノ場合ト費用額ノ裁判
 (二〇四)
 第百二十四條 本節ニ規定スル裁判ニ對シテ
 ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第四章 訴訟手續
 第一節 口頭辯論
 第百二十五條 當事者ハ訴訟ニ付裁判所ニ於
 テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス但シ決定ヲ以
 テ完結スヘキ事件ニ付テハ裁判所口頭辯論
 ヲ爲スヘキカ否ヲ定ム
 前項但書ノ規定ニ依リテ口頭辯論ヲ爲サザ
 ル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ヲ審訊スル
 コトヲ得
 前二項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ニハ之
 ヲ適用セズ
 △辯論期日ノ指定(二二〇)

△決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △口頭辯論ヲ經サル裁判ニ擔保提供ノ決
 定(二一四)一訴ノ却下(二〇二)一裁判
 前第三者ノ審訊(三一四)一作為不作爲
 債權ノ執行通則(七三五)一假差押ノ命
 令(七四二)一假處分ノ命令(七五六)一
 抗告ノ審理(四一九)
 第百二十六條 口頭辯論ハ裁判長之ヲ指揮ス
 裁判長ハ發言ヲ許シ又ハ其ノ命ニ從ハサル
 者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得
 △辯論指揮ニ關スル裁判(二一九)
 第百二十七條 裁判長ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラ
 シムル爲事實上及法律上ノ事項ニ關シ當事
 者ニ對シテ問ヲ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ
 得
 陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ前項ニ規定スル
 處置ヲ爲スコトヲ得
 當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求ム
 ルコトヲ得
 △辯論指揮ニ關スル裁判(二一九)
 △陪席判事ノ發問權(二九八)
 △當事者ノ發問權(二九九)
 第百二十八條 裁判長ハ前條ノ規定ニ依リテ
 當事者ヲシテ釋明セシムヘキ事項ヲ指示シ
 口頭辯論期日前準備ヲ爲スヘキコトヲ命ス
 ルコトヲ得
 △訴訟關係ノ釋明(二二七)

第二百二十九條 當事者カ辯論ノ指揮ニ關スル
 裁判長ノ命又ハ第二百二十七條若ハ前條ノ規
 定ニ依ル裁判長若ハ陪席判事ノ處置ニ對シ
 異議ヲ進ヘタルトキハ裁判所決定ヲ以テ其
 ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス

△口頭辯論主義(一一五)
 △辯論ノ指揮(一一六)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 第三百十條 受命判事ヲシテ其ノ職務ヲ行ハ
 シムヘキ場合ニ於テハ裁判長其ノ判事ヲ指
 定ス

裁判所ノ爲ス嘱託ハ別段ノ規定アル場合ヲ
 除ク外裁判長之ヲ爲ス

△裁判上ノ和解(一一六)
 △準備手續(二四九)
 △裁判外ノ證據(二六五)
 △出頭セサル證人ノ訊問(二七九)
 △法定代理人ノ訊問(三四二)
 △調査ノ囑託(三三一、三三二)
 第三百十一條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラ
 シムル爲メ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出
 頭ヲ命スルコト
 二 訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル
 文書其ノ他ノ物件ニシテ當事者ノ所持
 スルモノヲ提出セシムルコト
 三 當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書

其ノ他ノ物件ヲ裁判所ニ留置クコト
 四 檢査ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルコト
 五 必要ナル調査ヲ囑託スルコト

前項ノ規定スル檢査、鑑定及調査ノ囑託ニ
 付テハ證據ニ關スル規定ヲ準用ス

△檢査(三三三以下)
 △鑑定(三〇一以下)
 △調査ノ囑託(二六二)
 △父又ハ母ノ代表權(八八四)
 △後見人ノ代表權(九二二)
 第三百十二條 裁判所ハ口頭辯論ノ制限、分
 離若ハ併合ヲ命シ又ハ其ノ命ヲ取消スコト
 ヲ得

第三百十三條 裁判所ハ終結シタル口頭辯論
 ノ再開ヲ命スルコトヲ得

第三百十四條 辯論ニ與ル者カ日本語ニ通セ
 サルトキ又ハ辯論ニ與ル者カ日本語ニ通セ
 會ハシムル但シ辯論者ハ啞者ニハ文字ヲ以テ
 問ヒ又ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定人ニ關スル規定ハ通事ニ之ヲ準用ス

△鑑定(三〇一以下)
 △裁判所ノ用語(機構一一五)
 第三百十五條 裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラ
 シムル爲メ必要ナル陳述ヲ爲スコト能ハサル
 當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ禁シ辯
 論進行ノ爲メ新期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁シタル場合ニ
 於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ辯護
 士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

訴訟代理人ノ陳述ヲ禁シ又ハ辯護士ノ附添
 ヲ命シタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知スル
 コトヲ要ス

△訴訟代理人ノ資格(七九)
 △輔佐人(八八)
 第三百十六條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度
 ニ在ルヲ問ハズ和解ヲ試ミ又ハ受命判事若
 ハ受託判事ヲシテ之ヲ試シシムルコトヲ得

裁判所又ハ受命判事若ハ受託判事ハ和解ノ
 爲メ當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ
 命スルコトヲ得

△裁判上ノ和解ト訴訟費用(九七)
 △和解、請求ノ拋棄若ハ認諾(二〇三)
 △和解ノ申立(三五六)
 △父又ハ母ノ代表權(民八八四)
 △後見人ノ代表權(民九二二)
 第三百十七條 攻撃又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ
 規定アル場合ヲ除ク外口頭辯論ノ終結ニ
 至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得

△準備手續ト口頭辯論ノ關係(二五五)
 △第一審ニ於ケル準備手續ノ效力(三八
 〇)
 △攻撃防禦方法ノ却下(一三九)
 第三百十八條 原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘ
 キ口頭辯論ノ期日ニ出頭セズ又ハ出頭スル

モ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ書ノ提出
 シタル訴訟、答辯書其ノ他ノ準備書類ニ
 記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト爲
 做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコト
 ヲ得

△訴訟ノ要件(二二四)
 △準備書類ノ記載事項(二四四)
 △準備書類ノ事實主張ノ制限(二四七)
 第三百十九條 當事者カ故意又ハ重大ナル過
 失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻撃又ハ
 防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシ
 ムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立
 ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコ
 トヲ得

攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明瞭ナ
 ラサルモノニ付當事者カ必要ナル證明ヲ爲
 サス又ハ證明ヲ爲スヘキ期日ニ出頭セサル
 トキ亦前項ニ同シ

△申立、申述ノ方式(一五〇)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △裁判長ノ聲明(一一七、一一八)
 第四百十條 當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方
 ノ主張シタル事實ヲ明ニ争ハサルトキハ其
 ノ事實ヲ自白シタルモノト爲做ス但シ辯論
 ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト
 認ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

認ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラサル旨ノ陳
 述ヲ爲シタル書ハ其ノ事實ヲ争ヒタルモノ
 ト推定ス

△聲明ヲ要セサル事實(二五七)
 第四百十一條 當事者カ訴訟手續ニ關スル規
 定ノ趣旨ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカ
 リシ場合ニ於テ過當ナル異議ヲ進ヘサル
 トキハ之ヲ述ベル權利ヲ失フ但シ拋棄スルコ
 トヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四百十二條 口頭辯論ニ付テハ裁判所書記
 期日毎ニ圖書ヲ作ルコトヲ要ス

△口頭辯論圖書ノ形式ノ事項(一四三)
 △辯論ノ方式ニ關スル聲明(一四七)
 第四百十三條 圖書ニハ左ノ事項ヲ記載シ
 裁判長及裁判所書記之ニ署名捺印シ裁判長支
 障アルトキハ陪席判事其ノ署名捺印シ順次之
 ニ代リテ署名捺印シ且其ノ事由ヲ記載スル
 コトヲ要ス但シ判事皆支障アルトキハ書記
 其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

一 事件ノ表示
 二 判事及裁判所書記ノ氏名
 三 立會ヒタル檢査ノ氏名
 四 出頭シタル當事者、代理人、輔佐人
 及通事檢査官シタル當事者ノ氏名
 五 辯論ノ場所及年月日
 六 辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セザ
 ル場合ニ於テハ其ノ理由

△口頭辯論圖書ノ作成(一四二)

△訴訟代理人ノ資格(七九)
 △輔佐人(八八)
 △通事ノ立會(一三四)
 △上告ノ理由(三九五)
 △裁判ノ公開(三五九)
 △合議裁判所ノ構成機構(三三、四
 〇、五三)
 第四百十四條 圖書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ
 殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス

一 和解、認諾、拋棄、取下及自白
 二 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述
 三 檢査ノ結果
 四 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事
 者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
 五 書面ニ作ラサル裁判
 六 裁判ノ言渡

△裁判上ノ和解(一三六)
 △和解ノ申立(三五六)
 △和解、請求ノ拋棄若ハ認諾ノ效力(二
 〇三)
 △控訴權ノ拋棄(三六四)
 △上告ノ準用規定(三九六)
 △抗告ノ準用規定(四一四)
 △訴訟ノ取下(三三六)
 △證人宣誓ノ方式(二八五)
 △鑑定人宣誓ノ方式(三〇七)
 △判決ノ言渡ノ效力(一八八)

△決定、命令ノ準用ノ規定(二〇七)
 第四百四十五條 調書ニハ書面、寫眞其ノ他該
 判所ニ於テ適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟
 記録ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコト
 ヲ得
 △口頭辯論調書ノ作成(二〇八)
 第四百四十六條 調書ノ記載ハ申立ニ因リ法廷
 ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閱覽セシ
 メ且調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 調書ノ記載ニ付關係人カ異議ヲ述ヘタルト
 キハ調書ニ其ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 △申立、申述ノ方式(二〇九)
 △調書記載ノ異議(二一〇)
 第四百四十七條 口頭辯論ノ方式ニ關スル規定
 ノ遵守ハ調書ニ依リテ之ヲ證スルコト
 ヲ得但シ調書カ滅失シタルトキハ此ノ限ニ
 在ラス
 △口頭辯論調書ノ作成(二一一)
 第四百四十八條 裁判所必要アリト認ムルトキ
 ハ申立ニ因リ又ハ裁補ヲ以テ速記者ヲシテ
 口頭辯論ニ於ケル陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆
 記セシムルコトヲ得
 △審訊、審問ノ準用規定(二四九)
 第四百四十九條 第四百四十二條乃至前條ノ規定
 ハ裁判所ノ審訊、受命判事又ハ受託判事ノ
 審問及證據調ニ之ヲ準用ス
 △口頭辯論調書ノ作成(二四二)

△調書ノ形式的事項(二四三)
 △調書ノ實質的事項(二四四)
 △調書ノ書面其ノ他引用(二四五)
 △調書ノ讀ミ聽セ及閱覽(二四六)
 △辯論方式ノ證明(二四七)
 △筆記者ノ使用(二四八)
 第四百五十條 申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定
 アル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之
 ヲ爲スコトヲ得
 口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ裁判所書記ノ面
 前ニ於テ申述ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テハ書記調書ヲ作り之ニ署
 名捺印スルコトヲ要ス
 △訴訟告知ノ書面(七七)
 △訴訟原因ノ變更(二二三)
 △請求擴張ノ方式(二三四)
 △請求取下げノ方式(二三五)
 △訴訟ノ準備(二四二)
 第四百五十一條 當事者ハ訴訟記録ノ閱覽若ハ
 謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若クハ訴訟
 ニ關スル事項ノ證明書ヲ交付シ裁判所書記
 ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ曉明シタル
 第三者亦同シ
 訴訟記録ノ正本、謄本又ハ抄本ニハ其ノ正
 本、謄本又ハ抄本ナルコトヲ記載シ書記之
 ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺捺スルコト

ヲ要ス
 △曉明方法(二六七)
 第四百五十二條 期日ハ裁判長之ヲ定ム
 受命判事又ハ受託判事ノ審問ノ期日ハ其ノ
 期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ裁補ヲ以テ之
 ヲ爲ス
 口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ノ變更ハ顯著
 ナル事由ノ存セサルトキト雖當事者ノ合意
 アル場合ニ於テハ之ヲ許ス準備手續ニ於ケ
 ル最初ノ期日ノ變更亦同シ
 △剩餘ノ見込アル場合ノ變賣進行手續
 (六五七)
 △代金ノ支拂配當實施ノ呼出(六九三)
 第四百五十三條 期日ハ已ムコトヲ得サル場合
 ニ限リ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ定ムル
 コトヲ得
 △裁判所ノ休日(昭和勅令第二五號)
 第四百五十四條 期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ
 送達シテ之ヲ爲ス但シ該事件ニ付頭シ
 タル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ以テ足
 ル
 △期日ノ指定又ハ變更(一五二)
 △送達(二六〇以下)
 第四百五十五條 期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ

開始ス
 △期日ノ指定又ハ變更(一五二)
 第四百五十六條 期間ノ計算ハ民法ニ從フ
 期間ノ末日カ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當
 ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス
 △期間(民法一三九、一四一、一四三)
 第四百五十七條 期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期
 ヲ定メサルトキハ其ノ期間ハ裁判カ効力ヲ
 生シタル時ヨリ進行ヲ始ム
 △授権欠缺ノ效果(五)
 △訴訟費用額確定ノ裁判(一〇一ノ一項)
 △擔保提供期間指定(一〇一ノ一項)
 △訴狀要件ノ不備(二二八ノ一項)
 △答辯書提出命令(四〇〇)
 第四百五十八條 裁判所ハ法定期間又ハ其ノ定
 メタル期間ヲ俾長シ又ハ之ヲ短縮スルコト
 ヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラス
 不變期間ニ付テハ裁判所ハ違隔ノ地ニ住所
 又ハ居所ヲ有スル者ノ爲附加期間ヲ定ムル
 コトヲ得
 裁判長、受命判事又ハ受託判事ハ其ノ定メ
 タル期間ヲ俾長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ
 得
 △不變期間ノ控訴期間(三六六)ト上告期
 間(三九六)ト即時抗告期間(四一五)ト
 申訴ノ訴擧起期間(四二四)ト支拂命令
 ニ對スル異議申立期間(四四〇)ト除權

判決ニ對スル不服申立期間(七七五)ト
 仲裁判斷取消ノ訴擧起期間(八〇四)
 第四百五十九條 當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラ
 サル事由ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコト能
 ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル
 後一週間内ニ限リ懈怠シタル訴訟行為ノ追
 完ヲ爲スコトヲ得此ノ期間ニ付テハ前條ノ
 規定ヲ適用セス
 △期間ノ計算(二三六)
 第三節 送達
 第四百六十條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除
 ク外職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 第四百六十一條 送達ニ關スル事務ハ裁判所書
 記之ヲ取扱フ
 前項ノ事務ノ取扱ハ送達地ノ區裁判所ノ書
 記ニ之ヲ屬トスルコトヲ得
 第四百六十二條 送達ハ執達吏又ハ郵便ニ依リ
 之ヲ爲ス
 郵便ニ依ル送達ニ在リテハ郵便集配人ヲ以
 テ送達ヲ爲ス吏員トス
 △送達證書(七七)
 △執達吏ノ職務(執規一)
 第四百六十三條 當該事件ニ付頭シタル者ニ
 對シテハ裁判所書記自ラ送達ヲ爲スコトヲ
 得
 △送達證書(二七七)

第四百六十四條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ
 除ク外送達ヲ受クヘキ者ニ送達スヘキ書
 類ノ謄本ヲ交付シテ之ヲ爲ス
 送達スヘキ書類ノ提出ニ代ヘ調書ヲ作りタ
 ルトキハ其ノ調書ノ謄本又ハ抄本ヲ交付シ
 テ送達ヲ爲ス
 △期日ノ呼出(二五四)
 △判決ノ送達(一九三)
 △假執行宣言ノ送達(四三八ノ二項)
 第四百六十五條 訴訟無能力者ニ對スル送達ハ
 其ノ法定代理人ニ之ヲ爲ス
 △訴訟當事者(四五)
 △親權者(民八八四)
 △後見人(民九二二)
 第四百六十六條 數人カ共同シテ代理權ヲ行フ
 ヘキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲
 スヲ以テ足ル
 △數人ノ訴訟代理人(八三)
 第四百六十七條 軍事用ノ艦舍又ハ艦船ニ屬ス
 ル者ニ對スル送達ハ艦舍又ハ艦船ノ長ニ之
 ヲ爲ス
 第四百六十八條 在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ
 長ニ之ヲ爲ス
 第四百六十九條 送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住
 所、居所、營業所ハ事務所ニ於テ之ヲ爲
 ス但シ法定代理人ニ對スル送達ハ本人ノ營
 業所又ハ事務所ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

送達ヲ受クヘキ者カ日本ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スルコト明ナラサルトキハ送達ハ其ノ者ニ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者カ送達ヲ受クルコトヲ拒マサルトキ亦同シ

△無能力者ニ對スル送達(一六五)
△送達場所及送達受取人ノ届出(一七〇)

第百七十條 當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受取裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ裁判所ノ所在地ニ於テ送達ヲ受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ届出ツルコトヲ要ス送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛テ書留郵便ニ付シテ之ヲ送達スルコトヲ得第一項ノ届出ハ送達ヲ受クヘキ者カ受取裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

△郵便ニ付スル送達(一七三)
△送達場所及送達受取人ノ届出(一七〇)
△訴訟代理人ノ資格(七九)

第百七十一條 送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ハサルトキハ事務所員、雇人又ハ同居者ニシテ事理ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得前項ニ掲タル者其他書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スヘキ場所ニ書類ヲ差置クコトヲ得

第百七十二條 前條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所書記書留郵便ニ付シテ之ヲ送達スルコトヲ得
△送達場所及送達受取人ノ届出(一七〇)
第百七十三條 前條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ送達シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス
△書留郵便ニ付スル送達(一七〇ノ二項、一七二)
第百七十四條 日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日没後ニ於テ執達吏ニ依リ送達ヲ爲スニハ裁判所書記長ノ許可アリコトヲ要ス前項ノ許可アリタルトキハ裁判所書記長ハ送達スヘキ書類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス
△郵便ニ付スル送達(一七三)
△送達證書(一七七)

前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ之ヲ受取リタル場合ニ限り其ノ效力ヲ有ス
△送達吏(一六二)
第百七十五條 外國ニ於テ爲スヘキ送達ハ裁判長其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス
△送達證書(一七七)
△司法事務共助法
第百七十六條 出陣ノ軍隊若ハ外國駐在ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服スル艦船ノ乗組員ニ對スル送達ハ裁判長上級司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲ス
前項ノ送達ニ付テハ第六十七條ノ規定ヲ準用ス
△送達證書(一七七)
第百七十七條 送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作り送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス
△送達吏(一六二)
△書記ノ爲ス送達(一六三)
第百七十八條 當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所カ知レサル場合又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ第七十五條ノ規定ニ依リコト能ハス若ハ之ニ依リモ其ノ効ナシト認ムヘキ場合ニ於テハ申立ニ依リ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得同一ノ當事者ニ對スル稱後ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

△住所(民五〇、一一一)
△申立、申述ノ方式(一五〇)
△外國ニ於テ爲スヘキ送達(一七五)
△公示送達ノ方法(一七九)

第百七十九條 公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類ヲ保管シ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス但シ呼出狀ノ送達ハ呼出狀ヲ揭示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス
裁判所ハ公示送達アリタルコトヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載スヘキコトヲ命スルコトヲ得但シ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコトヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得

△公示送達ヲ爲スヘキ場合(一七八)
第百八十條 公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依リ揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ヨリ二週間ヲ経過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス但シ第百七十八條第二項ノ公示送達ハ揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス前項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

△公示送達ノ方法(一七九)
△期間ノ計算(一五六)

第百八十一條 送達ニ關スル裁判長ノ權限ハ受命判事、受託判事及送達地ノ區裁判所ノ判事亦之ヲ有ス
△日曜休日等ノ送達(一七四)
△囑託送達(一七五、一七六)

第四節 裁判
第百八十二條 訴訟カ裁判ヲ爲スニ關スルトキハ裁判所ハ終局判決ヲ爲ス
△控訴ノ物體(三六〇)
△上告ノ物體(三九三)
△訴訟費用ノ裁判(九五)

第百八十三條 訴訟ノ一部カ裁判ヲ爲スニ關スルトキハ裁判所ハ其ノ一部ニ付終局判決ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ハ口頭辯論ノ併合ヲ命シタル數箇ノ訴訟中其ノ一カ裁判ヲ爲スニ關スル場合ニ之ヲ準用ス
△辯論ノ指揮(二二二)
△訴ノ併合(二二七)
△反訴ノ要件(二二九)

第百八十四條 獨立シタル攻撃又ハ防禦ノ方法其ノ他中間ノ争ニ付裁判ヲ爲スニ關スルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ爲スコトヲ得請求ノ原因及數額ニ付争アル場合ニ於テ其ノ原因ニ付亦同シ
△訴訟費用ノ裁判(九五)

第百八十五條 裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭辯論ノ全趣旨及證據ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキカ否ヲ判斷ス
△判決ノ基本ト當事者ノ申立(一八六)
第百八十六條 裁判所ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ得
△訴訟費用ノ裁判(九五)
△上訴費用ノ裁判(九六)
第百八十七條 判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關シタル判事ノ之ヲ爲ス
判事ノ更迭アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス
△裁判ノ評議及言渡(裁判一一九、一二二、四)

在ラス
判決ノ書渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於
テモ之ヲ爲スコトヲ得
△期間ノ計算(一五六)
△中斷、中止ノ效力(二二二)
第百九十一條 判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判
決ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スルコトヲ
要ス
一 主文
二 事實及争點
三 理由
四 當事者及法定代理人
五 裁判所
事實及争點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事
者ノ陳述ニ基キ要領ヲ摘示シテ之ヲ爲スコ
トヲ要ス
判事判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ
他ノ判事判決ニ其ノ事由ヲ記載シテ署名捺
印スルコトヲ要ス
△判決ノ記載(三五九)
△判決書渡ノ方式(二八九)
△親權者(民八八四)
△後見人(民九二二)
第百九十二條 判決ハ言渡後過期ナク之ヲ裁
判所書記ニ交付シ書記ハ言渡及交付ノ日ヲ
附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス
△判決書渡ノ方式(二八九)

第百九十三條 判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ
二週間内ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要
ス
判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス
△期間ノ計算(一五六)
△送達(一六〇以下)
第百九十四條 判決ニ違算、書損其ノ他之ニ
對スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何
時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決
定ヲ爲スコトヲ得
更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記ス
ルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト難ハ
サルトキハ決定ノ正本ヲ作り之ヲ當事者ニ
送達スルコトヲ要ス
更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ
得但シ判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス
△申立、申述ノ方式(一五〇)
△決定、命令(二〇七)
△送達(一六〇以下)
△即時抗告ノ提起期間(四一五)
第百九十五條 裁判所カ請求ノ一部ニ付裁判
ヲ脱漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分
ニ對シ仍舊裁判所ニ繫屬ス
訴訟費用ノ裁判ヲ脱漏シタル場合ニ於テハ
裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴
訟費用ニ付裁判ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ第

百四條ノ規定ヲ準用ス
前項ノ規定ニ依リ訴訟費用ノ裁判ハ本案判
決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ其ノ効
力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ控訴裁判所ハ控
訴ノ總費用ニ付裁判ヲ爲ス
△申立、申述ノ方式(一五〇)
△訴訟費用ノ負擔(八九以下)
第百九十六條 財産權上ノ請求ニ關スル判決
ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ
申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ
供セスシテ假執行ヲ爲スコトヲ得ヘキコト
ヲ宣言スルコトヲ得
裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ
供シテ假執行ヲ免ルルコトヲ得ヘキコトヲ
宣言スルコトヲ得
前二項ノ宣言ハ判決主文ニ之ヲ掲クルコト
ヲ要ス
△假處分取消ノ判決(七五六ノ二)
△支拂命令ニ對スル假執行ノ宣言(四三
八)
△控訴審ニ於ケル假執行ノ宣言(三七五)
△上告審ニ於ケル假執行ノ宣言(四〇六)
第百九十七條 第百十二條、第百十三條、第
百十五條及第百十六條ノ規定ハ前條ノ擔保
ニ之ヲ準用ス
第百九十八條 假執行ノ宣言ハ其ノ宣言又ハ
本案判決ヲ變更スル判決ノ書渡ニ因リ變更

ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ失フ
本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ裁判所ハ
被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ
宣言ニ基キ被告カ給付シタルモノノ返還及
假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被告ノ受ケ
タル損害ノ賠償ヲ原告ニ命スルコトヲ要ス
假執行ノ宣言ノミヲ變更シタルトキハ後ニ
本案判決ヲ變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ
準用ス
△強制執行ノ停止又ハ制限(五五〇)
△強制執行ノ停止又ハ制限ノ效力(五五
一)
第百九十九條 確定判決ハ主文ニ包含スルモ
ノニ限リ既判力ヲ有ス
相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立
ノ判斷ハ相殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判
力ヲ有ス
△判決主文(一九九)
△判決ノ確定遮断(四九八)
第百條 外國裁判所ノ確定判決ハ左ノ條件
ヲ具備スル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス
一 法令又ハ條約ニ於テ外國裁判所ノ職
判權ヲ否認セサルコト
二 敗訴ノ被告カ日本人ナル場合ニ於テ
公示送達ニ依ラスシテ訴訟ノ開始ニ必
要ナル呼出若ハ命令ノ送達ヲ受ケタル
コト又ハ之ヲ受ケサルモ應訴シタルコ

ト
三 外國裁判所ノ判決カ日本ニ於ケル公
ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサルコト
四 相互ノ保證アルコト
△外國ノ裁判ト執行判決(五一四)
△執行判決ノ審理(五一五)
第百一條 確定判決ハ當事者、口頭辯論終
結後ノ承継人又ハ其ノ者ノ爲請求ノ目的物
ヲ所持スル者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス
他人ノ爲原告又ハ被告ト爲リタル者ニ對ス
ル確定判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有
ス
前二項ノ規定ハ假執行ノ宣言ニ之ヲ準用ス
△婚姻ノ無効、取消、離縁ノ判決ノ效力
(八二一)
△婚姻ノ無効、取消、離縁ノ判決ノ效力
(八二二)
△會社設立無効ノ判決ノ效力(商九九ノ
四、二三二、三三六)
第百二條 不適法ナル訴ニシテ其ノ欠缺カ
補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テ
ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下
スルコトヲ得
第百三條 和解又ハ請求ノ拋棄若ハ認諾ヲ
調査ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判
決ト同一ノ效力ヲ有ス
△裁判上ノ和解(一三六)

△和解ノ申立(三五六)
△調書ノ實質的要件(二四四)
△確定判決ノ既判力(一九九)
△確定判決ノ效力範圍(二〇二)
第百四條 決定及命令ハ相當ト認ムル方法
ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生
ス
裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ
裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要
ス
第百五條 訴訟ノ指揮ニ關スル決定及命令
ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得
第百六條 裁判所書記ノ處分ニ對スル異議
ニ付テハ其ノ書記所屬ノ裁判所決定ヲ以テ
裁判ヲ爲ス
△記録利用ノ請求(一五二)
△執行力アル正本ノ付與(五一六)
△執行文ノ形式(五一七)
第百七條 決定及命令ニハ其ノ性質ニ反セ
サル限り判決ニ關スル規定ヲ準用ス
第五節 訴訟手續ノ中斷及中止
第百八條 當事者カ死亡シタルトキハ訴訟
手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ相續人、相
續財産管理人其ノ他法令ニ依リ訴訟手續ヲ
續行スヘキ者ハ訴訟手續ヲ受繼少コトヲ要

相續人ハ相續ノ物業ヲ爲スコトヲ得ル間ハ
 訴訟手續ヲ受續クコトヲ得ス
 △訴訟手續ノ受續(二一六、二一九)
 △失職宣告ノ效力(民三三)
 第二百九條 當事者タル法人カ合併ニ因リテ
 消滅シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場
 合ニ於テハ合併ニ因リテ設立シタル法人又
 ハ合併後存続スル法人ハ訴訟手續ヲ受續ク
 コトヲ得ス
 前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スル
 コトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用セス
 △會社ノ合併ト權利義務ノ承継(商八二)
 △訴訟代理權ノ不消滅(八五)
 △中斷規定ノ不適用(二一三)
 △訴訟手續ノ受續(二一六、二一九)
 第二百十條 當事者カ訴訟能力ヲ失ヒタルト
 キ又ハ其ノ法定代理人カ死亡シ若ハ代理權
 ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場
 合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有ス
 ルニ至リタル當事者ハ訴訟手續ヲ受續クコ
 トヲ得ス
 △代理權消滅ノ通知(五七ノ一項)
 △訴訟代理權ノ不消滅(八五)
 △中斷規定ノ不適用(二一三)
 △法定代理ノ規定ノ準用(五八)
 △訴訟手續ノ受續(二一六、二一九)

△貼用印紙(民印六ノ二)
 第二百一十一條 受託者ノ信託ノ任務終了シタ
 ルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テ
 ハ新受託者訴訟手續ヲ受續クコトヲ得ス
 △訴訟代理權ノ不消滅(八五)
 △中斷規定ノ不適用(二一三)
 △訴訟手續ノ受續(二一六、二一九)
 第二百十二條 一定ノ資格ヲ有スル者カ自己
 ノ名ヲ以テ他人ノ爲メ訴訟ノ當事者タル場合
 ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手
 續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ同一ノ資格ヲ
 有スル者訴訟手續ヲ受續クコトヲ得ス當事
 者ノ死亡ニ因リ訴訟手續カ中斷シタル場合
 亦同シ
 第四十七條ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト
 爲ルヘキ者ヲ選定シタル訴訟ニ於テ其ノ選
 定セラレタル當事者ノ全員カ其ノ資格ヲ喪
 失シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合
 ニ於テハ選定ヲ爲シタル者ノ總員又ハ新ニ
 原告若ハ被告トシテ選定セラレタル者ハ訴
 訟手續ヲ受續クコトヲ得ス
 △訴訟代理權ノ不消滅(八五、八六)
 △訴訟手續ノ受續(二一六、二一九、破一
 六二)
 △船長ノ權限(商六五二ノ一ノ三三號)
 △貼用印紙(民印六ノ二)
 第二百十三條 第二百八條第一項、第二百九

條第一項及第二百十條乃至前條ノ規定ハ訴
 訟代理人アル間ハ之ヲ適用セス
 △訴訟代理權ノ不消滅(八五、八六)
 第二百十四條 當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタ
 ルトキハ破産財團ニ關スル訴訟手續ハ中斷
 ス此ノ場合ニ於テ破産ニ依ル受續アル迄ニ
 破産者ハ當然訴訟手續ヲ受續ス
 △管財人ノ權限(破七、一六二)
 △貼用印紙(民印六ノ二)
 第二百十五條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關
 スル訴訟手續ノ受續アリタル後破産手續ノ
 解止アリタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ
 場合ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ受續クル
 コトヲ得ス
 △訴訟手續ノ受續(二一七、二一九、破六
 九)
 △管財人ノ權限(破七、一六二)
 △貼用印紙(民印六ノ二)
 第二百十六條 訴訟手續ノ受續ハ相手方ニ於
 テモ亦之ヲ爲スコトヲ得
 △貼用印紙(民印六ノ二)
 第二百十七條 訴訟手續受續ノ申立アリタル
 トキハ裁判所ハ之ヲ相手方ニ通知スルコト
 ヲ得ス
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 第二百十八條 訴訟手續受續ノ申立ハ裁判所
 職權ヲ以テ之ヲ調査シ理由ナシト認メタル

トキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得ス
 裁判ノ送達後中斷シタル訴訟手續ノ受續ニ
 付テハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所裁判ヲ爲
 スコトヲ得ス
 △訴訟手續受續ノ通知(二一七)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 第二百十九條 裁判所ハ當事者カ訴訟手續ノ
 受續ヲ爲ササル場合ニ於テモ職權ヲ以テ其
 ノ履行ヲ命スルコトヲ得
 第二百二十條 天災其ノ他ノ事故ニ因リテ裁
 判所カ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ訴訟
 手續ハ其ノ事故ノ止ム迄中斷ス
 △中斷、中止ノ效力(二二二)
 第二百二十一條 當事者カ不定期間ノ故障ニ
 因リ訴訟手續ヲ履行スルコト能ハサルトキ
 ハ裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ中止ヲ命スルコ
 トヲ得
 裁判所ハ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △中止ノ效力(二二二)
 第二百二十二條 判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中
 斷中ト雖之ヲ爲スコトヲ得
 訴訟手續ノ中斷又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止
 メ訴訟手續ノ受續ノ通知又ハ履行ノ時ヨリ
 更ニ全期間ノ進行ヲ始ム
 △判決言渡ノ方式(一八九)
 △訴訟手續ノ中斷(二〇八、二一五)

△訴訟手續ノ中止(二一〇、二二二)
 第二編 第一審ノ訴訟手續
 第一章 地方裁判所ノ訴
 訟手續
 第一節 訴
 第二百二十三條 訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ
 提出シテ之ヲ爲スコトヲ得ス
 △訴提起ノ特別方式(三五四)
 △和解ノ申立(三五六)
 △異議申立ノ效力(四四二)
 △補正不能ノ訴ノ却下(二〇二)
 第二百二十四條 訴狀ニハ當事者、法定代理
 人並請求ノ趣旨及原因ヲ記載スルコトヲ要
 ス準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用
 ス
 △無能力者ノ訴訟能力(四九)
 △補正不能ノ訴ノ却下(二〇二)
 △調停者(民八八四)
 △後見人(民九二二)
 △貼用印紙(民印一三、一一)
 第二百二十五條 確定ノ訴ハ法律關係ヲ變ス
 ル書面ノ真否ヲ確定スル爲ニモ之ヲ提起ス
 ルコトヲ得
 △訴提起ノ方式(二二三)

△訴狀ノ要件(二三四)
 第二百二十六條 將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ豫
 メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限り之ヲ
 提起スルコトヲ得
 △訴提起ノ方式(二二三)
 △訴狀ノ要件(二三四)
 第二百二十七條 數箇ノ請求ハ同種ノ訴訟手
 續ニ依ル場合ニ限り一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲ス
 コトヲ得
 △併合請求ノ特別管轄(二二)
 △訴訟價額ノ算定(二二)
 △合意管轄ノ制限(二七)
 △一部終局判決(一八三)
 △人事訴訟ノ併合(人訴七、二六、三九、
 五八、六七)
 第二百二十八條 訴狀カ第二百二十四條第
 一項ノ規定ニ違背スル場合ニ於テハ裁判長
 ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補
 正スヘキコトヲ命スルコトヲ得法律ノ規
 定ニ從ヒ訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合亦同
 シ
 原告カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ裁判長
 ハ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下スルコトヲ得
 前項ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
 ヲ得
 抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添付スル
 コトヲ得

△期間ノ伸長又ハ短縮(一五八)
 △即時抗告(四一五)
 △補正不能ノ訴ノ却下(二〇二)
 △貼用印紙(民印一三、一一)
 第二百二十九條 訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スルコトヲ要ス
 前條ノ規定ハ訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス
 △送達(一六〇以下)
 第二百三十條 訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ要ス
 △訴訟提起ノ方式(二二三)
 △口頭辯論(二二五)
 △期日ノ指定又ハ變更(一五二)
 第二百三十一條 裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ當事者ハ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
 △訴ノ私法ノ效力發生(二三五)
 第二百三十二條 原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限リ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄請求又ハ請求ノ原因ヲ變更スルコトヲ得但シ之ニ因リ著ク訴訟手續ヲ遲滞セシムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

△訴狀ノ要件(二二四)
 △訴ノ變更不許ノ裁判(二二三)
 △訴訟提起ノ效力(二三五)
 第二百三十三條 裁判所カ請求又ハ請求ノ原因ノ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ裁權ヲ以テ其ノ變更ヲ許ササル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス
 △訴ノ變更(二二二)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 第二百三十四條 裁判カ訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル法律關係ノ成立又ハ不成立ニ關ルトキハ當事者ハ請求ヲ擴張シテ其ノ法律關係ノ確認ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ確認ノ請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキニ限ル
 前項ノ規定ニ依ル請求ノ擴張ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
 △專屬管轄ノ再審ノ訴(四二二)一督促手續(四三一)一強制執行(五六三)一公示催告(七七九)一人事訴訟(人訴二四、二七、三一、三三、三五、四〇、五六、六七、七一)一會社設立無効ノ訴、總會決議無効ノ訴(商九九ノ三項、一〇五、一六三、二二六)
 第二百三十五條 時効ノ中断又ハ法律上ノ期

間違守ノ爲必要ナル裁判上ノ請求ハ訴ヲ提起シタル時又ハ第二百三十二條第二項若ハ前條第二項若ハ前條第二項ノ規定ニ依リ書面ヲ裁判所ニ提出シタル時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス
 △時効ノ中断(民一四七)
 △法律上ノ期間(民二〇一、四二六、七五八、七八四、七八五、七八六、八五三、八五五、八五九、八七〇、八七一、八七三、九五一)
 第二百三十六條 訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下クルコトヲ得但シ相手方カ本案ニ付準備書面ヲ提出シ、準備手續ニ於テ申述ヲ爲シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ訴ノ取下ニ付其ノ同意アルコトヲ要ス
 訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ニ於テ又ハ準備手續中受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス
 訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
 △判決ノ確定時期(四九八)
 △訴ノ取下ト訴訟費用ノ負擔(二〇四)
 △訴訟ノ送達(二一九)
 第二百三十七條 訴訟ハ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做

ス
 本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス
 △終局判決(一八一、一八三)
 △訴ノ取下ト其ノ方式(二二六)
 第二百三十八條 當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セズ又ハ辯論ヲ爲サスシテ遲延シタル場合ニ於テ三月以内ニ期日指定ノ申立ヲ爲リサルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス
 △口頭辯論(二二五)
 △期日ノ指定又ハ變更(一五二)
 △期間ノ計算(一五六)
 第二百三十九條 被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本案ノ繫屬スル裁判所ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキ及本案ノ目的タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ限ル
 △合意管轄ノ制限(二七)
 △辯論ノ併合(一八三)
 △訴訟ノ移送(三五五)
 △控訴審ノ反訴(三八二)
 △貼用印紙(民印四)
 第二百四十條 反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル
 △反訴提起ノ要件(二二九)

第二百四十一條 本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下ケルコトヲ得
 △訴ノ取下(二二六)
 第二節 辯論ノ準備
 第二百四十二條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス
 △口頭辯論(二二五)
 △準備書面(三五七)
 第二百四十三條 準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方カ準備ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
 裁判長ハ準備書面ヲ提出スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ得
 △準備書面ノ記載事項(二四四)
 △期間ノ計算(一五六)
 △期間ノ伸長(一五八)
 第二百四十四條 準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
 一、當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所
 二、代理人ノ氏名、職業及住所
 三、事件ノ表示
 四、攻撃又ハ防禦ノ方法

五、相手方ノ請求及攻撃又ハ防禦ノ方法ニ對スル陳述
 六、附屬書類ノ表示
 七、裁判所ノ表示
 八、引用文書ノ原本、抄本、原本ノ添附
 △準備書面外ノ事實主張ノ制限(二四七)
 △外國語ノ文書ト譯文(二四八)
 第二百四十五條 當事者ノ所持スル文書ニシテ準備書面ニ引用シタルモノハ準備書面ノ各通ニ其ノ原本ヲ添付スルコトヲ要ス
 文書ノ一部ノミヲ必要トスルトキハ其ノ抄本ヲ添付シ文書カ大部ナルトキハ其ノ文書ヲ表示スルヲ以テ足ル
 △準備書面ノ記載事項(二四四)
 第二百四十六條 前條ノ文書ハ相手方ノ求ニ因リ其ノ原本ヲ閲覧セシムルコトヲ要ス
 △引用文書ト原本ノ提示(二四六)
 第二百四十七條 準備書面ニ記載セサル事實ハ相手方カ在廷セサルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス
 △準備書面ノ記載事項(二四四)
 △出頭シタル一方ノ辯論(一三八)
 第二百四十八條 外國語ヲ以テ作リタル文書ニハ其ノ譯文ヲ添付スルコトヲ要ス

第二百四十九條 訴訟ニ付テハ受命判事ニ依リ口頭辯論ノ準備手續ヲ爲スコトヲ要ス但シ裁判所相當ト認ムルトキハ直ニ辯論ヲ命シ又ハ訴訟ノ一部若ハ或等點ノミニ付準備手續ヲ命スルコトヲ得

△受命判事ノ指定(一一〇)

△期日ノ指定又ハ變更(一一二)

第二百五十條 準備手續ニ於テハ圖書ヲ作り當事者ノ陳述ニ基キ第二百四十四條第四號及第五號ニ掲クル事項ヲ記載シ殊ニ證據ニ付テハ其ノ申出ヲ明確ニスルコトヲ要ス受命判事相當ト認ムルトキハ準備書面ヲ以テ前項ノ陳述及圖書ニ代フルコトヲ得

△準備手續ト口頭辯論トノ關係(一一五)

△準備手續ト準備規定(一一六)

第二百五十一條 當事者ノ一方カ期日ニ出頭セザルトキハ前條ノ圖書ノ原本ヲ之ニ送達シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スコトヲ得

△送達(一一六以下)

第二百五十二條 受命判事ハ當事者ヲシテ準備書面ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百四十三條ノ規定ヲ準用ス

△準備書面ノ記載事項(一一四)

第二百五十三條 當事者カ期日ニ出頭セス又ハ前條ノ規定ニ依リ受命判事ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セザルトキハ受命判

事ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得

△準備手續ト準備規定(一一六)

△辯論ノ再開(一一三)

第二百五十四條 當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

△口頭辯論(一一五)

第二百五十五條 圖書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セザル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得但シ其ノ事項カ裁判所職權ヲ以テ調査スヘキモノナルトキ、著ク訴訟ヲ遲滞セシメザルトキ又ハ重大ナル過失ナクシテ準備手續ニ於テ之ヲ提出スルコト能ハサリシコトヲ曉明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ハ第二百四十七條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

訴訟又ハ準備手續前ニ提出シタル準備書面ニ記載シタル事項ハ圖書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セザルモノト雖口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス

△準備手續ニ於ケル圖書(一一五〇)

△反訴ノ手續規定(一一四〇)

△曉明方法(一一六七)

第二百五十六條 第二百六條乃至第二百二十九條、第三百一一條、第三百三十三條乃至第三百四十一條及第三百三十八條ノ規定ハ準備手續ニ之ヲ準用ス

第三節 證據

第一款 總則

第二百五十七條 裁判所ニ於テ當事者カ自白シタル事實及顯著ナル事實ハ之ヲ證據スルコトヲ要セス

△自白ノ不採用(人訴一〇ノ二項、二六、三九、五九)

第二百五十八條 證據ノ申出ハ體スヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

證據ノ申出ハ期日前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

△攻撃防禦方法ノ提出時期(一三七)

△貼用印紙(民印六ノ三)

第二百五十九條 當事者ノ申出タル證據ニシテ裁判所ニ於テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ取調フルコトヲ要セス

第二百六十條 證據ニ付不定期間ノ障礙アルトキハ裁判所ハ證據調ヲ爲ササルコトヲ得

第二百六十一條 裁判所ハ當事者ノ申出タル證據ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

△裁判所ノ職權調査(二八、人訴一四、二六、三七、四六、七四)

第二百六十二條 裁判所ハ必要ナル調査ヲ官

應若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ委託スルコトヲ得

△裁判所ノ委託(一一三〇、一一三一ノ一項五號)

第二百六十三條 證據調ハ當事者カ期日ニ出頭セザル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

△期日ノ開始(一一五)

第二百六十四條 外國ニ於テ爲スヘキ證據調ハ其ノ國ノ官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ之ヲ委託シテ爲スコトヲ要ス

外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ遵背スルモ本法ニ遵背セザルトキハ其ノ效力ヲ有ス

△裁判所ノ委託(一一三〇)

第二百六十五條 裁判所ハ相當ト認ムルトキハ裁判所外ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ部員ニ命シ又ハ區裁判所ニ委託シテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

受命判事カ他ノ區裁判所ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ相當ト認ムルトキハ更ニ證據調ノ委託ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受命判事及當事者ニ通知スルコトヲ要ス

△受命判事ノ指定及裁判所委託(一一三〇)

△受命判事又ハ受託判事ノ文書ニ對スル

證據調(一一二)

第二百六十六條 受託判事ハ證據調ニ關スル記録ヲ受託裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

△裁判所外ニ於ケル證據調(一一六五)

第二百六十七條 曉明ハ即時ニ取調フルコトヲ得ヘキ證據ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ當事者若ハ法定代理人ヲシテ保證金ヲ供託セシメ又ハ其ノ主張ノ眞實ナルコトヲ宣誓セシメ之ヲ以テ曉明ニ代フルコトヲ得

第二百六十八條 乃至第二百六十九條ノ規定ハ前項ノ宣誓ニ之ヲ準用ス

第二百六十九條 前條第二項ノ規定ニ依リテ保證金ノ供託ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ保證金ヲ沒收ス

△曉明ニ代フル保證又ハ宣誓(一一六七)

△即時抗告(一一七〇)

第二百六十九條 第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス

△曉明ニ代フル保證又ハ宣誓(一一六七)

△即時抗告(一一七〇)

第二百七十條 第二百六十八條及前條ノ規定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

△即時抗告提起期間(四一五)

第二款 證人訊問

第二百七十一條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

△證人宣誓ノ取調ヲ要スル證人(一一七二)

△勸許ヲ要スル證人(一一七三)

△證人ノ取調ヲ要スル證人(一一七四)

第二百七十二條 官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ該監督官廳ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ他ノ公務員ニ付之ヲ準用ス

第二百七十三條 國務大臣、官内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ勸許ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十四條 貴族院若ハ衆議院ノ職員又ハ職員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

△秘密會議(議院法三七一三九)

第二百七十五條 證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指

定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 △證據申出ノ方式(二五八)
 第二百七十六條 證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 當事者ノ表示
 二 訊問事項ノ要領
 三 出頭セザル場合ニ於ケル法律上ノ制裁
 △證人不出頭ノ制裁(二七七)
 △證人ノ勾引(二七八)
 第二百七十七條 證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭セザルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ニ因リテ生ジタル訴訟費用ノ負擔ヲ命シ且五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △即時抗告提起期間(四一五)
 第二百七十八條 裁判所ハ正當ノ事由ナクシテ出頭セザル證人ノ勾引ヲ命スルコトヲ得前項ノ勾引ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス
 △勾引(刑訴八八以下)
 第二百七十九條 左ノ場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得
 一 證人カ受託裁判所ニ出頭スル義務ナキトキ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハザルトキ
 二 證人カ受託裁判所ニ出頭スルニ付不相當ノ費用又ハ時間ヲ要スルトキ
 △裁判所外ノ證據調(二六五)
 第二百八十條 證言カ證人又ハ左ニ掲クル者ノ刑事上ノ訴追又ハ處罰ヲ招ク虞アル事項ニ關スルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得證言カ此等ノ者ノ恥辱ニ歸スヘキ事項ニ關スルトキ亦同シ
 一 證人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ證人ノ家ノ戸主但シ親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ
 二 證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受クル者
 三 證人カ主人トシテ仕フル者
 △證言拒絶理由ノ説明(二八二)
 △證言拒絶ノ當否ノ裁判(二八三)
 △親族ノ範圍(民七二五)
 △親等ノ計算法(民七二六)
 第二百八十一條 左ノ場合ニ於テハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得
 一 第二百七十二條乃至第二百七十四條ノ場合
 二 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯理士、辯護人、公證人、宗教又ハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者カ職務上知りタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ付訊問ヲ受クルトキ
 三 技術又ハ職業ノ秘密ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クルトキ
 前項ノ規定ハ證人カ默秘ノ義務ヲ免セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス
 △監督官廳ノ承認ヲ要スル證人(二七二)
 △勅許ヲ要スル證人(二七三)
 △法院ノ承認ヲ要スル證人(二七四)
 △證言拒絶理由ノ説明(二八二)
 △證言拒絶當否ノ裁判(二八三)
 第二百八十二條 證言拒絶ノ理由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス
 △證言ヲ拒絶シ得ル場合(二八〇、二八一)
 △說明(二六七)
 第二百八十三條 第二百八十一條第一項第一號ノ場合ヲ除ク外證言拒絶ノ當否ニ付テハ受託裁判所當事者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲ス證言拒絶ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △證言ヲ拒絶シ得ル場合(二八〇、二八一)
 △即時抗告提起期間(四一五)
 第二百八十四條 證言拒絶ノ理由ナシトスル裁判確定シタル後證人カ故ナク證言ヲ拒ムトキハ第二百七十七條ノ規定ヲ準用ス

△證言拒絶當否ノ裁判(二八三)
 第二百八十五條 裁判長ハ證人ヲシテ訊問前宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得
 △宣誓ヲ爲サシメザル證人(二八九一、二九一)
 △宣誓ノ形式(二八六、二八八)
 第二百八十六條 宣誓ハ起立シテ禮儀ニ之ヲ行フコトヲ要ス
 △證人宣誓ノ時期(二八五)
 第二百八十七條 裁判長ハ宣誓前宣誓ノ期官ヲ指示シ且宣誓ノ期ヲ警告スルコトヲ要ス
 △偽宣誓(刑一六九、一七〇)
 第二百八十八條 宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲ス證人宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハザルトキハ裁判長代リテ之ヲ朗讀ス
 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ欺欺セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 △證人宣誓ノ方式(二八六)
 第二百八十九條 左ニ掲クル者ヲ證人トシテ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス
 一 十六年未滿ノ者
 二 宣誓ノ趣旨ヲ理解スルコト能ハザル者
 第二百九十條 第二百八十條ノ規定ニ該當スル證人ニシテ證言拒絶ノ權利ヲ行ハザル者ヲ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシメザルコトヲ得
 △證言ヲ拒絶シ得ル場合(二八〇)
 第二百九十一條 證人カ自己又ハ第二百八十四條ニ掲クル者ニ著キ利害關係アル事項ニ付訊問ヲ受クルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ得
 △證言ヲ拒絶シ得ル場合(二八〇)
 第二百九十二條 宣誓ヲ爲サシメスシテ證人ヲ訊問シタルトキハ其ノ旨及事由ヲ宣誓ニ記載スルコトヲ要ス
 △口頭辯論調書ノ記載事項(二四四)
 △宣誓義務ノ例外(二八九一、二九二)
 第二百九十三條 第二百七十七條、第二百八十二條及第二百八十三條ノ規定ハ證人カ宣誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス
 △證人不出頭ノ制裁(二七七)
 △證言拒絶理由ノ説明(二八二)
 △證言拒絶當否ノ裁判(二八三)
 第二百九十四條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人相互ノ對質ヲ命スルコトヲ得
 第二百九十五條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得
 △對照供用ノ文字ノ手記(二九九)
 第二百九十六條 裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ在廷ヲ許スコトヲ得
 第二百九十七條 證人ハ書類ニ依リテ陳述ヲ爲スコトヲ得但シ裁判長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第二百九十八條 陪席判事ハ裁判長ニ告ケ證人ニ對シテ問ヲ發スルコトヲ得
 三 △陪席判事ノ聲明權(二七二、二七三)
 第二百九十九條 當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ得テ問ヲ發スルコトヲ得
 當事者ハ發問ノ許否ニ付異議ヲ述フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所異議ニ付裁判ヲ爲ス
 △當事者ノ發問要求(二七三、二七四)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 第三百條 受命判事又ハ受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所及裁判長ノ職務ハ其ノ判事ニ付テハ但シ前條第二項ノ規定ニ依ル異議ノ裁判ハ受託裁判所之ヲ爲ス
 △發問許否ノ異議ノ裁判(二九九ノ二項)
 第三款 鑑定
 第三百一條 鑑定ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外前項ノ規定ヲ準用ス
 △證人訊問(二七一、二七二)
 第三百二條 鑑定ニ必要ナル學識經驗アル者

ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ
 第二百八十條又ハ第二百九十一條ノ規定ニ依リテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミ得ル者ト同一ノ地位ニ在ル者及第二百八十九條ニ掲クル者ハ鑑定人タルコトヲ得ス
 △鑑定人ノ日常旅費、住宿费(民費一三一、一七)

第三百三條 鑑定人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス
 第三百四條 鑑定人ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ指定ス
 第二百五條 鑑定人ニ付誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ其ノ鑑定人カ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲ス前之ヲ忌避スルコトヲ得陳述ヲ爲シタルトキハ雖其ノ後ニ忌避ノ原因ヲ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知りタルトキ亦同シ
 △鑑定人忌避ノ申立(三〇六)
 第三百六條 忌避ノ申立ハ受訴裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ爲スコトヲ要ス忌避ノ事由ハ之ヲ疎明スルコトヲ要ス忌避ノ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 △疎明(二六七)
 △即時抗告提起期間(四一五)

第三百七條 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 △宣誓ノ形式(二八八ノ二項)
 第三百八條 裁判長ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ共同ニテ又ハ各別ニ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得
 第三百九條 特別ノ學識經驗ニ依リテ知り得タル事實ニ關スル訊問ニ付テハ證人訊問ニ關スル規定ニ依ル
 △證人訊問(二七一以下)
 第三百十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ相當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除クノ外本款ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳、公署又ハ法人ノ指定シタル者ヲシテ鑑定書ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得
 △裁判所ノ囑託(三三〇ノ二項)
 第四款 書證
 第三百十一條 書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出ヲ命セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 △文書提出申立ノ記載要件(三三三)
 △文書ノ送付ヲ囑託スヘキ申出(三一九)

第三百十二條 左ノ場合ニ於テハ文書ノ所持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス
 一 當事者カ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ自ラ所持スルトキ
 二 學識者カ文書ノ所持者ニ對シ其ノ引渡又ハ閲覧ヲ求ムルコトヲ得ルトキ
 三 文書カ學識者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ又ハ學識者ト文書ノ所持者トノ間ノ法律關係ニ付作成セラレタルトキ
 △商業帳簿ノ提出(商二七ノ二項)
 第三百十三條 文書提出ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス
 一 文書ノ表示
 二 文書ノ趣旨
 三 文書ノ所持者
 四 證スヘキ事實
 五 文書提出ノ義務ノ原因
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 △文書所持者ノ提出義務(三三二)
 第三百十四條 裁判所カ文書提出ノ申立ヲ理由アリト認メタルトキハ決定ヲ以テ文書ノ所持者ニ對シ其ノ提出ヲ命ス
 第三百十五條 對シ文書ノ提出ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス
 △書證申出ノ方式(三一)
 △決定、命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 第三百十五條 文書提出ノ申立ニ關スル決定

ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第三百十六條 當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
 △文書提出命令(三一四)
 第三百十七條 當事者カ相手方ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ提出ノ義務アル文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ裁判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
 △支書所持者ノ提出義務(三三二)
 第三百十八條 第三者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △文書提出ノ命令(三一四)
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第三百十九條 書證ノ提出ハ第三百十一條ノ規定ニ拘ラス文書ノ所持者ニ其ノ文書ノ送付ヲ囑託セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者カ法令ニ依リテ文書ノ正本又ハ原本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限りニ在ラス
 △書證申出ノ方式(三一)
 △文書ノ提出又ハ送付ノ種類(三三二)
 第三百二十條 裁判所ハ必要アリト認ムルト

キハ提出又ハ送付ニ係ル文書ヲ留置クコトヲ得
 △書證ノ申出方式(三一、三一、三一九)
 第三百二十一條 第二百六十五條ノ規定ニ依リテ受命判事又ハ受託判事ヲシテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事又ハ受託判事ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ決定スルコトヲ得
 前項ノ調書ニハ文書ノ原本又ハ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス
 第三百二十二條 文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ認證アル原本ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス原本ノ提出ヲ命シ又ハ送付ヲ爲サシムルコトヲ得
 裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ引用シタル文書ノ原本又ハ抄本ヲ提出セシムルコトヲ得
 △書證申出ノ方式(三一、三一、三一九)
 △引用文書ト認證アル原本ノ添附(二四五)
 第三百二十三條 文書ハ其ノ方式及ヒ趣旨ニ依リ官吏其ノ他ノ公務員カ職務上作成シタルモノト認ムヘキトキハ之ヲ眞正ナル公文書ト推定ス
 公文書ノ眞否ニ付疑アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ該官廳又ハ公署ニ照會ヲ爲スコトヲ得
 △私文書ノ證據力(三二五、三二六)

第三百二十四條 前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス
 △公文書タル推定(三二三)
 第三百二十五條 私文書ハ其ノ眞正ナルコトヲ證スルコトヲ要ス
 △公文書眞正ノ推定(三二三)
 第三百二十六條 私文書ハ本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ之ヲ眞正ナルモノト推定ス
 第三百二十七條 文書ノ眞否ハ筆蹟又ハ印章ノ對照ニ依リテモ之ヲ證スルコトヲ得
 △推定ノ訴ノ範圍(二二五)
 第三百二十八條 第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆蹟又ハ印章ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス
 第三百二十九條 第三者カ正當ノ事由ヲシテ前項ノ規定ニ依ル提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △書證申出ノ方式(三一)
 △文書提出ノ命令(三一四)
 △文書提出申立ニ關スル裁判(三一五)
 △文書提出命令ニ從ハサル效果(三一六)
 △文書ノ使用不能ノ效果(三一七)

解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス
申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セザ
ルトキハ裁判所ハ和解調ハサルモノト看做
スコトヲ得

△普通裁判籍(一四四)
△和解、請求ノ放棄若ハ認諾ノ效力(二〇三)

△和解ト訴訟費用ノ負擔(九七)
△申立、申述ノ方式(一五〇)

△和解ノ申立ト時効(民一五二)
△印紙ノ貼用(民印六一)

第三百五十七條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ
準備スルコトヲ要セス

相手方カ準備ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲ス
コト能ハスト認ムヘキ事項ハ前項ノ規定ニ
拘ハラス書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要
ス此ノ場合ニ於テハ準備書面ノ提出ニ代ヘ
口頭辯論前直接ニ相手方ニ其ノ事項ヲ通知
スルコトヲ得

第二百四十七條ノ規定ハ前項ノ通知ヲ爲サ
サル場合ニ之ヲ準用ス

△口頭辯論ノ準備(二四二)
△準備書面ノ記載事項(二四四)

第三百五十八條 準備手續ニ關スル規定ハ區
裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

△準備手續(二四九以下)
第三百五十九條 判決ニ事實及理由ヲ記載ス

ルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨其ノ原因ノ
有無或請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨
ヲ表示スルヲ以テ足ル

第三章 上訴

第一章 控訴

第三百六十條 控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對
シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者雙方共ニ
控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ
此ノ限ニ在ラス

前項ノ合意ハ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ之
ヲ爲スコトヲ得

第二百五條第二項ノ規定ハ第一項ノ合意ニ
之ヲ準用ス

△終局判決ヲ爲ス場合(一八二、一八三)
△控訴ヲ許ササル裁判(三六一、七七四)

△控訴ノ管轄裁判所(二六二(イ)、
三七第一、三八)

第三百六十一條 訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ
獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

△訴訟費用ノ負擔(八九以下)
第三百六十二條 終局判決前ノ裁判ハ控訴裁
判所ノ判斷ヲ受ク但シ不服ヲ申立ツルコト
ヲ得サル裁判及抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツル
コトヲ得ル裁判ハ此ノ限ニ在ラス

△中間判決(一八五)
△控訴狀ノ補正ト準用規定(三七〇)

第三百六十三條 控訴ハ控訴審ノ終局判決ヲ
ル迄之ヲ取下タルコトヲ得

第二百三十六條第二項第三項、第二百三十
七條第一項及第二百三十八條ノ規定ハ控訴
ノ取下ニ之ヲ準用ス

△控訴權ノ放棄(三六五)
△獨立ノ控訴ト看做サルル附帶控訴(三
七三)

第三百六十四條 控訴ヲ爲ス權利ハ之ヲ拋棄
スルコトヲ得

△控訴權ノ放棄ノ方式(三六五)
△附帶控訴提起ノ時期(三七二)

第三百六十五條 控訴權ノ放棄ハ控訴提起前
ニ在リテハ第一審裁判所、控訴提起後ニ在
リテハ控訴裁判所ニ對スル申述ニ依リテ之
ヲ爲スコトヲ要ス

控訴提起後ノ控訴權ノ放棄ハ控訴ノ取下ト
共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴權放棄ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スル
コトヲ要ス

△申立、申述ノ方式(一五〇)
△送達(一六〇以下)

△控訴ノ取下(三六三)
第三百六十六條 控訴ハ判決ノ送達アリタル
日ヨリ二週間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

但シ其ノ期間前掲起シタル控訴ノ效力ヲ妨
ケス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

△判決ノ送達(一九三)
△期間ノ計算(二五六)

△期間懈怠ノ效果(一五九)
第三百六十七條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一
審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲
スコトヲ要ス

控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者及法定代理人
二 第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ
テ控訴ヲ爲ス旨

△控訴狀ノ補正ト準用規定(三七〇)
△貼用印紙(民印一、五、一一)

第三百六十八條 準備書面ニ關スル規定ハ控
訴狀ニ之ヲ準用ス

△準備書面(二四二以下)
第三百六十九條 第一審裁判所ニ控訴狀ノ提
出アリタルトキハ裁判所書記訴訟記録ニ控
訴狀ヲ添附シテ送附ナク之ヲ控訴裁判所ノ
書記ニ送付スルコトヲ要ス

控訴裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ
裁判所書記ハ送附ナク第一審裁判所ノ書記
ニ訴訟記録ヲ送付ヲ求ムルコトヲ要ス

△控訴提起ノ方式(二六七)
第三百七十條、第二百二十八條ノ規定ハ控訴

狀カ第三百六十七條第二項ノ規定ニ違反ス
ル場合、法律ノ規定ニ從ヒ控訴狀ニ印紙ヲ
貼用セサル場合及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト
能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十一條 控訴狀ハ之ヲ被控訴人ニ送
達スルコトヲ要ス

△送達(二六〇以下)
△控訴狀ノ補正ト準用規定(三七〇)

第三百七十二條 被控訴人ハ控訴權消滅ノ後
ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲
スコトヲ得

△控訴權ノ放棄(三六四)
第三百七十三條 附帶控訴ハ控訴ノ取下アリ
タルトキ又ハ不適法トシテ控訴ノ棄却アリ
タルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ要件
ヲ具備スルモノハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

△控訴ノ取下(三六三)
第三百七十四條 附帶控訴ニ付テハ控訴ニ關
スル規定ニ依ル

△附帶控訴ノ提起時期(三七二)
第三百七十五條 控訴裁判所ハ第一審ノ判決
ニ付不服ノ申立ヲキ部分ニ限リ申立ニ因リ
決定ヲ取テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

△假執行ニ關スル宣言(一九六)
第三百七十六條 假執行ニ關スル控訴審ノ裁
判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

前條ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時

抗告ヲ爲スコトヲ得

△即時抗告ノ提起期間(四五)

第三百七十七條 口頭辯論ハ當事者カ第一審
ノ判決ノ變更ヲ求ムル限度ニ於テ之ヲ爲
ス當事者ハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ結
果ヲ陳述スルコトヲ要ス

△請求又ハ原因ノ變更(三三二)
△第一審ノ判決ノ變更(三八五)

第三百七十八條 前編第一章ノ規定ハ別段ノ
規定アル場合ヲ除ク外控訴審ノ訴訟手續
ニ之ヲ準用ス

△地方裁判所ノ訴訟手續(二二三以下)
第三百七十九條 第一審ニ於テ爲シタル訴訟
行為ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第三百八十條 第一審ニ於テ爲シタル準備手
續ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

△準備手續(二四九以下)
第三百八十一條 控訴審ニ於テハ當事者ハ第
一審裁判所カ管轄權ヲ有セサルコトヲ主張
スルコトヲ得ス但シ專屬管轄ニ付テハ此ノ
限ニ在ラス

△合意管轄ノ制限(二七)
第三百八十二條 反訴ハ相手方ノ同意アル場
合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

相手方カ異議ヲ述ヘスシテ反訴ノ本審ニ付
辯論ヲ爲シタルトキハ反訴ノ提起ニ同意シ
タルモノト看做ス

△即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第三百二十九條 對照ニ適當ナル審判ヲキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得
 相手方カ正當ノ事山ナクシテ前項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文字ノ眞否ニ關スル審判者ノ主觀ヲ眞實ト認ムルコトヲ得書様ヲ變シテ手記シタルトキ亦同シ
 △證人ノ手記其ノ他ノ行爲(二九五)
 第三百三十條 對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ調書ニ添付スルコトヲ要ス
 第三百三十一條 當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル當事者又ハ代理人カ訴訟ノ審判中其ノ眞正ナルコトヲ認メタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第三百三十二條 本款ノ規定ハ證據ノ爲作リタル物件モシテ文書ニ非サルモノニ之ヲ準用ス
 第三百三十三條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 △證據申出ノ方式(二五八)
 第三百三十四條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ檢證ヲ命スルコトヲ得
 △鑑定(三〇一以下)
 第三百三十五條 第三百一十一條、第三百四十四條乃至第三百四十七條及第三百四十九條乃至第三百五十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ揭示又ハ送付ニ之ヲ準用ス
 第三百三十六條 當事者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル揭示ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第六款 當事者訊問
 第三百三十七條 裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得
 △當事者本人ノ出頭命令(一三三)ノ一項(一號)
 △宣誓ノ方式(二八六)
 第三百三十七條 裁判長必要アリト認ムルトキハ當事者相互又ハ當事者ト證人トノ對質ヲ命スルコトヲ得
 第三百三十八條 當事者カ正當ノ事由ナクシテ呼出ニ應セス又宣誓若ハ申述ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
 第三百三十九條 宣誓シタル當事者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百四十一條 第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ之ヲ準用ス
 △故意ニ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル制裁(三三二)
 第三百四十條 當事者ヲ訊問シタルトキハ其ノ陳述及宣誓ヲ爲サシメ又ハ爲サシメサルコトヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス
 △當事者本人ノ訊問(三三二)
 第三百四十一條 第三百三十六條乃至前條ノ規定ハ訴訟ニ於テ當事者ヲ代メスル法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ妨ケス
 第三百四十二條 第二百七十六條、第二百七十九條、第二百八十五條乃至第二百八十九條、第二百九十五條及第二百九十七條乃至第三百條ノ規定ハ本款ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第七款 證據保全
 第三百四十三條 裁判所ハ證據ヲ爲スニ非サルヘキ證據ヲ使用スルニ困難ナル事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本節ノ規定ニ從ヒ證據調ヲ爲スコトヲ得
 △證據保全ノ申立ノ要件(三四五)
 △相手方指定不能ノ證據保全申立(三四五)
 第三百四十四條 證據保全ノ申立ハ訴訟ノ繫屬中ニ在リテハ其ノ證據ヲ使用スヘキ審級ノ裁判所ニ、其ノ提起前ニ在リテハ訊問ヲ受クヘキ審級ノ裁判所ニ在リテハ訊問ヲ受クヘキ審級ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 急迫ナル場合ニ於テハ訴ノ提起後ト雖前項ノ區裁判所ニ證據保全ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 △證據保全ヲ許スヘキ場合(三四三)
 第三百四十五條 證據保全ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス
 一 相手方ノ表示
 二 證據ニヘキ事實
 三 證據
 四 證據保全ノ事由
 證據保全ノ事由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス
 民事訴訟法 第二編 第一章ノ訴訟手續 第二章 區裁判所ノ訴訟手續
 第五款 檢證
 第三百三十三條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 △證據申出ノ方式(二五八)
 第三百三十四條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ檢證ヲ命スルコトヲ得
 △鑑定(三〇一以下)
 第三百三十五條 第三百一十一條、第三百四十四條乃至第三百四十七條及第三百四十九條乃至第三百五十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ揭示又ハ送付ニ之ヲ準用ス
 第三百三十六條 當事者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル揭示ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第六款 當事者訊問
 第三百三十七條 裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得
 △當事者本人ノ出頭命令(一三三)ノ一項(一號)
 △宣誓ノ方式(二八六)
 第三百三十七條 裁判長必要アリト認ムルトキハ當事者相互又ハ當事者ト證人トノ對質ヲ命スルコトヲ得
 第三百三十八條 當事者カ正當ノ事由ナクシテ呼出ニ應セス又宣誓若ハ申述ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
 第三百三十九條 宣誓シタル當事者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三百四十一條 第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ之ヲ準用ス
 △故意ニ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル制裁(三三二)
 第三百四十條 當事者ヲ訊問シタルトキハ其ノ陳述及宣誓ヲ爲サシメ又ハ爲サシメサルコトヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス
 △當事者本人ノ訊問(三三二)
 第三百四十一條 第三百三十六條乃至前條ノ規定ハ訴訟ニ於テ當事者ヲ代メスル法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ妨ケス
 第三百四十二條 第二百七十六條、第二百七十九條、第二百八十五條乃至第二百八十九條、第二百九十五條及第二百九十七條乃至第三百條ノ規定ハ本款ノ訊問ニ之ヲ準用ス
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 第三百四十六條 證據保全ノ申立ハ相手方ヲ指定スルコト能ハサル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ相手方ト爲ルヘキ者ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ得
 △職權ヲ以テスル證據調(二六二)
 第三百四十八條 證據保全ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第三百四十九條 證據調ノ期日ニハ申立人及相手方ヲ呼出スコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第三百五十條 證據保全ニ關スル記録ハ本訴訟ノ記録ノ存在スル裁判所ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス
 第三百五十一條 證據保全ニ關スル費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第二章 區裁判所ノ訴訟手續
 第三百五十二條 區裁判所ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前章ノ規定ヲ準用ス
 △地方裁判所ノ訴訟手續(二三三以下)
 第三百五十三條 訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 第三百五十四條 當事者雙方ハ任意ニ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付頭辯論ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭辯論ノ陳述ニ依リテ之ヲ爲ス
 △申立、申述ノ方式(二五〇)
 第三百五十五條 被告カ反訴ヲ以テ地方裁判所ノ審判ニ關スル請求ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方ノ申立アルトキハ區裁判所ハ決定ヲ以テ本訴及反訴ヲ地方裁判所ニ移送スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三十二條及第三十四條ノ規定ヲ準用ス
 △反訴提起ノ要件(二三九)
 第三百五十六條 民事上ノ爭ニ付テハ當事者ハ請求ノ趣旨及原因並ニ事實ヲ表示シテ相手方ノ普通裁判所所在地ノ區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 和解調ヒタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス
 和解調ハサル場合ニ於テ裁判所ハ和解ノ期日ニ出頭シタル當事者雙方ノ申立アルトキハ直ニ訴訟ノ辯論ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ和解ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ訴ヲ提起シタモノト看做シ和解

解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス
申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セザ
ルトキハ裁判所ハ和解ハサルモノト看做
スコトヲ得

△普通裁判籍(一四四)
△和解ノ請求ノ放棄若ハ認諾ノ效力(二〇三)

△和解ト訴訟費用ノ負擔(九七)

△申立、申述ノ方式(一五〇)

△和解ノ申立ト時効(民一五一)

△印紙ノ貼用(民印六一)

第三百五十七條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

相手方カ準備ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲スコト能ハスト認ムヘキ事項ハ前項ノ規定ニ拘ハラス書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ準備書面ノ提出ニ代ヘ口頭辯論前直接ニ相手方ニ其ノ事項ヲ通知スルコトヲ得

第二百四十七條ノ規定ハ前項ノ通知ヲ爲ササル場合ニ之ヲ準用ス

△口頭辯論ノ準備(二四二)

△準備書面ノ記載事項(二四四)

第三百五十八條 準備手續ニ關スル規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

△準備手續(二四九以下)

第三百五十九條 判決ニ事實及理由ヲ記載ス

ルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨其ノ原因ノ有無ヲ請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ以テ足ル
△判決ニ掲クヘキ事項(一九二)

第三章 上訴

第一章 控訴

第三百六十條 控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者雙方共ニ控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ合意ハ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ合意ニ之ヲ準用ス

△終局判決ヲ爲ス場合(一八二、一八三)

△控訴ヲ許ササル裁判(三六一、七七四)

△控訴ノ管轄裁判所(職權二六二(イ)、三七第一、三八)

第三百六十一條 訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

△訴訟費用ノ負擔(八九以下)

第三百六十二條 終局判決前ノ裁判ハ控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但シ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル裁判及抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ此ノ限ニ在ラス

但シ其ノ期間前掲起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス
前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
△判決ノ送達(一九三)
△期間ノ計算(一五六)
△期間満了ノ效果(一五九)
第三百六十七條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 當事者及法定代理人
二 第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シテ之ヲ爲ス旨
△控訴狀ノ補正ト準用規定(三七〇)
△貼用印紙(民印一、五、一一)
第三百六十八條 準備書面ニ關スル規定ハ控訴狀ニ之ヲ準用ス
△準備書面(二四二以下)
第三百六十九條 第一審裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記訴訟記録ニ控訴狀ヲ添付シテ送附ナク之ヲ控訴裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス
控訴裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ送附ナク第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ヲ送付ヲ求ムルコトヲ要ス
△控訴提起ノ方式(二六七)
第三百七十條、第二百二十八條ノ規定ハ控訴

△中間判決(一八五)
△控訴狀ノ補正ト準用規定(三七〇)
第三百六十三條 控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得
第二百三十六條第二項第三項、第二百三十七條第一項及第二百三十八條ノ規定ハ控訴ノ取下ニ之ヲ準用ス
△控訴權ノ放棄(三六五)
△獨立ノ控訴ト看做サルル附帶控訴(三七三)
第三百六十四條 控訴ヲ爲ス權利ハ之ヲ放棄スルコトヲ得
△控訴權放棄ノ方式(三六五)
△附帶控訴提起ノ時期(三七二)
第三百六十五條 控訴權ノ放棄ハ控訴提起前ニ在リテハ第一審裁判所、控訴提起後ニ在リテハ控訴裁判所ニ對スル申述ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
控訴提起後ノ控訴權ノ放棄ハ控訴ノ取下ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
控訴權放棄ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
△申立、申述ノ方式(一五〇)
△送達(一六〇以下)
△控訴ノ取下(三六三)
第三百六十六條 控訴ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

但シ其ノ期間前掲起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス
前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
△判決ノ送達(一九三)
△期間ノ計算(一五六)
△期間満了ノ效果(一五九)
第三百六十七條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 當事者及法定代理人
二 第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シテ之ヲ爲ス旨
△控訴狀ノ補正ト準用規定(三七〇)
△貼用印紙(民印一、五、一一)
第三百六十八條 準備書面ニ關スル規定ハ控訴狀ニ之ヲ準用ス
△準備書面(二四二以下)
第三百六十九條 第一審裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記訴訟記録ニ控訴狀ヲ添付シテ送附ナク之ヲ控訴裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス
控訴裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ送附ナク第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ヲ送付ヲ求ムルコトヲ要ス
△控訴提起ノ方式(二六七)
第三百七十條、第二百二十八條ノ規定ハ控訴

狀カ第三百六十七條第二項ノ規定ニ違反スル場合、法律ノ規定ニ從ヒ控訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス
第三百七十一條 控訴狀ハ之ヲ被控訴人ニ送達スルコトヲ要ス
△送達(一六〇以下)
△控訴狀ノ補正ト準用規定(二七〇)
第三百七十二條 被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得
△控訴權ノ放棄(三六四)
第三百七十三條 附帶控訴ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ不合法トシテ控訴ノ棄却アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ要件ヲ具備スルモノヘ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス
△控訴ノ取下(二六三)
第三百七十四條 附帶控訴ニ付テハ控訴ニ關スル規定ニ依ル
△附帶控訴ノ提起時期(三七二)
第三百七十五條 控訴裁判所ハ第一審ノ判決ニ付不服ヲ申立テキ部分ニ限リ申立ニ因リ決定ヲ成テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得
△假執行ニ關スル宣言(一九六)
第三百七十六條 假執行ニ關スル控訴審ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
前條ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時

抗告ヲ爲スコトヲ得
△即時抗告ノ提起期間(四五二)
第三百七十七條 口頭辯論ハ當事者カ第一審ノ判決ノ變更ヲ求ムル限度ニ於テノミ之ヲ爲ス當事者ハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス
△請求又ハ原因ノ變更(二二二)
第三百七十八條 前編第一章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外控訴審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス
△地方裁判所ノ訴訟手續(二二三以下)
第三百七十九條 第一審ニ於テ爲シタル訴訟行為ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス
第三百八十條 第一審ニ於テ爲シタル準備手續ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス
△準備手續(二四九以下)
第三百八十一條 控訴審ニ於テハ當事者ハ第一審裁判所カ管轄權ヲ有セサルコトヲ主張スルコトヲ得ス但シ專屬管轄ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
△合意管轄ノ制限(二七)
第三百八十二條 反訴ハ相手方ノ同意アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得
相手方カ異議ヲ述ヘスシテ反訴ノ本質ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ反訴ノ提起ニ同意シタルモノト看做ス

△控訴審ノ訴訟手續(三七八)
 △反訴提起ノ要件(三三九)
 △反訴ノ手續(三四〇)
 第三百八十三條 不適法ナル控訴ニシテ其ノ欠缺ヲ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得
 △訴訟審理ノ方式(二二五ノ三項)
 第三百八十四條 控訴審判所ハ第一審判決ヲ相當トスルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス判決力其ノ理由ニ依レハ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ依リテ正當ナルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス
 第三百八十五條 第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ期限ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得
 △控訴審ノ辯論ノ範圍(三七七)
 △上訴費用ノ裁判(九六)
 第三百八十六條 控訴審判所ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ之ヲ取消スコトヲ要ス
 △上訴費用ノ裁判(九六)
 第三百八十七條 第一審ノ判決ノ手續ヲ法律ニ違背シタルトキハ控訴審判所ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス
 △控訴審ノ差戻判決(三八九)
 △上訴費用ノ裁判(九六)
 第三百八十八條 訴ヲ不適法トシテ却下シタル第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テハ控訴審

判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ要ス
 △第一審判決ノ取消(三八六)
 △上訴費用ノ裁判(九六)
 第三百八十九條 前條ノ場合ノ外控訴審判所カ第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テ事件ヲ付尙審理ヲ爲ス必要アルトキハ之ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得
 第一審裁判所ニ於ケル訴訟手續ヲ法律ニ違背シタルトキハ理由トシテ事件ヲ差戻ストキハ其ノ訴訟手續ニ之ニ因リテ取消サレタルモノト看做ス
 △第一審判決ノ取消(三八六)
 △上訴費用ノ裁判(九六)
 第三百九十條 事件ヲ差戻タルコトヲ理由トシテ第一審判決ヲ取消ストキハ控訴審判所ハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス
 △控訴審ニ關スル制限(三八一)
 △第一審判決ノ取消(三八六)
 △移送ノ裁判確定ノ效力(三四)
 △上訴費用ノ裁判(九六)
 第三百九十一條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニ第一審判決ヲ引用スルコトヲ得
 △判決ニ關スル事項(一九九ノ二項ニテ之ヲ規定ス)
 第三百九十二條 訴訟審給シタル得シ訴ノ費

能クシテ上訴期間満了シタルトキハ裁判所書記ハ判決又ハ第三百七十條ノ規定ニ依ル命令ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ之ヲ第一審裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス
 △上訴提起ノ效力(三九六)
 △控訴提起ノ期間(三六六)
 △控訴狀ノ補正ト準用規定(三七〇)
 第二章 上告
 第三百九十三條 上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
 第三百九十四條 上告ノ場合ニ於テハ第一審判決ニ對シ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得
 △移屬判決ヲ爲ス場合(一八二、一八三)
 △原審確定ノ事實ノ拘束力(四〇四)
 △上告ノ管轄(裁權五〇第一イ)
 第三百九十四條 上告ハ判決ヲ法律ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
 △判決ニ關スル事項(三九五)
 第三百九十五條 判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス
 一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザルコトヲ要ス
 二 法律ニ依リ判決ニ關與スルコトヲ得ザル判事ヲ判決ニ關與シタルトキ

三 懲罰管轄ニ關スル規定ニ違背シタルトキ
 四 決定代理權、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ
 五 口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ
 六 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ
 前項第四號ノ規定ハ第五十四條又ハ第八十七條ノ規定ニ依リ追認アリタル場合ニハ之ヲ適用セス
 △判事除斥ノ原因(三五)
 △回避ノ原因及時期(三七)
 △除斥又ハ回避ノ裁判ト不服申立(四〇)
 △合意管轄ノ制限(二七)
 △無能力者ノ訴訟能力(四九)
 △訴訟代理人タリ得ル者(七九)
 △訴訟代理權ノ證明(八〇)
 第三百九十六條 前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告及ヒ上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス
 △控訴ノ規定(三六〇、三九二)
 第三百九十七條 上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書記ヨリ訴訟記録ヲ送付ヲ受ケタルトキハ遺漏ナク其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス

△上告提起ノ效力(三九六)
 △訴訟記録ノ送附(三九九)
 第三百九十八條 上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セザルトキハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ上告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス
 △期間ノ計算及其ノ伸縮(一五六、一五八)
 △上告理由書不提出ノ效果(三九九)
 第三百九十九條 上告人カ前條ノ規定ニ違背シ上告理由書ヲ提出セザルトキハ上告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得
 △上告理由書提出期間(三九八)
 △訴訟審理ノ方式(二二五)
 第四百條 裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ提出スヘキコトヲ被上告人ニ命スルコトヲ得
 △期間ノ計算(一五六)
 △期間ノ變更(二五八ノ三項)
 第四百一條 上告裁判所カ上告狀、上告理由書、答辯書其ノ他ノ書類ニ依リ上告ノ理由ヲシテ上告タルトキハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得
 △原審確定ノ事實ノ拘束力(四〇五)
 第四百二條 上告裁判所ハ上告理由ニ基キ不服ノ申立アリタル限度ニ於テノミ調査ヲ爲

シ
 △上告理由書提出期間及效果(三九八)
 △原審確定ノ事實ノ拘束力(四〇五)
 第四百三條 原裁判ニ於テ法律ニ確定シタル事實ハ上告裁判所ヲ拘束ス
 △原審確定ノ事實ノ拘束力(四〇五)
 第四百四條 第三百九十三條第二項ノ規定ニ依リ上訴アリタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ原判決ニ於ケル事實ノ確定力法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ其ノ判決ヲ破毀スルコトヲ得
 △原審確定ノ事實ノ拘束力(四〇四)
 △上告ノ目的タル判決(三九三)
 第四百五條 第四百二條乃至前條ノ規定ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ之ヲ適用セス
 △上告審理ノ範圍(四〇二)
 △原審確定ノ事實ノ拘束力(四〇三、四〇四)
 第四百六條 上告裁判所ハ原判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限リ申立ニ依リ決定ヲ以テ執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得
 △執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得
 第四百七條 上告ノ理由アリトスルトキハ上告裁判所ハ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ上告裁判所カ破綻ノ理由ト爲シタル事實上及法律上ノ判断ニ關スルコトヲ要ス

△上告費用ノ裁判(九六)

△大審院判決ノ屬東方(裁判四八)

第四百八條 左ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス

一 確定シタル事實ニ付法令ノ適用ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件カ其ノ事實ニ基キ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

第三章 抗告

第四百十條 口頭辯論ヲ經シテ訴訟手續ニ關スル申立ヲ却下シタル決定又ハ命令ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

二二、一四、二二九、二七〇、二七二、二八四、三四一、三七〇、五四三、五六五、七三五、七四一、七五六、七五七、七六一

第四百十三條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ其ノ決定カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限り更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

條第二項ノ規定ニ依リ事件ノ送付ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事件ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ其ノ裁判ヲ更正スルコトヲ要ス

第四百十八條 抗告ハ即時抗告ニ限り執行停止ノ效力ヲ有ス

第四百十九條 抗告裁判所ハ抗告ニ付口頭辯論ヲ命セサル場合ニ於テハ抗告人其ノ他ノ利害關係人ヲ審訊スルコトヲ得

第四章 再審

第四百二十條 左ノ場合ニ於テハ確定ノ終局判決ニ對シ再審ノ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得但シ當事者カ上訴ニ依リ其ノ事由ヲ主張シタルトキ又ハ之ヲ知りテ主張セザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

二 法律ニ依リ裁判ニ關スルコトヲ得サル裁判カ裁判ニ關シタルトキ

第四百二十一條 判決ノ基本タル裁判ニ付前條ニ定メタル事由アルトキハ其ノ裁判ニ對シ獨立ノ不服ノ方法ヲ定メタル場合ニ於テモ其ノ事由ヲ以テ判決ニ對シ再審ノ理由ト爲スコトヲ得

△合意管轄ノ制限(二七)
 第四百二十三條 再審ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セザル限り各審級ニ於ケル訴訟手續ニ開スル規定ヲ準用ス
 第四百二十四條 再審ノ訴ハ當事者カ判決確定後再審ノ事由ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
 判決確定後五年ヲ経過シタルトキハ再審ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 再審ノ事由カ判決確定後ニ生シタルトキハ前項ノ期間ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 △再審ノ訴ノ提起期間(四二五)
 △判決ノ確定時期(四九八)
 △期間ノ計算ト其ノ伸縮(一五六、一五八)
 △期間遑忽ノ效果(一五九)
 第四百二十五條 前條ノ規定ハ代理權ノ欠缺及ヒ第四百二十條第一項第十號ニ掲ケル事項ヲ理由トスル再審ノ訴ニハ之ヲ適用セス
 △再審ノ訴提起期間(四二四)
 △不服申立判決ト確定判決ノ傍屬(四二〇ノ一〇號)
 第四百二十六條 訴訟ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 當事者及法定代理人

二 不服ノ申立アル判決ノ表示及ヒ其ノ判決ニ對シ再審ヲ求ムル旨
 三 法定代理人(民八八四、九〇〇、九二三)
 △貼用印紙(民印一、八、一一)
 第四百二十七條 本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ範圍内ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得
 不服ノ理由ハ之ヲ變更スルコトヲ得
 第四百二十八條 再審ノ事由アル場合ニ於テモ判決ヲ正當トスルコトキハ裁判所ハ再審ノ訴ヲ却下スルコトヲ要ス
 △再審ノ事由(四二〇)
 第四百二十九條 即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定及ハ命令カ確定シタル場合ニ於テ第四百二十條第一項ニ掲ケル事由アルトキハ確定判決ニ對スル第四百二十條乃至前條ノ規定ニ準シ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 △即時抗告(四一五)
 △再審ノ事由(四二〇)
 第四百三十條 金錢其ノ他ノ代替物又ハ有價証券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付テハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ依リ支拂命令ヲ發スルコトヲ得但シ日本ニ於テ公示

送達ニ依ラズシテ其ノ命令ノ送達ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 △公示送達(二七八、一八〇)
 第四百三十一條 督促手續ハ債務者ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所又ハ第九條ノ規定ニ依ル管轄裁判所ノ專屬管轄トス
 △管轄裁判籍(一一四)
 △合意管轄ノ制限(二七)
 第四百三十二條 支拂命令ノ申立ニハ其ノ性質ニ反セザル限り訴ニ關スル規定ヲ準用ス
 △訴提起ノ方式(二二三、三三三)
 △貼用印紙(民印一、六、七、一一)
 第四百三十三條 支拂命令ノ申立カ第四百三十條若クハ管轄ニ關スル規定ニ違背スルトキ又ハ申立ノ趣旨ニ依リ請求ノ理由ナキコト明ナルトキハ其ノ申立ハ之ヲ却下スルコトヲ要ス請求ノ一部ニ付支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルトキ其ノ一部ニ付亦同シ申立却下ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 △督促手續ノ要件(四三〇)
 △督促手續ノ管轄(四三一)
 第四百三十四條 支拂命令ハ債務者ヲ審訊セシメテ之ヲ發ス
 債務者ハ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

△訴訟審理ノ方式(一一五)
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 第四百三十五條 支拂命令ニハ當事者、法定代理人カ請求ノ趣旨及原因ヲ記載シ且債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス
 △期間(一五六、一五八)
 △支拂命令ニ對スル異議申立(四三四ノ二項)
 △支拂命令ト假執行ノ宣言(四三八)
 第四百三十六條 支拂命令ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス
 △送達(一六〇以下)
 第四百三十七條 債務者カ假執行ノ宣言前異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其ノ異議ノ範圍内ニ於テ效力ヲ失フ
 △支拂命令ノ裁判(四三四)
 △支拂命令ト假執行ノ宣言(四三八)
 第四百三十八條 債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ニ手續ノ費用額ヲ附記シ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ宣言前異議ノ申立アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 假執行ノ宣言ハ支拂命令ノ原本及正本ニ之

ヲ記載シ其ノ正本ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス
 假執行ノ申立却下ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 △支拂命令ニ關テヘキ事項(四三五)
 △支拂命令ノ送達(四三六)
 △判決以外ノ債務名義(五五九ノ二項)
 △假執行ノ支拂命令ト執行文ノ付與(五六一)
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第四百三十九條 債權者カ假執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ三十日以内ニ其ノ申立ヲ爲サザルトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失フ
 △支拂命令ト假執行ノ宣言(四三八)
 △期間(一五六以下)
 第四百四十條 假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令送達ノ日ヨリ二週間ヲ経過シタルトキハ債權者ハ其ノ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
 △支拂命令ト假執行ノ宣言(四三八)
 △強制執行ノ停止又ハ制限(五一一)
 第四百四十一條 區裁判所カ異議ヲ不通法ト認ムルトキハ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ決定ヲ以テ其ノ異議ヲ却下スルコトヲ要ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

△訴訟價格ノ算定方(二二、二二三)
 △決定及命令(二〇四、二〇五、二〇七)
 △異議申立ナキ支拂命令ノ效力(四四三)
 △即時抗告期間(四一五)
 第四百四十二條 支拂命令ニ對シ違法ナル異議ノ申立アリタルトキハ異議アル請求ニ付テハ其ノ目的ノ價額ニ從ヒ支拂命令ノ申立ノ時ニ於テ其ノ命令ヲ發シタル區裁判所又ハ其ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ訴ヲ提起アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ督促手續ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス
 前項ノ規定ニ依リテ地方裁判所ニ訴ヲ提起アリタルモノト看做サレタル場合ニ於テハ裁判所書記ハ遅滞ナク訴訟記録ヲ地方裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス
 △異議申立ノ效力(四三七)
 △支拂命令ト假執行ノ宣言(四三八)
 △訴訟價格ノ算定(二二、二二三)
 △區裁判所ノ管轄(裁構一四)
 △地方裁判所ノ管轄(裁構二六第一)
 △貼用印紙(民印一、六、七)
 第四百四十三條 假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令ニ對シ異議ノ申立ナキトキ又ハ異議却下ノ決定確定シタルトキハ支拂命令ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス
 △支拂命令ト假執行ノ宣言(四三八)

△支拂命令ニ對スル異議(四三四ノ二項)
△確定判決ノ執行力ノ範圍(一九九、二〇一)
第四百四十四條乃至第四百九十六條 (刪除)

第六編 強制執行

第一章 總則

第四百九十七條 強制執行ハ確定ノ終局判決
又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因
リテ之ヲ爲ス
△終局判決(一八二、一八三)
△判決ノ確定時期(四九八)
△假執行ノ宣言(一九六)
第四百九十七條ノ二 判決力其ノ判決ニ表示
シタル當事者以外ノ者ニ對シ效力ヲ有ス可
キトキハ其ノ者ニ對シ又ハ其ノ者ノ爲メニ
モ之ヲ執行スルコトヲ得但シ第六十四條ノ
規定ニ依ル參加人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ場合ニ於テ執行力アル正本ノ付與ニ
付テハ第五百九十九條乃至第五百二十一條ノ
規定ヲ準用ス
△主參加ノ效力(七二)
△債務ノ承繼訴訟引受(七四)
△承繼人ト執行力アル正本(五一九)
△命令ニ依ル執行力アル正本(五二〇)
△執行文付與ノ訴(五二二)

第四百九十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立
又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期
間ノ満了前ニハ確定セサルモノトス
判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其ノ期間
内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之レヲ遮斷
ス
△控訴提起期間(三六六)
△上告ト準用規定(三九六)
第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確
定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判
所書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス
訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ
上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル
部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス
判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ
證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ
上訴ノ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内
ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ
以テ定ル
△控訴提起期間(三六六)
△上告ト準用規定(三九六)
第五百條 再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判
所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ
立テシメシテ強制執行ヲ一時停止ス可キ
コトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行
ヲ爲スコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメ
テ其爲シタル強制執行ヲ取消ス可キヲ命ス

ルコトヲ得
保證ヲ立テシメシテ爲ス強制執行ノ停止
ハ其ノ執行ニ因リ價フコト能ハサル損害ヲ
生スコトヲ曉明スルトキニ限リ之レヲ
許ス
右裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコト
ヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコト
ヲ得ス
△再審ノ事由(四二〇)
△強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一
三)
△曉明方法(二六七)
第五百一條乃至第五百十一條 (刪除)
第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決
ニ對シ上訴ヲ提起シタルトキ又ハ假執行ノ
宣言ヲ付シタル支拂命令ニ對シ異議ヲ申立
テタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス
△假執行ノ宣言(一九六、三七五、四三
八、五四八)
△強制執行ノ停止又ハ制限(五〇〇)
第五百十三條 本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ
被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ
保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル
場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判
權ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ
保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得
保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テ

ハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ
第五百十二條、第五百十三條、第五百十五條及ヒ
第五百十六條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル保
證ニ付キ之ヲ準用ス
△保證又ハ供託ヲ爲ス場合(五〇〇、五
一一、五二二、五四七、五四九、六五
六、七四一、七四三、七四五、七四七、
七五九)
△普通裁判所(一一四)
△執行裁判所(五四三)
△供託ノ方法(供法一、五)
第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レル強
制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以
テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限リ
之ヲ爲スコトヲ得
執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通
裁判權ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判
所ノ管轄シ又普通裁判權ナキトキハ第八
條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄
スル裁判所ノ管轄ス
△普通裁判所(一一四)
第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査
セスシテ之ヲ爲スコシ
執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之
ヲ却下ス可シ
第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタ
ルコトヲ證明セサルトキ

第二 外國判決力第二百條ノ條件ヲ具備
セサルトキ
第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル
判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス
執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴
訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所
ノ書記之ヲ付與ス
執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ
之ヲ爲スコトヲ得
△執行力アル正本ノ付與(五一八、五二
〇)
△確定判決ノ效力及範圍(二〇一)
△貼用印紙(民印一、六ノ三號)
第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ
之ヲ附記ス
其文式左ノ如シ
前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ
強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之
ヲ付與ス
執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所
ノ印ヲ押ス可シ
△執行力アル正本ノ付與(五一八、五二
〇)
△正本ノ敷通又ハ再度ノ付與(五二二)
第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ノ確定
シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキ
ニ限リ之ヲ付與ス

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコ
トニ關ル場合ノ外他ノ條件ニ關ル場合ニ於
テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シ
タルコトヲ證明スルトキニ限リ執行力アル正
本ヲ付與スルコトヲ得
△強制執行ノ要件(五一六)
△判決ノ確定時期(四九八)
△假執行ノ宣言(一九六)
△執行文ノ付與ヲ求ムル訴(五二二)
第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示
シタル債權者ノ承繼人ノ爲メニ之ヲ付與シ又
ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人
ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但シ其承繼力該
裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ
之ヲ證明スルトキニ限ル
此承繼力裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ
執行文ニ記載ス可シ
△執行力アル正本ノ付與(五一六、五二
〇)
△執行文ノ付與ヲ求ムル訴(五二二)
第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五
百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ
裁判長ノ命令アルトキニ限リ之ヲ付與スル
コトヲ得
裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債
務者ヲ審訊スルコトヲ得
右命令執行文ニハ之ヲ記載ス可シ

△執行力アル正本ノ付與(五一八ノ二項)
 △差遣人ト執行力アル正本(五一九)
 第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行力ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得
 △強制執行ノ裁判權(五六三)
 第五百二十二條 執行力ノ付與ニ對シ債權者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行力ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス
 裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行スコキヲ命スルコトヲ得
 △執行力アル正本(五一六)
 △強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一三)
 △強制執行ノ裁判權(五六三)
 第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ敷通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セシメテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得
 裁判長ハ其ノ命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得
 相手方ヲ審訊セシメシテ執行力アル正本ノ敷通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ
 正本ノ敷通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ
 △執行力アル正本(五一六)
 第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲メ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ
 △執行力アル正本(五一六)
 第五百二十五條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及ブモノトス
 △執行力アル正本(五一六)
 第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ敷通ノ執行力アル正本ニ基キ敷通ノ地又ハ敷通ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權限ヲ有ス
 △執行力アル正本(五一六)
 第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲スコキ地ヲ管轄スル區域裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セザルトキハ其所在地ニ住居所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ
 △住所(民二一四)
 △事務所(民五〇)
 第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受タル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行力ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得
 判決ノ執行力其旨理ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承認人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承認人ニ對シ爲スコキトキハ執行スコキ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行力ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス
 若シ證明書ニ依リ執行力ヲ付與シタルトキハ亦其證明書ノ原本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス
 △判決正本ノ職權送達(一九三)
 △確定判決ノ效力及範圍(二〇一)
 △執行力アル正本ノ付與(五一六一)
 第五百二十九條 請求ノ主張力或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得
 若シ執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ關ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ

付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其原本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得
 △假執行ノ宣言(一九六)
 △送達(一六〇)
 第五百三十條 豫備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上級司令官處ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得
 此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與スコシ
 △強制執行(五六四以下)
 第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執達吏之ヲ實施ス債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得
 裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス
 △作爲、不作爲ノ強制執行方法(七三三、七三四)
 第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス
 第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケザルトキト雖モ支拂其
 他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得
 △執行力アル正本(五一六)
 第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス
 執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證明スル爲ニ之ヲ示スコシ
 △執達吏ノ權限(五三三)
 第五百三十五條 執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證書之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證書ヲ債務者ニ交付スコシ
 債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證書ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ
 △受領證書ノ請求(民四八六)
 第五百三十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債權者ノ住居、倉庫及ヒ債權ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ債權ヲ隠カシムル權利ヲ有ス
 抵抗ヲ受タル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用キ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ
 △執行行爲ノ管轄(五四三)
 △強制執行ト官廳ノ援助(五五五)
 第五百三十七條 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受タルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ關係人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ
 △執達吏ノ職務(執細五〇)
 第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閲覧ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ原本ヲ付與スルコトヲ要ス
 △執行行爲ノ管轄(五四三)
 第五百三十九條 夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行爲ヲ爲スコトヲ得
 △強制執行ノ管轄(五四三)
 第五百四十條 執達吏ハ各執行行爲ニ付キ圖畫ヲ作ル可シ
 此圖畫ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 圖畫ヲ作りタル場所、年月日
 第二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル

事情ノ略記
 第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示
 第四 右各人ノ署名捺印
 第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示
 第六 執達吏ノ署名捺印
 第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ
 △執達吏ノ強制力使用(五三六)
 △債務者ノ不在ト認人立會(五三七)
 第五百四十一條 執行行為ニ屬スル催告其ノ他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ
 若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲スハサルトキハ第六十七條、第六十八條、第七十一條及ヒ第七十二條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ原本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ
 若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ原本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ
 △救済實施ノ手續(六六三)
 △差押ノ通知(五六六)

△配當要求ノ通知(五九一)
 第五百四十二條 執行行為ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセズ
 第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行為ノ處分又ハ其行為ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス
 執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
 △強制執行ノ裁判(五六三)
 △金錢債權ノ強制執行(五六四以下)
 △金錢ヲ目的トセザル強制執行(七三〇以下)
 △假差押及假處分(七三七)
 第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス
 執達吏力執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ

異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス
 △執行行為ノ管轄(五四三)
 △強制執行ノ裁判(五六三)
 △強制執行ノ續行(五二二ノ二項)
 第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ
 右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ過クモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シタルトキニ限り之ヲ許ス債務者力救済ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス
 △攻撃防禦方法ノ提出時期(一三七)
 △異議ノ訴ト執行ノ制限又ハ續行(五四七)
 第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者力執行交付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承諾ヲ得フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此力爲ニ妨ケラサルコト無シ
 △請求ニ關スル異議(五四五)
 △異議ノ訴ト執行ノ制限又ハ停止(五四七)

第五百四十七條 強制執行ノ履行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラサルコト無シ
 然レトモ異議ノ爲主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ曉明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲ルニ至ルマテ保護ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保護ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保護ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得
 右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得
 急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス
 △說明方法(二六七)
 △強制執行ニ關スル保護又ハ供託(五一三)
 △執達吏ノ懈怠ト債權者ノ權利(五八八)
 第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付

キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得
 判決中前項ニ掲ケタル事項ニ關シテ權利ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ右裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 △請求ニ關スル異議(五四五)
 第五百四十九條 第三審カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨ケタル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセザルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ
 右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス
 右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス
 強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保護ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得
 △共同訴訟及其ノ效力(五九、六〇、六三)
 △執行行為ノ管轄(五四三)
 第五百五十條 強制執行ハ左ノ管轄ヲ提出シ

タル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ
 第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本
 第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本
 第三 執行ヲ免カサル爲メ擔保ヲ供シタルコトヲ證明スル書面
 第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者力辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ擔保ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書
 △強制執行ノ停止又ハ制限ノ效果(五五一)
 △假執行免除ノ宣言(一九六ノ二)
 △假執行宣言ノ效力消滅(一九八ノ一項)
 △異議ノ訴ノ執行ノ停止又ハ制限(五〇〇、五四七)
 △第三審ノ異議(五四九)
 △保護又ハ供託ノ證明(五一三ノ二項)
 △供託ノ方法(供法二)
 第五百五十一條 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル

執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行為ノ取消ヲ命セサルトキニ限リ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

△強制執行ノ停止又ハ制限(五五〇)

第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺產ニ對シ之ヲ續行ス可シ

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行為ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺產又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

△差押ノ通知(五六六)

△差押命令ノ通知(五九一)

△差押命令ノ通知(五九八)

△期日呼出(六一九)

第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ戶主アリシ債務者カ其地位ヲ嗣シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

△家督相續ノ開始原因(民九六四)

第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀

シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

△第一審判決ノ取消(三八六、三八七)

△破産差戻ノ判決(四〇七)

第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

△執達吏ノ強制力使用(五三六)

第五百五十六條 豫備、後備ノ軍艦ニ在ラザル軍人、軍艦ニ對シ兵營及ヒ軍事用倉庫又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ嘱托シテ之ヲ爲ス

嘱托ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

△執行行為ノ管轄(五四三)

第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ嘱托ス可シ

外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ嘱托ス可シ

△申立、申述ノ方式(一五〇)

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭

辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

△強制執行ト口頭辯論ヲ經サル裁判(五四三、五四七、七三三、七三五、七六一)

△即時抗告ノ提起期間(四一五)

第五百五十九條 強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二 假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令

第三 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作りタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

△第三者ノ訴訟費用負擔(九八)

△訴訟費用額確定ノ裁判(一〇〇)

△證人不出頭ノ制裁(二七七)

△證書拒絕ノ制裁(二八四)

△鑑定ノ準用規定(三〇一)

△支拂命令ト假執行ノ宣言(四三八)

△公證人ノ權限(公證一)

第五百六十條 前條ニ掲ケタル債務名義及ヒ訴訟上ノ和解並ニ請求ノ拋棄又ハ認諾ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃至第五百

五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此ノ限ニ在ラス

△裁判上ノ和解(二三六)

△和解ノ請求ノ拋棄若ハ認諾ノ效力(二〇三)

△和解ノ申立ノ效果(三五六)

第五百六十一條 假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ取纏アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ支拂命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ之ヲ許ス

執行文付與ニ付テハ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタル認メタル承認ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但此請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

△支拂命令ト假執行ノ宣言(四三八)

△執行異議ノ訴(五四五、五四六)

△執行力アル正本ノ付與(五一八、五一九、五二一)

△事物管轄(二二二、二二三)

第五百六十一條ノ二 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百六十二條 公證人ノ作りタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人ノ手付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テハ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テハ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地方裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

執行文付與ニ付テハ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタル認メタル承認ヲ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債權者カ本邦ニ於テ普通裁判所ヲ有スル地方裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

△判決以外ノ債務名義(五五九ノ三項)

△執行文付與ニ關スル異議申立ノ管轄(五二二ノ一項)

△請求ニ關スル異議ノ訴(五四五)

△普通裁判所(一四四)

△公證人ノ權限(公證一)

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判所ハ專屬ナリトス

△合意管轄ノ制限(二七)

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲メ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

△執行力アル正本(五一六)

△強制執行ノ費用(五四四)

△動産ト不動産(民八六)

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ實得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此力爲ニ妨ケラルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付テ疎明アリタルトキハ裁判所ハ實得金ノ供託

ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百五十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債權者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生ス

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レザル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一箇月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十九條 債權者ハ其物ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一箇月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

△果實又ハ蠶ノ糞(五八四)
△天然果實ト法定果實(民八八)

第五百六十九條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及ブモノトス
△天然果實ト法定果實(民八八)

第五百七十條 左ニ掲ケル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
第一 衣服、履具、家具及ヒ厨具但此物カ債權者及ヒ家族ノ爲メ缺ク可カラザルトキニ限ル

第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及ヒ薪炭

第三 技術者、職工、勞役者及ヒ娯樂ニ在テハ其營業上缺ク可カラザル物

第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラザル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラザル農産物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラザル物

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶、及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケザル金額但差押ヨリ次期

ノ得給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ藥劑ヲ爲ス爲メ缺ク可カラザル器具及ヒ藥品
第八 勳章及ヒ名譽ノ證
第九 實印其他職業ニ必要ナル印
第十 神體、佛像其ノ他禮拜ニ用供スル物

第十一 系譜
第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本
第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除外之ヲ差押フルコトヲ得

△家族ノ範圍(民七三二)

第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコシ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セス

テ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百七十三條 競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條 差押金額ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

第五百七十五條 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少クテモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若ハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危險ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルト

キハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

第五百七十七條 最高價競賣ノ爲メ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

第五百七十八條 最高價競賣ノ爲メ競落ハ又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終リ前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ヲ引渡ヲ求メザルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競賣ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十九條 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百八十條 競賣ハ賣得金ヲ預收シタルトキハ債權者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト爲做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十一條 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條 土地ヨリ離レザル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ

シ

△執行裁判所ノ管轄(五九五)
 △申立、申述ノ方式(一五〇)

第六百三條 手形其他書據ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス
 △裏書ヲ以テ移轉スル證券(商三六四、三八三ノ二、三三四ノ三、四四五以下、六二九)

第六百四條 債給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス
 △差押禁止ノ債權(六一八)
 第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ヲ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス

△差押禁止ノ債權(六一八)
 第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證券ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證券ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得
 △債權ニ對スル執行方法(五九四)
 第六百七條 第九十六條第二項ニ從ヒテ債務者ニ擔保ヲ供セシメテ執行ヲ免カサルコトヲ許スコトキハ差押ヘタル金銀債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲スコシ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル

效力ノミヲ有ス
 △債權ノ取立命令及轉付命令(六〇〇)
 第六百八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ
 △執行裁判所ノ管轄(五九五)
 第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメシムルコトヲ執行所ニ申立ツルコトヲ得
 第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度
 第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類
 第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類
 右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス
 △金錢債權ノ差押(五九八)
 第六百十條 債權者カ命令ノ旨ニ基キ第三債務者ニ對シテ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ債權額ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ
 △債權ノ取立命令及轉付命令(六〇〇)
 △取立命令ノ效力(六〇二)
 △訴訟ノ告知(七六)

第六百十一條 債權者カ取立ヲ爲スコキ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此ノ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス
 △取立命令ノ效力(六〇二)
 第六百十二條 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ密セラルルコト無シ
 此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其際ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ
 △取立命令ノ效力(六〇二)
 第六百十三條 差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ關リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得
 債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下條條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス
 △有體物(民八五、八六)
 第六百十五條 有體物ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡スコトキトテ命ス可シ

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス
 △差押物ノ公賣、引渡及賣買ノ手續(五七二以下)
 第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡スコトキトテ命ス可シ
 引渡シタル不動産ニ付テハ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス
 △不動産請求ト第三債務者ノ權利義務(六二二)
 △不動産ニ對スル強制執行(六四〇一七一六)
 第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ差押ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス
 △有體物ノ引渡又ハ給付債權ノ差押(六一四)
 △債權ノ取立及轉付命令(六〇〇)
 第六百十八條 左ニ掲タル債權ハ之ヲ差押スルコトヲ得ス
 第一 法律上ノ權利
 第二 債務者カ擔保施設所ヨリ又ハ第三債務者ノ慈悲ニ因リ受ケル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノ

ノニ限ル
 第三 下士、兵卒ノ給料及恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
 第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍人ノ遺族ノ扶助料
 第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
 第六 職工、勞務者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲メ受ケル報酬
 第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一箇年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押スルコトヲ得
 △扶養ノ義務(民九五四)
 第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲スコキ債權ノ差押ニ付テハ前條條ノ規定ヲ準用ス
 △債權ニ對スル強制執行(五九四以下)
 第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十九條及ヒ第五

百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス
 支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス
 右配當要求ハ債權者ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押力取消トシタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス
 △執行力アル正本(五一六)
 △執行裁判所ノ管轄(五九五)
 △債權取立ノ届出(六〇八)
 △取立命令及轉付命令(六〇〇)
 第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ
 第三債務者ハ配當ニ與カル債權者ノ要求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ
 第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事ヲ裁判所ニ届出ツ可シ
 △配當要求ノ送達(六二〇ノ三項)
 △強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一三)
 第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ

有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

△申立、申述ノ方式(一五〇)
△強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一三)

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セザルトキハ差押債權者ハ執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラザル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アラソコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス効力アリ

△執行力アル正本(五一六)
△共同訴訟(五九一六三)

第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スコキコトヲ催告シ其催告ノ效アラザルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲スコトヲ得

△債權ノ取立及轉付命令(六〇〇)
△執行力アル正本(五一六)

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前敷

際ニ掲ケタル以外ノ財產權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其ノ權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

△金錢債權ノ差押(五九八)
第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議圖ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

△賣得金ノ供託(五九三)
△第三債務者ノ權利義務(六二二)

第六百二十七條 裁判所ハ事情屆書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出スコキ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

△賣得金ノ供託(五九三)
△第三債務者ノ届出(六二一ノ三項)

第六百二十八條 前條ノ期間満了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セザル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ

其憑證書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

△第三債務者ノ權利届出(六二一ノ三項)
△賣得金ノ供託(五九三)

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出スコシ但債務者ノ所在明カナラザルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閲覧セシムル爲メ通タトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

△配當表ノ作成(六二八)
第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セザル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ届書ヲ作ル可シ
△賣得金ノ供託(五九三)
△供託ノ届出(六二一ノ三項)

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲スコシ若シ關係人

取テケタルモノト看做サレタルコトヲ證明アルトキハ配當裁判所ハ之ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

△配當異議ノ訴ノ判決ノ内容(六三六)
△判決確定ノ證明書(四九九)

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

期日ニ出頭セザル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

△配當表ノ作成(六二八)
△執行力アル正本(五一六)

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左

異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セザルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當ヲ實施ス可シ

△配當表ノ作成(六二八)

第六百三十二條 期日ニ出頭セザル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セザル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メザルモノト看做ス

△異議申立ナキ場合ノ配當(六三〇)
第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セザルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シテ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタルトキハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ヲ實施ス可シ

△異議申立アル場合ノ配當(六三一)
第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルコト無シ

△異議申立アル場合ノ配當(六三一)
△異議ノ訴ノ證明(六三三)

民事訴訟法 第六編 強制執行 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 五七

ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制執行

債權者ハ自己ノ選擇ニ因リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

△強制執行(六四二以下)

△強制管理(七〇六以下)

△假差押及ヒ假處分(七三七以下)

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内に散在スルトキハ各區裁判所管轄權ヲ有ス此場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ事件ヲ他ノ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

△申立、申述ノ方式(一五〇)

△執行行為ノ管轄(五四三)

△執行管轄ノ專屬(五六三)

第二款 強制執行

第六百四十二條 強制執行ノ申立ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二 不動産ノ表示

第三 債權ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

△強制執行ノ基本裁判(四九七)

△判決以外ノ債務名義(五五九)

△刑事上ノ債務名義(刑訴五五三)

△貼用印紙(民印六一)

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添付ス可シ

第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ登記簿

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證明ス可キ證書

第三 地所ニ付テハ同郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地區帳ニ登録シタル貸賃價格及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一年ノ租稅其他ノ公課ヲ證明ス可キ證書

第四 建物ニ付テハ同郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一年ノ公課ヲ證明ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ貸賃借アル場合ニ於テハ其期限及ヒ借賃額ヲ證明ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添付スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執行力アル正本ニ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添付スルコトヲ要セス

△執行力アル正本(五一六)

△不動産ニ對スル執行機關(六四一)

△貸賃借(民六〇以下)

第六百四十四條 債權手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者力不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

△送達(一六〇以下)

第六百四十五條 裁判所ハ執行手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制執行ノ申立アルモノモ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添付スルニ因リ配當要

求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル執行手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限りハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

△配當要求ノ申立(六四六)

△假差押ノ要件(七三七)

△差押不動産ノ賣却條件(六四九ノ一項)

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

右要求ハ假差押ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

△不動産ノ執行機關(六四一)

△假差押日及場所(六六〇)

△住所(民二二一以下)

△事務所(民二二四)

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知

アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シテ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條 左ニ掲グル者ヲ執行手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

第五 知レタル抵當證券ノ所持人及ヒ裏書人

△執行力アル正本(五一六)

△不動産上ノ權利者(民三二五以下、三六九以下)

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先タク債權ニ關スル不動産ノ賣却ヲ債務者ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其債權ヲ辨済スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ債務者ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨済スル責ニ任ス

債權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ債務者ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨済スル責ニ任ス

△賣却條件ノ變更(六六二)

△假差押許可ニ對スル異議ノ理由(六七二ノ三項)

△留置權(民二九五以下)

△先取特權(民三〇三以下)

△抵當權(民三六九以下)

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ假差押ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り新所有者其取得ノ際差押又ハ假差押ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ執行手續ヲ進行ス可シ

△強制執行ノ申立(六四二)

第六百五十一條 裁判所ハ執行手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ賣買ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

△競賣手續開始決定(六四四)
 第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ原本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

△競賣申立ノ登記ノ囑託(六五一)
 第六百五十三條 簿メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

△競賣手續開始決定(六四四)
 第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

△競賣手續開始決定(六四四)
 第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

△競賣期日ノ公告(六六二)
 第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

△最低競賣價額ノ決定(六五五)
 △期間(一五六)
 △期間ノ伸縮(一五八)
 第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ算濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競賣期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

△競賣期日ノ場所及日時(六五八)
 第六百五十九條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

△強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
 第一 不動産ノ表示
 第二 租稅其他ノ公課
 第三 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
 第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所
 第六 最低競賣價額
 第七 競賣期日ノ場所及ヒ日時
 第八 執行記録ヲ閲覧シ得ヘキ場所
 第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ヘキ旨
 第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

△競賣許可ニ對スル異議(六七二ノ四號)
 △競賣期日(六五九)
 △最低競賣價額ノ決定(六五五)
 △競賣期日ノ開始場所(六六〇)
 △競賣ノ利害關係人(六四八)
 △留置權(民二九五)
 △先取特權(民三三八)

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ
 此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシ

△期間及其ノ伸縮(一五六、一五八)
 △競賣期日公告ノ要件(六五七)
 △競賣許可ニ對スル異議ノ理由(六七二ノ六號)

第六百六十條 競賣期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

△期間及其ノ伸縮(一五六、一五八)
 第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ掲示シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ掲示板
 第二 不動産所在地ノ市町村ノ掲示板
 此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲示スルコトヲ得

△競賣許可ニ對スル異議ノ理由(六七二ノ五號)

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル競賣條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

△競賣申出ニ對スル保證(六六四)
 △競賣申出ノ效力(六六五)
 △新競賣期日(六七〇)
 △競賣條件及其效力(六四九)
 △最高價ハ札人ノ決定(七〇五)
 △事變ニ因ル競賣ノ取消(六七八)
 △競賣不動産ノ管理及引渡(六八七)

△剩餘ヲ得ル見込ナキ場合ノ手續(六五六)
 第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先ダツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ算濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ算濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

△競賣條件ノ變更(六二二)
 △競賣許可決定ニ對スル異議申立(六七二)

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閲覧ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競賣價額申出ヲ催告ス可シ

△競賣期日ノ要件(六五九)
 △競賣價額ノ要件(六六七)
 第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメント申出ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競賣價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競賣ヲ許サス

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

△競賣ノ利害關係人(六四八)
 △競賣圖書ノ要件(六六七)
 △競賣圖書ノ範圍(六九四)
 △競賣代金ノ範圍(六九四)

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

競買ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

△競賣實施ノ手續(六六三)
 △競賣許可ニ對スル異議(六七二)

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ義務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

△競賣申出ニ對スル保證(六六四)
 △競賣圖書ノ要件(六六七)
 △競賣許可ニ對スル異議申立ノ理由(六七七)

第六百六十七條 競賣ニ付キ作ル可キ圖書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示
 第二 差押債權者ノ表示
 第三 執行記録ヲ各人ノ閲覧ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト
 第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時
 第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ附ス可キ競買ノ申出ナキコト
 第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時
 第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト
 第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ

呼上ケタルコト
最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ
調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ
作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可
シ
競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證
券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取
リ之ヲ調書ニ添付ス可シ
△競買實施ニ關スル手續(六六三、六六
四、六六六)
△競買ノ利害關係人(六四八)
第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買
ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニ
シテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記
ニ之ヲ渡ス可シ
△競買調書(六七七)
△競買申出ニ對スル保證(六六四)
第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ
所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セザルトキ
ハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所
ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第百
七十條第二項及ヒ第七十三條ノ規定ヲ準
用ス住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ
作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得
第六百七十條 競買期日ニ於テ許ス可キ競買
價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一
項ノ規定ヲ準セザル限リハ裁判所ハ其意見

ヲ以テ最低價賣價額ヲ相當ニ低減シ新競買
期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス
可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ
新競買期日ハ少クテモ十四日ノ後タル可シ
△競買條件(六四九ノ一項)
△最低價賣價額ノ決定(六五五)
△競買條件ノ變更(六六二)
△競買許可ニ對スル異議(六七二)
第六百七十一條 裁判所ハ競買期日ニ出頭シ
タル利害關係人ニ競買ノ許可ニ付キ陳述ヲ
爲サシム可シ
競買ノ競買ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ル
マテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議
ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ
△競買期日場所(六六〇)
△競買ノ利害關係人(六四八)
△競買終局ノ告知(六六六)
第六百七十二條 競買ノ許可ニ付テノ異議ハ
左ノ理由ニ基クコトヲ要ス
第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又
ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
第二 最高價競買人買取約ヲ取結ヒ若
クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
第三 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買
ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ
變更シタルコト

第四 競買期日ノ公告ニ第六百五十八條
ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト
第五 競買期日ノ公告ハ法律上規定シタ
ル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト
第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間
ヲ存セザリシコト
第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百
六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコ
ト
第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最
高價競買人ナリト呼上ケタルコト
△異議ノ陳述(六七二)
△競買ノ許可ノ決定(六七四)
△競買ノ利害關係人(六四九)
△競買期日公告ノ要件(六五八)
△競買ノ期日及開始ノ場所(六五九)
△競買終局ノ方式(六六六)
△競買申出ニ對スル保證(六六四)
第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權
利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス
△競買ノ利害關係人(六四八)
第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當
トスルトキハ競買ヲ許サス
第六百七十二條第一項ニ至リ第八號ニ掲ケタ
ル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競買ヲ
許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競買シタル

不動産力讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ
又ハ競買手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ
第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠
缺力除去セラレザルトキニ限リ第三號ノ場
合ニ於テハ利害關係人手續ノ履行ニ付キ家
認セザルトキニ限ル
△強制執行ノ停止又ハ制限(五五〇)
第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競買ニ付シ
タル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ
各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用
ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テ
ハ競買ヲ許サス
此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可
キモノヲ指定スルコトヲ得
△強制執行ノ費用(五五四)
第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百
七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競買ヲ許ササル
場合ニ於テ更ニ競買ヲ許ス可キトキハ職權
ヲ以テ新競買期日ヲ定ム可シ
新競買期日ハ少クテモ十四日ノ後タル可
シ
△競買許可ニ對スル異議(六七二)
△競買許可ノ決定(六七四)
第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競買
期日ヲ定ムル場合ノ外競買ヲ許シ又ハ許サ
サル決定ノ言渡ヲ爲スコトヲ得
競買期日ノ調書ニ付テハ第四百二十二條乃至

第四百十七條ノ規定ヲ準用ス
第六百七十八條 競買期日ト競買期日トノ間
ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産力若クハ資
格シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受
ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損
ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之
ヲ定ム
△競買ノ期日場所(六五九)
△競買終局ノ告知(六六六)
第六百七十九條 競買ノ許可ニ付テハ競買ヲ
爲シタル不動産、競買人及ヒ競買ノ許可シタ
ル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ
競買ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ケ可シ
右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ揭示板
ニ揭示シテ公告ス可シ
△競買許可決定ノ言渡(六七七ノ一項)
第六百八十條 利害關係人ハ競買ノ許可ニ付
テノ決定ニ因リ損失ヲ被ル可キ場合ニ於
テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
競買ノ許可ニ付テキ理由ナキコト又ハ決定ニ掲
ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主
張スル競買人又ハ競買ヲ求メ之ヲ許ス可キ
コトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲ス
コトヲ得
右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
第二項ノ場合ニ於テ競買ヲ求メタル競買人
ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモ

ノトス
△競買ノ利害關係人(六四八)
△即時抗告ノ提起期間(四一五)
△抗告ト執行停止ノ效力(四一八)
第六百八十一條 競買ヲ許ササル決定ニ對ス
ル抗告ハ此法律ニ掲ケタル理由トシテ不許ノ原因
ナキコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲ス
コトヲ得
競買ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律
ニ掲ケタル理由トシテ不許ノ原因
一 理由トスルトキ又ハ競買決定力競買期
日ノ調書ノ旨趣ニ抵觸シタルコトヲ理由ト
スルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
再審ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項
ノ規定ニ依リ妨ケラルルコト無シ
△競買許可ニ對スル異議(六七二)
△競買許可決定ノ言渡(六七七)
△再審ノ理由(四二〇)
第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合
ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人
ノ相手方ヲ定ム可シ
一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併
合ス可シ
第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定
ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス
△抗告審理ノ方式(四一九)
△異議申立ノ條件(六七三)

△裁落不許可ノ決定(六七四)
 第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ指示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十四條 裁落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ裁落人及ヒ裁落ヲ求メタル債買人ハ其裁買ノ義務ヲ免カル

△裁落不許可ノ決定(六七四)
 第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ裁買取消ノ爲メ裁落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條 裁落人ハ裁落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトシ

△賣却條件ノ變更(六六二)
 △裁落許可ニ對スル異議(六七二)
 第六百八十七條 裁落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

裁落人若クハ債權者裁落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメントコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債權者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ裁落人若クハ債權者申立ニ因リ裁判所ハ執事更ラシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

再裁買期日ハ少ナク十日ノ後タル可シ裁落人カ再裁買期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再裁買手續ヲ取消ス可シ

再裁買ヲ爲ストキハ前ノ裁落人ハ裁買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ裁落代價力最初ノ裁落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

△代金支拂及配當實施ノ呼出(六九三)
 △最低裁買價額ノ決定(六五五)
 △賣却條件ノ變更(六六二)
 △強制執行ノ費用(五五四)
 第六百八十九條 共有物持分ノ強制裁買ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制裁買ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制裁買ノ申立

ヲ通知ス可シ

最低裁買價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

△賣却條件ノ變更(六五五)
 △共有(民二四九一、二六四)
 第六百九十條 裁買申立カ裁落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記簿ニ記入ス可シ

△裁買申立記入ノ嘱托(六五一)
 △裁落不許可ノ決定(六七五)
 第六百九十一條 裁落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

△賣却代金ノ範圍(六九四)
 △民法ニ從ヒテ配當スル場合(二九五、二九七、三〇三、三〇四、三〇六一、三〇一、三二九、三三三、三四二)
 △特別法ニ依リ配當スル場合(府縣制(一一一六、府制一一一、町村制(一一一))

第六百九十二條 各債權者ハ裁落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

△裁落期日(六六〇ノ一項)

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ裁落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ裁落ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ裁落人ヲ呼出ス可シ

△裁落許可ノ決定ノ要件(六七九)
 △裁買ノ利害關係人(六四八)
 △執行力アル正本(五一六)
 第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金銭ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ裁落決定後ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高裁買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

△支拂又ハ配當實施ノ呼出(六九三)
 第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

△配當表ノ作成(六九六)
 △配當要求ノ申立(六四六)
 △裁買ノ利害關係人(六四八)

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル債權者ノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

△裁買ノ利害關係人(六四八)
 第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

△配當表ノ確定(六九五)
 △配當表ノ作成(六九六)
 第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債權者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ債權ノ届出ヲ爲ササル抵當證券ノ所持人ノ債權又ハ其順位ニ對シ異議ヲ申立ツル爲メシタル債權者又ハ他ノ債權者ノ提起スヘキ訴ニ付テハ第六百九十七條ノ規定ニ依リ準用セラルル第六百三十三條ノ期間ハ其所持人ノ知レタル日ヨリ之ヲ起算ス

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債權者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ

第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條 裁落人ハ賣却條件ニ依リ不動産ノ賣却ヲ引受ル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限リシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受タルコトヲ得若シ債權者裁落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受タ可キ債務又ハ計算ス可キ裁落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

△賣却條件ノ變更(六六二)
 △配當ノ異議及配當ノ實施(六九七)
 第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當圖書及ヒ裁落決定ノ正本ヲ登記簿ニ送付シテ左ノ諸件ヲ嘱托ス可シ

第一 裁落人ノ所有權ノ登記

第二 裁落人ノ引受ケサル不動産上質擔記入ノ抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ裁落人之ヲ負擔ス可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲スコキ不動産ノ裁買手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

△入札ノ手續(七〇二以下)
 第七百二條 裁判所ハ拍賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ拍賣ニ換ヘテ入札ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス
 △拍賣手續ノ利害關係人(六四八)
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 入札人ノ氏名及ヒ住所
 第二 不動産ノ表示
 第三 入札價額
 △入札拂ノ手續(七〇二)
 △拍賣期日公告ニ具備スヘキ要件(六五八)
 △入札ノ方式(七〇三)
 第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ
 二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム
 一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

△入札ノ方式(七〇三)
 第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求テ受ケタルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ
 第三節 強制管理
 第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス
 不動產力債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動產力債權者カ占有スルコトヲ證明スル證書ヲ以テ足ル
 第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ト事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲スコトヲ命ス可シ
 既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス開

始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 △送達(一六〇以下)
 第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス
 右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス
 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セズ
 △管理開始決定ノ效力(七〇七)
 △配當要求ノ手續(七〇九)
 △強制管理ノ取消(七二六)
 △假差押及假處分(七三七以下)
 第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ付テモ事務ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコシ
 △執行力アル正本(五一六)
 △住所(民二一四)
 △事務所(民四〇)
 第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

△管理申立兼合ノ效果(七〇八)
 △配當要求ノ手續(七〇九)
 第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得
 管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ら不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受ケルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得
 管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス
 △執達吏ノ強制力使用(五三六)
 第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ
 裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ裁判所以下ノ過料ヲ管渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得
 △強制管理開始決定(七〇七)
 △強制執行ニ關スル保管又ハ供託(五一三)
 第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨ケル權利ヲ主張スルトキハ第七百四十九條ノ規定ヲ準用ス
 第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ

得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ提出ス可シ
 前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權ニ支配ヲ爲サシム可シ
 △裁奪ノ決定ト賣却代金ノ配當(六九二)
 △配當表ノ作成(六九六)
 △配當異議ノ完結及配當表ノ實施(六九七)
 △配當表ノ異議申立權者(六九八)
 △賣却代金ノ支出方法(六九六)
 第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出スコトヲ得
 各債權者及ヒ債務者ハ計算書ヲ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス
 異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立

ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ
 △申立、申述ノ方式(一五〇)
 第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 若シ管理履行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得
 裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ
 △強制管理ノ申立(七〇六)
 △拍賣申立登記ノ囑託(六五二)
 第三節 船舶ニ對スル強制執行
 第七百十七條 船舶其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制執行ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス
 船舶其他機軸ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ機軸ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セズ
 △不動産ニ對スル強制執行(六四〇一七〇五)

△船舶ノ差押及假處分(商五四三)
第七百十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ船舶ノ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

△執行行為ノ管轄(五四三)
第七百十九條 船舶ノ執行手續中差押ノ港ニ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ執行ヲ許スコトヲ得

△船舶ニ對スル強制執行(七一七)
第七百二十條 強制執行ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添付ス可シ

第一 債務者カ所有ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船舶長ナル場合ニ於テハ船舶長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ曉明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遡隔ノ地ニ

在ルトキハ第二號ノ原本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

△裁判方法(二六七)
第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ看守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

第七百二十二條 裁判所ハ開始決定ノ送達前此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ履行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

△船舶ニ對スル強制執行(七一七ノ一項)
第七百二十三條 船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セザルコトノ顯ハルルトキハ其

手續ヲ取消ス可シ

△船舶差押ノ管轄(七一八)
第七百二十四條 裁判所ハ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ケ可シ

△不動産ノ表示(六五八第五號)
第七百二十五條 定置港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ裁判期日ノ公告ヲ定置港ノ區裁判所ニ送達シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

△船舶差押ノ管轄(七一八)
第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定置港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證明ス可キ船舶登記簿ノ原本又ハ信用スヘキ證明書ヲ添付ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

△船舶ニ對スル強制執行(七一七ノ一項)
△送達(一六〇以下)

△船舶管理人(商五五五二)
第七百二十八條 船舶ノ強制執行ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

△配當手續(六二六ト六三九)
第七百二十九條 外關ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セザル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

△船舶ニ對スル強制執行(七一七ノ一項)

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇入ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ拒ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ賣價ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

△差押後ニ於ケル手續(五七二以下)
第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

△債權ニ對スル強制執行(五九四以下)
第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

債權者ハ同時ニ其ノ行為ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂フ爲サシムル決定ノ宣言アラントコトヲ申立ツルコトヲ得但其行為ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

第七百三十四條 債務ノ性質カ強制執行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲サザルトキハ其遲延ノ期間ニ應ジ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

△申立、申述ノ方式(五〇)
第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

△代替的執行ヲ目的トスル債權ノ執行(七三三)
第七百三十六條 債權者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

△不動産(民八六)
第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセザル債權ニ付テノ強制執行

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金

債権に換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ
 動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全ス
 ル爲メ之ヲ爲スコトヲ得
 假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ
 亦之ヲ爲スコトヲ得
 △不動産(民八六)
 △假差押ヲ爲スヘキ場合(七三三)
 第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲サレハ判
 決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行
 ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊
 ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キ
 トキハ之ヲ爲スコトヲ得
 △假差押ヲ爲スヘキ場合(七三七)
 第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假差押ヲ
 可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本
 案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス
 △本案ノ管轄裁判所(七六三)
 △執行管轄ノ專屬(五六三)
 第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ條件ヲ
 掲ク可シ
 第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金
 額ニ保ラサルトキハ其價額
 第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
 請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ曉明ス可シ
 申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 △假差押ヲ爲スヘキ場合(七三八)
 △曉明方法(二六七)

△申立、申述ノ方式(一五〇)
 第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判
 ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
 請求又ハ假差押ノ理由ヲ曉明セサルトキト
 摩モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ
 爲メ債権者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ
 定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差
 押ヲ命スルコトヲ得
 又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ曉明シタルトキ
 ト摩モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命
 スルコトヲ得
 保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコ
 ト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコ
 トヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ
 △曉明方法(二六七)
 △強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一
 三)
 △假差押命令ノ記載事項(七四三)
 第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判
 ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ
 以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以
 テ之ヲ爲ス
 假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシム
 ル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セ
 ス
 △假差押ト保證(七四一)
 第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ

執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シ
 タル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者
 ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ
 △假差押申請ノ審理及裁判(七四一)
 △強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一
 三)
 第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ
 異議ヲ申立ツルコトヲ得
 此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申
 立ツル理由ヲ開示ス可シ
 異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス
 △假差押ノ裁判ノ形式(七四二)
 第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ
 裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可
 シ
 裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若ク
 ハ一分ノ認可變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由
 ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコト
 ノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得
 △強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一
 三)
 第七百四十六條 本案ノ未タ審理セサルトキ
 ハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭
 辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ
 起スコキコトヲ債権者ニ命ス可シ
 此期間ヲ経過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因
 リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消スコトヲ得

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅
 シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ
 自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テシ
 トノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後
 ト摩モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得
 此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス
 其裁判ハ假差押ノ命シタル裁判所又ハ本案
 カ既ニ管轄シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ
 爲ス
 △強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一
 三)
 第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制
 執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於
 テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス
 △強制執行ニ關スル規定(四九七以下)
 第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其ノ命令
 ヲ發シタル債権者又ハ債務者ニ於テ管轄
 アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要
 ス
 假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立
 人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ
 経過スルトキハ此ヲ爲スコトヲ許サス
 右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト
 摩モ之ヲ爲スコトヲ得
 △執行力アル正本(五一六以下)
 △送達(一六〇以下)
 △期間(一五六以下)

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ
 各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス
 債権ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁
 判所ヲ以テ管轄執行裁判所トシ債権ノ假差
 押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂
 ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲スコトヲ
 得
 假差押ノ金額ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押
 ノ發賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時
 ノ之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額
 ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯蔵ニ付
 キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁
 判所ハ申立ニ因リ其物ヲ發賣シ實得金ヲ供
 託ス可キ旨ヲ執達ニ命スルコトヲ得
 △動産(民八六)
 △執行行為ノ管轄(五四三)
 △執行裁判所ノ管轄(五九五)
 第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執
 行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因
 リテ之ヲ爲ス
 △不動産(民八六)
 第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理
 ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債権ニ相當
 スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ
 △假差押執行ノ強制管理(六四ノ三項)
 △強制管理(七〇六、七〇七)
 第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行
 ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムル

コトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債権者ノ申
 立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナ
 ル處分ヲ爲ス
 △假差押ノ執行(七四八)
 △船舶ノ假差押(商五四三)
 第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル
 金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行
 シタル假差押ヲ取消スコトヲ得
 假差押ノ執行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之
 カ爲メ必要ナル金額ヲ債権者カ負擔セサル
 トキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命ス
 ルコトヲ得
 右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコト
 ヲ得
 假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ
 爲スコトヲ得
 △假差押命令ト執行停止ノ供託(七四三)
 △即時抗告ノ提起期間(四一五)
 第七百五十五條 保爭物ニ關スル假處分ハ現
 狀ノ變更ニ因リ債務者一方ノ權利ノ實行ヲ
 爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難
 ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス
 △假ノ地位ヲ定ムル假處分(七六〇)
 第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ
 付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定
 ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルト
 キハ此限ニ在ラス

第七百五十六條ノ二 假處分ヲ取消ス判決ハ
 財産權上ノ請求ニ關セザルモノニ付テモ假
 執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得
 第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本編ノ管轄
 裁判所之ヲ管轄ス
 右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ
 經シテ之ヲ爲スコトヲ得
 △本案ノ管轄裁判所(七六二)
 △急迫ナル場合ノ假處分(七六一)
 第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立
 ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム
 假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ
 命ジ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコト
 ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲
 スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五
 十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ
 記入セシム可シ
 △不動産ニ對スル假差押(七五一)
 第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限リ
 保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコト
 ヲ得
 △強制執行ニ關スル保證又ハ供託(五一
 三)
 第七百六十條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付
 キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコト
 ヲ得但此處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付
 キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ
 防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要ト
 スルトキニ限ル
 △假處分ニ關スル假處分ヲ許ス場合(七
 五五)
 第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ保
 物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ
 當否ニ付テハ口頭辯論ヲ爲メ本案ノ管轄裁
 判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定
 メ假處分ヲ命スルコトヲ得
 此期間ヲ從過シタル後區裁判所ハ申立ニ因
 リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ
 右裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコト
 ヲ得
 △假處分ノ管轄裁判所(七五七)
 △本案ノ管轄裁判所(七六二)
 第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ
 管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案力控
 訴審ニ關スルモノニ限リ控訴裁判所トス
 △假差押及假處分(七三七以下)
 第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯
 論ヲ要セザルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申
 立ニ付テ裁判ヲ爲スコトヲ得
 △假差押執行ノ取消(七五四)
 △假處分申請ノ審理方式(七五七ノ二項)
 △急迫ナル場合ノ假處分(七六一)

第七編 公示催告手續

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サ
 シムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ
 爲サザルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法
 律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
 公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス
 △登記權利者ノ公示催告申立(不登一四
 二)
 第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ
 口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 此申立ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ
 之ヲ爲スコトヲ得
 申立ヲ許スコキトキハ裁判所ハ公示催告ヲ
 爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ條件ヲ掲
 ク可シ
 第一 申立人ノ表示
 第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテ
 ニ届出ツ可キコトノ催告
 第三 届出ヲ爲サザルニ因リ生ス可キ失
 權ノ表示
 第四 公示催告期日ノ指定
 △公告ト公示催告期日トノ時間(七
 六七)
 第七百六十六條 公示催告ニ付テハ公告ハ裁
 判所ノ揭示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ
 掲載シテ之ヲ爲ス

裁判所相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ公告ス
 可キコトヲ命スルコトヲ得
 △除權判決ニ對スル不服申立(七七四)
 △公示催告ノ公告(七八二)
 第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ
 掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法
 律ニ別段ノ規定ヲ設ケザルトキハ少ナクト
 モ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス
 △期間(一五六、一五八)
 △公示催告ノ公告(七六六)
 △除權判決ニ對スル不服申立(七七四)
 第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後
 ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當
 ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 △除權判決ノ手續(七六九)
 第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之
 ヲ爲ス
 右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲スコキ旨ヲ命
 スルコトヲ得
 除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判
 決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時
 抗告ヲ爲スコトヲ得
 △即時抗告提起期間(四一五)
 第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主
 張シタル權利ヲ爭フコトノ届出アリタルト
 キハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テハ
 裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止ス

除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可
 シ
 △除權判決ノ手續(七六九)
 第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出
 頭セザルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム
 可シ
 此申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内
 ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス
 △公告ト公示催告期日トノ時間(七六七)
 △期間及其ノ伸縮(一五六、一五八)
 第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲
 メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ
 爲スコトヲ要セス
 △公示催告手續(七六四以下)
 第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナ
 ル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲
 スコトヲ得
 △除權判決ノ公告(七八四)
 第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ
 爲スコトヲ得ス
 除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人
 ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管
 轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ
 得
 第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場
 合ニ非ザルトキ
 第二 公示催告ニ付テハ公告ヲ爲サス又

ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲
 サザルトキ
 第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セザルトキ
 第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務
 ノ執行ヨリ除外セラレタルトキ
 第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘
 ハラス判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ
 圖ミザルトキ
 第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ
 場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存ス
 ルトキ
 第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一箇月ノ不
 變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除
 權判決ヲ知りタル日ヲ以テ始マル然レトモ
 前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立
 ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日
 ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間
 ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始
 マル
 除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五箇年ノ
 満了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス
 △期間及其ノ短縮(一五六、一五八)
 第七百六十六條 裁判所ハ數箇ノ公示催告ノ
 併合ヲ命スルコトヲ得
 △公示催告ノ申立(七六五)
 第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若ハ遺
 失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキ

コトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス
 公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定
 ヲ適用ス
 此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證
 書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケザル限
 リハ之ヲ適用ス
 △公示催告ニ因リ無効ト爲シ得ル證書
 (民法五七、商二八一)
 第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ
 移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ
 付テハ最終ノ所特人公示催告手續ヲ申立ツ
 ル權アリ
 此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張
 シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ
 △公示催告ノ申立(七六五ノ一項)
 第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示
 シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書
 ニ其履行地ヲ表示セザルトキハ發行人カ普
 通裁判所ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其
 裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通
 裁判所ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス
 證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記
 入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管
 轄ニ專屬ス
 △普通裁判所(一四)
 △合意管轄ノ制限(二七)
 第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左

ノ手續ヲ爲スコシ
 第一 證書ノ原本ヲ差出シ又ハ證書ノ重
 要ナル旨題及ヒ證書ヲ十分ニ認知スル
 ニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト
 第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示
 催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由
 タル事實ヲ説明スルコト
 △公示催告ノ申立(七六五ノ一項)
 △説明方法(二六七)
 第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日
 マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提
 出ス可キ旨ヲ證書ノ所特人ニ催告ス可ク又
 失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲スコキ旨ヲ
 戒示ス可シ
 △公示催告ノ要件(七六五)
 第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ
 揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及
 ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス
 公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキ
 ハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可シ
 △除權判決ト不服申立(七七四)
 △公告ト公示催告期日トノ時間(七七七)
 第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ
 掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少
 ナクトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス
 △除權判決ニ對スル不服申立(七七四)

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無
 効ナリト宣言ス可シ
 除權判決ノ重要ナル旨題ハ官報又ハ公報ヲ
 以テ之ヲ公告ス可シ
 不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ
 取消シタルトキハ其ノ判決ノ確定後官報又
 ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ
 △除權判決ノ公告(七七三)
 第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其
 申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對
 シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得
 △除權判決ノ手續(七六九)
 第八編 仲裁手続
 第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシ
 テ伊ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ保
 伊物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り
 其效力ヲ有ス
 △仲裁人ノ選定(七八八)
 第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約
 ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争
 ニ關セザルトキハ其效力ヲ有セス
 △仲裁人ノ選定(七八八)
 第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ
 關スル定テキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁
 人ヲ選定ス
 △仲裁契約ノ效力(七八七)

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選
 定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス
 一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲
 裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續
 ヲ爲スコキ旨ヲ催告ス可シ
 右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先
 ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選
 定ス
 △仲裁手續ノ管轄裁判所(八〇五)
 第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁
 人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シ
 テ其選定ニ驅束セラル
 △仲裁人ノ選定(七八九)
 第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタル
 ニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ
 因リ欠缺シ又ハ其職務ヲ引受ケハ施行ヲ
 拒ミタルトキハ其職務ヲ引受ケタル當事
 者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他
 ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタル
 トキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ
 申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ
 △仲裁契約ノ消滅(七九三)
 △仲裁手續ノ管轄裁判所(八〇五)
 第七百九十二條 當事者ハ判斷ヲ忌避スル權
 リアルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人
 ヲ忌避スルコトヲ得
 此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲

裁人カ其實務ノ履行ヲ不爲ニ遲延スルトキ
 ハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得(八〇一)
 無能力者、變者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ
 停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得
 △仲裁契約ノ消滅(七九三)
 △仲裁手續ノ管轄裁判所(八〇五)
 第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ
 以テ左ノ場合ノ爲メ選定ヲ爲サザリシトキ
 ハ其效力ヲ失フ
 第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選
 定シ其ノ仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又
 ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務
 ノ引受ケ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル
 契約ヲ解キ又ハ其實務ノ履行ヲ不爲ニ
 遲延シタルトキ
 第二 仲裁人カ其意見ノ可否同意ナル旨
 ヲ當事者ニ通知シタルトキ
 △仲裁人ノ補缺選定(七九二)
 △仲裁判斷ノ解決方法(七九八)
 △仲裁手續ノ管轄裁判所(八〇五)
 第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事
 者ヲ審訊シ且必要トスル限りハ尋ノ原因ヲ
 尋ル事件關係ヲ探知ス可シ
 仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合
 ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ
 定ム
 △仲裁判斷ノ取消(八〇一)

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出
 頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得
 仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サ
 シムル權ナシ
 第七百九十六條 仲裁人ノ必要ト認ムル判斷
 上ノ行為ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サル
 モノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ
 爲スコシ但シ其申立ヲ相當ト認メタルトキ
 ニ限ル
 證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ
 證據ヲ述ブルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒
 ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス
 權アリ
 △證人訊問(二七七以下)
 △鑑定(三〇一以下)
 △仲裁手續ノ管轄裁判所(八〇五)
 第七百九十七條 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續
 ヲ許スカラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ
 法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セザルコ
 ト、仲裁契約カ判斷ス可キ争ニ關係セザル
 コト、又ハ仲裁人カ其職務ヲ履行スル權ナ
 キコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續
 行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得
 △當事者ノ審訊(七九四)
 第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ
 爲スコキトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲ス
 可シ但シ仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限

ニ在ラス

△仲裁契約ノ消滅原因(七九三)

第七百九十九條 仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ニ記載シテ仲裁人之署名捺印ス可シ仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

△仲裁手續ノ管轄裁判所(八〇五)

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

△仲裁判斷ニ對スル執行判決(八〇二)

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ爲ス可カラザリシトキ

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ

第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ爲ス條件ノ存ス

ルトキ

△仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

△仲裁手續ニ關スル管轄裁判所(八〇五)

△仲裁判斷ノ取消(八〇三)

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其爲ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

△仲裁判斷ノ效力(八〇〇)

△仲裁判斷取消ノ訴(八〇五)

△仲裁手續ニ關スル管轄裁判所(八〇五)

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハザリシコトヲ曉明シタルトキニ限ル

△仲裁判斷ニ因ル強制執行(八〇二)

△仲裁判斷ノ取消(八〇四)

△仲裁手續ニ關スル各種裁判所(八〇五)

第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知りタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日より起算シテ五箇年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行ノ判決取消ヲモ亦言渡ス可シ

△期間ノ伸縮ト不變期間(一五八)

△仲裁手續ニ關スル仲裁裁判所(八〇五)

第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區域裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有スコキ區域裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルト

キハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

△仲裁人ノ選定(七八九)

△仲裁人ノ忌避(七九二)

△仲裁契約ノ失效(七九三)

△仲裁判斷ノ取消(八〇一)

△仲裁判斷ニ因ル強制執行(八〇二)

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第五號ヲ以テ同四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス)

附則 (昭和六年法律第十七號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年勅令第八十九號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行ス)但シ第六百四十二條ノ改正規定ハ地租法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

民事訴訟法

第八編 仲裁手續

民事訴訟法施行法

(改正大正十五年四月二十四日) 法律第六十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民事訴訟法中改正法律施行法ヲ議可シ之ヲ公布セシム
第一條 本法ニ於テ新法ト稱スルハ大正十五年民事訴訟法中改正法律ニ依ル改正規定ヲ謂ヒ舊法ト稱スルハ從前ノ規定ヲ謂フ

第六條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ舊法ニ依リ訴訟費用ノ保證ヲ立ツル義務ナキ者ハ新法ニ依リ擔保ヲ供スルコトヲ要セス
第七條 新法施行前ヨリ進行ヲ始メタル法定期間及其ノ計算ハ舊法ニ依ル

第十二條 新法施行前抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ仍舊法ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
第十三條 關聯判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第十八條 新法施行前舊法ニ依リ判決ニシテ舊法第四百二十二條ニ據テモノニ對シテ新法第四百二十二條ニ據テハ仍舊法ノ規定ニ依ル
附則(大正十五年法律第六十二號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第五百號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

民事訴訟費用法

(明治二十三年八月十六日) 法律第六十四號

朕民事訴訟費用法ヲ議可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス
民事訴訟費用法
第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナル限度ノ費用トシテ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第九條 當事者及ヒ代理人ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓以內ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
第十條 (前條)
第十一條 鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三

第十四條 裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ止宿料ハ鑑定人ニ課ス
第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル
第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關スル費用ハ執行吏手数料規則ニ定メタルモノヲ除

民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定

(明治二十四年一月七日) 勅令第三三號

改正 明治二五〇、三〇三
明治四二一、一六〇、一六六
明治四三三、一六六
大正一五〇、一六六

民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 各省、内閣印刷局、樺太廳、北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
第二條 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司事事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得
第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス
第四條 官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルトキハ本令ニ依ルノ限ニ在ラス

人事訴訟手續法

(明治三十一年六月二十一日) 法律第十三號

改正、大正一五〇法律六六

法律第十三號
人事訴訟手續法
附帶同議會ノ協賛ヲ經タル人事訴訟手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第一條 婚姻ノ無効若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判權ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但縁組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス
前項ノ普通裁判權ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル
トキハ司法省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所トス

第二條 夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス
第三條 夫カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ハ其生存者ヲ以テ相手方トス
前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス
檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受審ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承継人トシテ選定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第三條 無能力者カ婚姻ノ無効若クハ取消、離婚又ハ同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス
無能力者カ前項ノ訴訟行爲ヲ爲サントスルトキハ受託裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルコトヲ要ス
無能力者カ前項ノ申立ヲ爲ササルトキト雖モ受託裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキ旨ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得

前條第五項ノ規定ハ受託裁判所ノ裁判長カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 夫婦ノ一方カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

禁治産者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五條 婚姻事件ニ付テハ檢事ハ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述ブルコトヲ要ス
檢事ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述ブルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ圖書ニ記載スヘシ

第六條 檢事ハ當事者ト爲ラサルトキト雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第七條 婚姻ノ無効ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得

他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得但扶養ノ請求、損害ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離

縁ノ請求ハ此限ニ在ラス
第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ヲ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十條 民事訴訟法第三百二十九條、第四百一條第一項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百三條中請求ノ認諾ニ關スル規定亦同シ

第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス

第十二條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ

自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得
當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遺隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得
出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十三條 和蘭ノ國ヲヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限り一年ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其實事及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第十五條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 檢事カ收訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス

第十八條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコ

人事訴訟手續法

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

トテ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者カ訴訟ニ參加シタルトキニ限リ其效力ヲ有ス

第十九條 檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ後四條ノ規定ヲ適用ス

第二十條 檢事カ訴ヲ提起スルトキハ夫婦ヲ以テ相手方トス

第二十一條 訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ檢事カ提起スルコトヲ得ル訴ナルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行シ又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得但夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在ラス

第二十三條 檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トス

第二十四條 養子縁組ノ無効若クハ取消又ハ離縁ヲ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

附帶シテ縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

第二十五條 養親カ禁治産者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス

養子カ禁治産者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子縁組事件ニ之ヲ準用ス

第二章 親子關係事件、相續人廢除事件、及ヒ隱居事件ニ關スル手續

第二十七條 子ノ否認、認知、其認知ノ無効若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ又テ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十八條 夫カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セスシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限リ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第一項ニ掲ケタル者ニ於テ訴訟手續ヲ受續クコトヲ得

第三十條 父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ互ニ其相手方ト爲ル

子又ハ母カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十一條 親權若クハ財産管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權若クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス

第三十三條 推定家督相續人若クハ推定遺言相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トス

ル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十四條 廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺言相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條 隱居ノ無効又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條 隱居者カ提起スル隱居ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス

家督相續人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人ニ非サル者カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調査ヲ爲シ且當事者カ提出セザル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實及ヒ證據調査ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル證據ヲ爲シタル判決ハ職權

ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三十九條 第一條第二項、第三項、第三條、第五條、第七條第二項、第十條乃至第十二條及ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第七條第一項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第三十一條、第三十三條及ヒ第三十五條ニ掲ケタル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財産管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隱居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續

第四十條 禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ之ヲ準用ス

第四十一條 妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第四十二條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示スヘシ

第四十三條 裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス

第四十五條 檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ進行シ且期日ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調査ニ記載スヘシ

第四十六條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調査ヲ爲スヘシ

民事訴訟法第二編第一章第三節第二次及ヒ第三款ノ規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第四十七條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ但其訊問ヲ爲シ難キトキ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付

申立人ノ取付シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十九條 禁治產ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ禁治產者ノ負擔トス
 前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ兩庫ノ負擔トス
 第五十條 裁判所ハ禁治產ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クヘキ者ノ監護又ハ其財產ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治產ノ宣告ヲ爲シタル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ
 第五十一條 禁治產ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送還スヘシ
 禁治產ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治產者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送還スヘシ
 第五十二條 禁治產ヲ宣告シタル決定ハ禁治產者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送還ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス
 法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送還ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

第五十三條 裁判所ハ禁治產ヲ宣告シタル決定ヲ送還シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ
 第五十四條 申立人及ヒ檢事ハ禁治產ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス
 第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シ一月内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得前項ノ期間ハ禁治產者ニ對シテハ禁治產ノ宣告ヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定ノ效力ヲ生シタル日ヨリ之ヲ起算ス
 第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治產ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治產ノ申立人ヲ以テ相手方トス
 禁治產ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トシ檢事カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治產者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス
 第五十八條 第五十五條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第四條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第六十條 裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治產ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治產者ノ監護又ハ其財產ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
 第六十一條 禁治產ノ宣告ヲ取消前ニ於テ後見人カ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セズ
 禁治產ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治產者カ爲シタル行爲ハ禁治產ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得ス
 第六十二條 禁治產ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送還スヘシ
 前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ
 第六十三條 禁治產ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治產者カ普通裁判權ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 第一條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第六十四條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治產ノ宣告ノ取消アリタル場合

ニ於テハ禁治產者ノ負擔トス
 前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ兩庫ノ負擔トス
 第六十五條 禁治產ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送還スヘシ
 禁治產ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治產者ニ送還スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス
 檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
 第六十六條 禁治產ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得
 第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第六十七條 準禁治產ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス
 第四十三條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ準禁治產者ニ之ヲ適用セズ
 第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治產者ニ之ヲ適用セズ
 第六十八條 準禁治產ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依

リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治產ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス
 第六十九條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム
 第四章 失踪ニ關スル手續
 第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス
 第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲サザルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト
 二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト
 公示催告期間ハ六箇月以上ナルコトヲ要ス
 第七十三條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示スルヲ以テ足ル
 前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告

ノ日ヨリ二箇月以上ナルヲ以テ足ル
 第七十四條 檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ベ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得
 第四十二條第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス
 第七十五條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ履行スルコトヲ得
 第七十六條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其實ヲ認メザルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示手續ヲ中止スヘシ
 第七十七條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財產ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス
 第七十八條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得
 前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス
 第七十九條 數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民

人事訴訟手續法第六十二條及第六十三條ノ規定ヲ適用ス
第八十條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七十五條ノ規定ヲ適用セス

第八十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第八十二條 明治二十三年法律第四百號其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴訟ニシテ其判決確定セザルモノハ本法ノ規定ヲ適用ス

人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所指定

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市ヲ以テ住所トス

人事訴訟手續法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ官報及ヒ法人ノ登記ノ公告ニ付キ選定シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ區裁判所力選定シタル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ
前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ掲載場ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

非訟事件手續法

(明治三十一年六月二十一日)
明正三二法律五
大正四一法律七
大正一一法律九
昭和一五法律三
昭和四一法律六
昭和六一法律四

除テ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス

第一編 總則

第一條 裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス
第二條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ノ知レサルトキ又ハ其住所ノ知レサル

トキハ財產ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所力管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續力外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ
第三條 數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最モ事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス但裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ト認ムル他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得
第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス管轄裁判所ノ指定ハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得
第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ適用ス
第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理シムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス
裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得
第七條 民事訴訟法第八十條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ適用ス但私文書ニ認證ヲ受タヘキ旨ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツ

ルコトヲ得ス
第八條 民事訴訟法第五十條ノ規定ハ申立及ヒ陳述ニ之ヲ適用ス
第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人ノ署名、捺印スヘシ
一 代理人ノ氏名、住所
二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所
三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實
四 年月日
五 裁判所ノ表示
證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添付スヘシ
第十條 期日、期間、曉明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ適用ス
第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據ヲ爲スヘシ
第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行為ハ之ヲ囑託スルコトヲ得
第十三條 審問ハ之ヲ公行セズ但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得
第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限リ之ヲ作ラシムヘシ
第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ
第十六條 裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公使ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合力生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ
第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得
裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ裁判所ノ印ヲ捺捺スヘシ
第十八條 裁判ハ之ヲ受クルモノニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス
裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス
告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ
第十九條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得
申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得
即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得
裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得
第二十條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタルトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコト

申立ニ因リテノ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス

第二十二條 當事者カ其實ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ即時抗告ノ期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ノ止ミタル後一週間内ニ限リ懈怠シタル行爲ノ追完ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二十四條 (削除)

第二十五條 抗告ニハ特ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔

ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 民事訴訟法第九十三條ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得但獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十一條 費用ノ負擔者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

第三十三條 費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十五條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二章 民事非訟事件

第一節 法人ニ關スル事件

第三十四條 民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所地方ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主たる事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條 法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主たる事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十七條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十八條 第三百三十六條乃至第三百三十八條及ヒ第七百七十五條乃至第七百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

第三十九條 第四百二十九條ノ三及ヒ第四百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ法人ノ清算人又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

第三十八條 不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十九條 裁判所ハ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第二十三條 少年保護司ハ少年審判官ヲ輔佐シテ審判ノ資料ヲ供シ觀察事務ヲ掌ル

少年保護司ハ少年ノ保護又ハ教育ニ經驗ヲ有スル者其ノ他適當ナル者ニ對シ司法大臣之ヲ嘱托スルコトヲ得

第二十四條 書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ審判ニ關スル書類ノ調製ヲ掌リ庶務ニ從事ス

第二十五條 少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ嘱托ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第五章 少年審判所ノ手續

第二十六條 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十七條 左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除ク外少年審判所ノ審判ニ付セス

一 死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役

二 若ハ禁錮ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者

第二十八條 刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

第十四條ニ滿タサル者ハ地方長官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除ク外少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十九條 少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲

少年法 第五章 少年審判所ノ手續

スヘキ少年アルコトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其ノ職員ニ通告スヘシ

第三十條 通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルヘキ本人及其ノ保護者ノ氏名、住所、年齢、職業、性別等ヲ申立テ且參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スヘシ

通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ノ通告アリタル場合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ申立ヲ錄取スヘシ

第三十一條 少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性別、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ

心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘキ醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ

第三十二條 少年審判所ハ少年保護司ニ命ジテ必要ナル調査ヲ爲サシムヘシ

第三十三條 少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命ジ又ハ之ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條 少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命ジ調査ノ爲必要ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述

又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取スヘシ

第三十五條 參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第三十七條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 條件ヲ附シ又ハ附セスシテ保護者ニ預タルコト

二 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三 病院ニ委託スルコト

四 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

四ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得

第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第三十九條 前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ

第四十條 少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモノト思料シタルトキハ審判期日ヲ定ムヘシ

第四十一條 審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ取消スヘシ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ノ爲ニ附添人ヲ附スルコトヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任スルコトヲ得

附添人ハ辯護士、保護事業ニ従事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四十三條 審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認ムルトキハ保護者ハ之ヲ呼出ササルコトヲ得

第四十四條 少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ事由アルトキハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第四十五條 審判ハ之ヲ公行セス但シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ従事スル者其ノ他相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條 少年審判所審判ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ

終結處分ヲ處スヘシ

第四十七條 刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢察ニ送致スヘシ

裁判所又ハ檢察官ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因リ刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢察ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ

檢察官第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第四十八條 調議ヲ加フヘキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘキ事項ヲ警告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條 學校長ノ調議ニ委スヘキモノト認メタルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ調議ヲ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ

第五十條 改心ノ誓約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本人ヲシテ誓約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

第五十一條 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受ケヘキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委嘱スヘシ

第五十三條 少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ

第五十四條 感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十五條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス成アル少年ニ對シ前二條ノ規定ニ依リ處分ニ於テ適當ナル親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ヘシ

第五十六條 少年審判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作り審判ヲ經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

第五十七條 少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲

シタルトキハ保護者、學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成續報告ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條 少年審判所第五十一條及第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成續ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條 少年審判所第四十八條乃至第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二十六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢察官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖管轄裁判所ノ檢察ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢察ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第六十條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第六十一條 第三十五條及前條ノ費用並矯正院ニ於テ生シタル費用ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徴收スルコトヲ得

前項費用ノ徴收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章 裁判所ノ刑事手續

第六十二條 檢察官少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スヘシ

第六十三條 第四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタル事件ニ付審判ヲ經タル事件又ハ之ヨリ輕キモノニ付刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得但シ第五十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ規定ニ依リ調査ハ少年保護司ニ委託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十五條 裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命刑事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條 裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢察官ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 勾引狀ハ已ムコトヲ得サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ得

拘置監ニ於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除ク外少年ヲ拘留セシムヘシ

第六十八條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムヘシ

第六十九條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト連連スル場合ト雖審理ニ妨ナキ限り其ノ手續ヲ分離スヘシ

第七十條 裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得

第七十一條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 第六十六條ノ規定ハ事件ヲ終局セシムル裁判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第七十三條 第四十二條、第四十三條第二項第三項及第四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條ノ規定ハ豫審又ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第七十四條 少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事件又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙

其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在
リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ
在リテハ著作及發行者ヲ一年以下ノ禁錮
又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正
十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ同十二年一
月一日ヨリ施行ス)

矯正院法 (大正十一年四月十七日 法律第四十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル矯正院法ヲ裁可シ
效ニ之ヲ公布セシム

第一章 矯正院
第一條 矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル
者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院
ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス
第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十
三歳ヲ超ユルコトヲ得ス
第三條 矯正院ニハ特ニ區別シタル場所ヲ設
ケ少年審判所、裁判所又ハ豫審判所ヨリ假
ニ委託シタル者ヲ置ク
第四條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ
從ヒ之ヲ設ク
第五條 十六歳ニ滿タサル者ト十六歳以上ノ
者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收
容ス
第六條 矯正院ハ之ヲ國立トス
第七條 矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス
第八條 司法大臣ハ少クトモ六月毎ニ一岡官
吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシムヘシ
第九條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲メ
格ナル規律ノ下ニ教養ヲ施シ其ノ生活ニ必

要ナル實業ヲ練習セシム
第十條 矯正院ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
在院者ヲ懲戒スルコトヲ得
第十一條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事
由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受
ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲メ親権者又
ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ
得
第十二條 矯正院ノ長少年審判所ヨリ送致シ
タル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト
認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲ
シテ退院セシムヘシ
第十三條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致
シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタ
ルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件
ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得
假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内少
年保護司ノ觀察ニ付ス
第十四條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタル
トキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受
ケ假退院ヲ取消スコトヲ得
第十五條 在院者又ハ假退院者逃走シタルト
キハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕
スルコトヲ得
少年法第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ準用ス
第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外在

院者ノ處遇ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

矯正院ノ長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在院者
ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムヘシ
第十七條 前二條ノ規定ハ少年審判所、裁判
所又ハ豫審判所ヨリ假ニ委託シタル者ニ付
之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正
十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ同十二年一
月一日ヨリ施行ス)

矯正院處遇規程

(大正十一年十二月十八日
司法省令第三十四號)

改正 昭和四一司法省令二一
矯正院處遇規程左ノ通相定ム

第一章 收容

第一條 少年ノ收容ハ當該官廳ノ送致書、委
託書又ハ入院許可ノ裁判書ニ依ル
第二條 少年ヲ收容シタルトキハ送致又ハ委
託ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ
第三條 入院者ニ付テハ各別ニ少年簿ヲ作り
之ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條 院長ハ入院者ニ對シ遵守事項及心得
事項ヲ指示スヘシ
第五條 入院者ニ付テハ其ノ性行、境遇、歴
史、學術技術ノ程度、心身ノ狀況等身上ニ
關スル事情ヲ精査シ其ノ結果ニ基キ居室及
修習スヘキ學科、實科ノ種類、程度ヲ定ム
ヘシ
第六條 在院者ノ處遇ニ關シ必要ナル取調ヲ
爲スニ付テハ少年審判所ニ補助ヲ求ムルコ
トヲ得

第二章 教導

第七條 院長ハ中學校及實業學校程度以下ノ
學校ニ準シ課程及教科目ヲ定ム且教科用圖
書ヲ選定シ司法大臣ニ申報スヘシ
第八條 院長ハ在院者ノ矯正ニ有益ナリト認
ムルモノニ限リ教科外ノ圖書ヲ閱讀セシム
ルコトヲ得
第九條 休日ニハ在院者ヲ休養セシメ適當ト
認ムル方法ニ依リ其ノ心身ノ修養、鍛鍊ニ
カムヘシ
第十條 祖父母又ハ父母病篤キトキハ在院者
ヲシテ往訪セシムルコトヲ得
第十一條 祖父母又ハ父母死亡シタルトキハ
三日間謹慎セシメ適當ト認ムル方法ニ依リ
祭祀ヲ行ハシムルコトヲ得父母ノ祭日亦同
シ

第三章 賞罰

第十二條 一月一日、紀元節及天長節祝日ニ
ハ在院者ヲ集メシメ左ノ順序ニ從ヒ式ヲ
舉クヘシ
一 職員及在院者「君カ代」ヲ合唱ス
一 院長教育ニ關スル勅語ヲ奉讀シ其ノ
義ヲ衍フ
一 職員及在院者祝日ニ相當スル唱歌ヲ
合唱ス
第十三條 院長ハ學科及實科ノ成績證明書ヲ
授與スルコトヲ得
第十四條 院長ハ在院者ノ成績ニ鑑ミ左ニ掲
クル等級ノ褒賞ヲ與フルコトヲ得
一 褒狀
二 賞與
三 賞票
第十五條 院長ハ成績特ニ優良ナル在院者ニ
對シ左ニ掲クル殊遇ヲ與フルコトヲ得
一 特ニ設ケタル居室器具其ノ他ノ設備
ノ使用
一 組長其ノ他名譽トスル地位ノ授與
第十六條 在院者紀律ニ違背シタルトキハ院
長ハ情狀ニ依リ左ニ掲クル懲戒ヲ行フコト
ヲ得

商法第二百八十九條第一項及七百六十條第一項ニ定メタル事件ハ發賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第二百七十七條 検査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役又ハ株主之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 申請ノ事由
- 二 検査ノ目的
- 三 年月日

四 裁判所ノ表示

第二百二十八條 検査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ検査ニ付キ説明ヲ必要トスルトキハ検査役ヲ審訊スルコトヲ得

第二百二十九條 商法第二百二十四條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ

發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條ノ二 商法第九十八條ノ規定ニ依リ検査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

第二百二十九條ノ三 商法第二百二十四條又ハ第八十九條ノ規定ニ依リ裁判所カ検査役ヲ

百九十八條ノ規定ニ依リ裁判所カ検査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所ノ之ヲ定ム

第二百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百三十條 商法第九十八條ノ検査ニ付キ株主總會ノ召集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定ノ期間内ニ其召集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

第二百三十一條 商法百一十一條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ検査ヲ要スル事由、同法第六十條第二項ノ規定ニ依リ總會召集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役カ其召集ヲ怠リシ事實ヲ陳明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三十二條 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百三十三條 商法第九十六條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ陳明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十四條 商法第四十七條及七百四十八條ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法ノ規定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及ヒ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ適用ス

第二百三十五條 會社及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百三十五條ノ二 會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラレタル會社ノ本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ

抗告裁判所カ裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ外國

會社ニ付テハ其支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止セラレタル會社ニ付テハ其本店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第二百三十五條ノ三 第二百二十六條第一項及七百三十三條ノ規定ハ會社ニ非シテ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ裁判所カ商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ適用ス

第二百三十五條ノ四 會社ノ設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ受訴裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ヲ無効ナルコトヲ登記スヘシ

第二百三十五條ノ五 地方自治法第六條ノ四第ニ項(軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ許可ノ申請ハ已ムコトヲ得サル事由ヲ陳明シテ總取締役之ヲ爲スヘシ

第二百三十五條ノ六 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

申請ヲ認許セサル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二章 會計ノ清算ニ關スル事件

第二百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算亦同シ

第二百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

裁判所カ銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シ亦同シ

第二百三十八條 左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 倒産公債者及ヒ停止公債者
- 四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
- 五 破産者

第二百三十八條ノ二 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算事務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第二百三十八條ノ三 第二百二十九條ノ三及七百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人又ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ適用ス

第二百三十八條ノ四 商法第九十一條ノ二第二項ノ規定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ

第二百三十八條ノ五 第八十八條及七百八十九條ノ規定ハ前條ノ選任人ノ選任ノ手續及ヒ裁判ニ之ヲ適用ス

第三章 商業登記

第一節 通則

第二百三十九條 商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第二百四十條 各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ

- 一 商號登記簿
- 二 未成年者登記簿
- 三 發賣登記簿
- 四 法定代理人登記簿
- 五 支配人登記簿
- 六 合名會社登記簿
- 七 合資會社登記簿
- 八 株式會社登記簿
- 九 株式合資會社登記簿
- 十 外國會社登記簿

第四百一十一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

第四百一十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覧ヲ許シ及ハ手續料ヲ納付スルトキハ之ニ其原本若クハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ確立シテ申請フシタル者ニハ其關係アル部令ニ限リ登記簿ノ閲覧ヲ許スヘシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ原本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第四百一十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第四百一十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト爲ス

第四百一十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊フコトキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四百一十六條 區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ

爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄内ノ市町村役場ノ掲示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

第四百一十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百一十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

第四百一十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人ノ姓名、捺印スヘシ

一 申請人ノ姓名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店

二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其姓名、住所

三 登記ノ目的及ヒ事由

四 年月日

五 登記所ノ表示

第五百十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請フコトキハ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノマニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第五百十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認圖アル原本ヲ添付スルコトヲ要ス

第五百十條ノ三 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス

第五百十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セザルトキハ理由ヲ附シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

第五百十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一箇月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキ

トキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ

登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知ラザルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

登記所ハ右ノ外相續ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第五百十一條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第五百十一條ノ四 異議ノ申立ナキトキハ登記所ハ撤下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ撤下スル裁判ヲ抹消スヘシ

第五百十一條ノ五 前三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登記ヲ抹消シタルトキハ遺漏ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所ニ通知スヘシ

支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遺漏ナク登記ヲ抹消スヘシ

第五百十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遺漏ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但シ錯誤又ハ遺漏カ登記所

ノ添付ニ附シタルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遺漏ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

第五百十二條乃至第五百十三條 (前略)

第五百十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第五百十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

第五百十六條 登記簿ノ調査其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五百十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ適用ス

第二節 商號ノ登記

第五百十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十九條 商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ商法施行法前

ノ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ家職人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證明スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏、名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遺漏ナク其旨ヲ申請スヘシ

第六十二條 商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ

相續人又ハ決定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請書ニ其資格ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第六十三條 第三項ノ規定ハ本條第一項ノ申請ニ之ヲ適用ス

第六十三條 商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第六十四條 第五百十一條ノ二乃至第五百五十一條ノ四ノ規定ハ前條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ適用ス

第六十五條 登記所カ第五百十一條ノ六第

二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正
ヲ爲シタルトキハ通商ナク登記ヲ爲シタル
書ニ其旨ヲ通知スヘシ

第三節 未成年者、妻及ヒ法定
代理人ノ登記

第百六十六條 未成年者カ商業ヲ營ム場合ニ
於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ
種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコ
トヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス但法
定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラ
ズ

親權ヲ行フ母又ハ養父カ同意ヲ爲シタル
場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ
證明スル書面ヲ併セテ添付スルコトヲ要ス繼
父ハ繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦
同シ

第百六十七條 妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登
記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記
載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ
添付スルコトヲ要ス但夫カ之ニ連署スルト
キハ此限ニ在ラス
夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ得ス
ニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證明ス
ル書面ヲ併セテ添付スルコトヲ要ス
妻カ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ要セザル場合ニ
於テ營業ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其

事由ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
第百六十八條 商業ヲ營ムコトノ許可ヲ爲シ
タル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルト
キハ通商ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要
ス

第百六十九條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登
記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ
其旨ヲ記載スヘシ

第百七十條 法定財產制ニ異リタル契約ノ登
記ヲ爲シタル妻カ商業ノ登記ヲ申請スルト
キ又ハ其商業ノ登記ヲ爲シタル後管理若
變更若クハ共有財產ノ分割ノ登記ヲ爲シタ
ルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其届出ヲ爲ス
コトヲ要ス
前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ當事者
ノ商業登記ニ之ヲ記載スヘシ

第百七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メ
ハ申請書ニ法定代理人タル資格ヲ記載シ親
族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證明スル書面ヲ添
付スルコトヲ要ス

第四節 支配人及ヒ會社ノ清算
人ノ登記

第百七十二條 支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ

申請ニ因リテ之ヲ爲ス
會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記
ハ其會社ヲ代表スヘキ社員又ハ取締役ノ申
請ニ因リテ之ヲ爲ス

第百七十三條 支配人ノ選任ノ登記ノ申請書
ニハ第百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ
外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 支配人ノ氏名、住所
二 申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商
業ヲ營ムトキハ支配人カ代理スヘキ商
業及ヒ其用ユヘキ商號
三 支配人ヲ置キタル場所
四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行
フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ
關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其
設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任
及ヒ前項第四號ニ掲ケタル事項ヲ證明スル書
面ヲ添付スルコトヲ要ス

第百七十四條 第百七十二條ノ規定ハ支配人
ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲
ケタル事項及ヒ其變更消滅ノ登記ヲ申請ス
ル場合ニ之ヲ準用ス
會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前
項ニ掲ケタル事項ヲ證明スル書面ヲ添付スル
コトヲ要ス

第百七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ

爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス
前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲
ス

第百七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書
ニハ其選任及ヒ商法第九十條第二號及ニ第
三號ニ掲ケタル事項ヲ證明スル書面ヲ添付ス
ルコトヲ要ス

第百七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項
ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算
人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ變更ノ事由ヲ證明スル書面ヲ添付
スルコトヲ要ス

第百七十八條 清算ノ了了ノ登記ヲ申請スル
ニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タ
ルトコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第五節 合名會社及ヒ合資會社
ノ登記

第百七十九條 合名會社ノ設立ノ登記ハ總社
員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ定款ヲ添付シ且社員中ニ未成年
者又ハ妻アルトキハ其社員タルコトニ同意
ヲ爲スヘキ者ノ同意ヲ證明スル書面ヲ添付ス
ルコトヲ要ス

第百八十條 合名會社ノ支店ノ設立、其本店
又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代
表スヘキ社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ申請ニハ其登記事項ニ付キ總社員ノ
同意又ハ或社員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テ
ハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ定アルトキニ限
リ總社員ノ同意及ハ或社員ノ一致アリタル
コトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

商法第八十三條但書ノ規定ニ依リ裁判所カ
或社員ヲ除名シタル場合ニ於ケル變更ノ登
記ノ申請書ニハ其判決ノ原本ヲ添付スルコ
トヲ要ス

社員ノ氏名、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會
社ヲ代表スヘキ社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲
スヘシ

第百八十一條 合名會社ノ解散ノ登記ハ總社
員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且相續人カ
申請ヲ爲ストキハ其資格ヲ證明スル書面ヲ添
付スルコトヲ要ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場
合ニ於テハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ
其登記ヲ爲スヘシ

第百八十二條 合名會社ノ合併ニ因ル解散ノ
登記ハ解散スヘキ會社ノ總社員ノ申請ニ因
リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ商法第七十八條第二項ニ依ル公
告及ヒ催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述
ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲
シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證明スル書面ヲ

添付スルコトヲ要ス
第百八十二條ノ二 合名會社カ合併ニ因ル變
更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ
記載シ第百七十九條第二項及ヒ前條第二項
ニ掲ケタル事項ヲ添付スルコトヲ要ス

第百八十三條 合名會社カ合併ニ因ル設
立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ
記載シ第百七十九條第二項及ニ第百八十二
條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四
條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタ
ル者ノ資格ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ
要ス

第百八十三條 第百七十九條第一項ノ規定ハ
合名會社ノ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記
ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條 合名會社カ社員ノ請求ニ因リ
テ解散シタルトキハ各社員ノ申請ニ因リテ
其登記ヲ爲スヘシ
前項ノ申請書ニハ判決ノ原本ヲ添付スルコ
トヲ要ス

第百八十四條ノ二 第百八十一條第一項及ヒ
第二項ノ規定ハ合名會社ノ設立取消ノ登記
ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條ノ三 第百八十二條ノ規定ハ合
名會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ノ申請
ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第百八十四條ノ四 商法第八十三條ノ三又ハ

第八十三條ノ四ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ無責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添付スルコトヲ要ス
有責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ其加入ヲ認メスル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十五條 商法第百十八條第二項ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
前條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十五條ノ二 第百七十九條第二項及ヒ前條ノ規定ハ商法第百十八條ノ二ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス

第八十六條 第百七十九條乃至第百八十四條ノ三ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第六節 株式會社ノ登記

第八十七條 株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

一 定款
二 株式ノ引受ヲ認メスル書面
三 株式申込證
四 取締役及ヒ監査役又ハ兼査役ノ調査報告書及ヒ其附屬書類
五 兼査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其原本
六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類
七 創立總會ノ決議録
第八十八條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ登記事項ニ付キ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議録ヲ添付スルコトヲ要ス
取締役又ハ監査役ノ氏名、又ハ住所ノ變更ノ登記ハ會社代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條 會社ノ資本増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
一 株式ノ引受ヲ認メスル書面
二 株式申込證
三 商法第百十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ兼査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類
四 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議録

第九十條 會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議録ヲ添付スルコトヲ要ス
第九十二條第二項ノ規定ハ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第九十一條 負債ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
一 最終ノ貸借對照表
二 負債ノ引受ヲ認メスル書面
三 負債申込證
四 各社債ニ付キ商法第百四條ノ拂込アリタルコトヲ認メスル書面
五 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議録

第九十二條 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社代表スヘキ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ變更ノ事由ヲ認メスル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
第九十三條 會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議録ヲ添付スルコトヲ要ス
第九十二條第二項ノ規定ハ株式會社カ合併ニ因リテ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之

ヲ準用ス
會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第九十三條ノ二 株式會社カ合併ニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其自由ヲ記載シ第百八十二條第二項及ヒ第百八十九條第三項、第四項ニ掲ケタル書類及ヒ株式ノ割當及ヒ引受ヲ認メスル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第九十三條ノ三 株式會社カ合併ニ因リ設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項及ヒ第百八十七條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第百四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ認メスル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第九十四條 (削除)

第九十四條ノ二 商法ノ規定ニ依リテ設立シタル株式會社カ商法施行法第五十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
一 定款
二 株主名簿
三 各株主ノ株式ノ申込ヲ認メスル書面
四 設立免許書
五 創業總會ノ決議録

第八十七條第一項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十四條ノ三 商法ノ規定ニ依リ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第八十五條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
一 株主名簿
二 新株主ノ株式ノ申込ヲ認メスル書面
三 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議録及ヒ假決議録
第九十四條ノ四 商法ノ規定ニ依リ資本ヲ減少シタル場合ニ於テ會社カ資本減少ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
一 商法第百七條ニ依ル通知及ヒ借告ヲ爲シタルコト及ヒ異議ヲ申出テタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ認メスル書面
二 資本ノ減少ニ關スル株主總會ノ決議録及ヒ假決議録
第九十四條ノ五 商法ノ規定ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第七十九條及ヒ第八十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
一 債券ノ拂込金額ヲ認メスル書面
二 債券取簿
三 主務官ノ認許書又ハ其認許アル原本

第九十五條 資本ノ増加及ヒ減少、解散及ヒ合併ニ因リ變更ノ登記ノ申請ハ總取締役及ヒ監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
第九十五條ノ二 第百三十五條ノ四ノ規定ハ商法第百六十三條ノ四ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

第七節 株式合資會社ノ登記

第九十六條 株式合資會社ノ設立ノ登記ハ無責任社員ノ全員及ヒ監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
第九十九條第二項及ヒ第百八十七條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十七條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社代表スヘキ無責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
前項ノ申請書ニハ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議録ヲ添付スルコトヲ要スル外第百八十八條第二項ノ規定ヲ準用ス
無責任社員又ハ監査役ノ氏名、若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社代表スヘキ無責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第九十八條 第百八十九條、第百九十條及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ増加

又ハ減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十八條ノ二 社債ノ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ第百九十一條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第百九十八條ノ三 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第百九十九條 第百七十九條第二項、第百九十三條ノ二、第百九十三條ノ三及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ合併ニ因リ變更更ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十九條 株式合資會社ノ登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相續人及ヒ總監查役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面ヲ添付シ且無限責任社員ノ同意及ヒ株主總會ノ決議ニ因リ又ハ會社ノ合併ニ因リテ解散シタルトキハ之ニ關スル株主總會ノ決議録ヲ添付スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ

因リ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第百九十九條ノ二 株式合資會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監查役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ株主總會ノ決議録及ヒ第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第百九十九條 株式合資會社ノ組織變更シ株式會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式會社ノ總取締役及ヒ總監查役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ決議録ヲ添付スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ商法第百四十七條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第百九十九條ノ二 第百九十五條ノ二ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第八節 外國會社ノ登記

第百九十九條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社

ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二 代表者タル資格ヲ證スル書面

三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ顯別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナラコトヲ要ス

第百九十九條 日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十九條 外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第百九十九條 (削除)

附則

第百九十六條 民法第八十四條、第百七十七條及

民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第百六十二條、第百六十二條ノ二、第百六十六條及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所ノ地方裁判所ノ管轄トス

第百七十七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ當事者ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ該事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル管轄アリタル場合ニ於テハ其管轄ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第百八十八條 過料ノ裁判ハ廢止ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ

送達ヲ爲スコトヲ要セス

第百九十九條 非訟事件手續法其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ト抵觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ又ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル

第百九十九條ノ二 外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要スルモノハ司法大臣之ヲ定ム

第百九十九條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非訟事件手續法第二條第三項ノ規定ニ依リ東京市ヲ管轄裁判所ノ所在地ト指定ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(大正五年六月十六日)
(司法院令第十四號)

非訟事件手續法第二條第三項ノ指定地

商事非訟事件印紙法

(明治二十三年八月十六日)
(法律第六十六號)

改正 (明治四三法律一六五)
(大正一五法律六五)
(昭和二法律三二)

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商事非訟事件印紙法

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲タルモノニ付テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告又ハ假差押ノ申立

二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

第三條 左ニ掲タルモノニ付テハ二十五圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告ニ對スル答辯

二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セザル非訟事件ニ係ルモノ

競賣法 (明治三十一年六月二十一日) 改正 (大正一五法律六八 昭和六一法律一九)

第四條 乃至第七條 (削除) 第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第三章第一節ノ規定ヲ準用ス

附則 (昭和二年法律第三十二號) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年勅令第七十號) 以テ同年四月十日ヨリ施行ス

第一章 通則

第一條 競買ノ申込ハ他ノ高價競買ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サシテ競買ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失フ 第二條 競買人ハ競落ニ因リテ競買ノ目的タル權利ヲ取得ス 競買ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅ス 競買人ハ留置權者、競買人ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨別スルニ非サレハ競買ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

第二章 動産ノ競賣

第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競買ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リテ競買ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス 前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス 第四條 競買ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競買人ト爲ルコトヲ得ス 債權者ノ委任ニ因リテ競買ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス 第五條 競買ハ競買ニ付スヘキ物ノ所在地ニ於テ之ヲ爲ス但其他地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得 第六條 競買ノ日時ハ執達吏力其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス 第七條 競買ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス 公告ハ競買ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ關シ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ 公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ 一 競買委任者ノ氏名、住所 二 競買ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質 三 競買ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件 四 競買ノ場所及ヒ年月日時

五 競買ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所 委任者力競買ノ條件ヲ定メサリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス 第八條 競買ノ場所及ヒ日時ハ競買ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所力知レサルトキハ此限ニ在ラス 第九條 公告ト競買トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競買ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競買ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス 第十條 高價品ノ競買ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス 第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競買スルコトヲ得 取引所ノ相場アル物ハ其相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競買スルコトヲ得ス 第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競買スル場合ニ於テ競買ノ日ニ相當ナル競買ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價取引所ノ相場アル物ニ付テハ競買ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ之ヲ競買スルコトヲ得 第十三條 競買ハ其條件ヲ告知シ各競買物ニ

付キ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終了ス 競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス 第十四條 執達吏ハ競賣調書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名、捺印スヘシ 一 競買委任者ノ氏名、住所 二 競買ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質 三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額 四 競買ノ場所及ヒ日時 五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由 六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セザリシトキハ其事由 七 告知シタル競買ノ條件 八 各競買物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額 九 競買ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキハ其事由 十 競買ノ開始及ヒ完結ノ日時 十一 競賣調書ヲ作りタル場所及ヒ年月日 競賣調書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署

名、捺印セシメ且競買ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證明スル書面及ヒ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス 執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣調書ノ原本ヲ交附スルコトヲ要ス 第十五條 執達吏ハ競買ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競買ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セザリシ物ハ運滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス 第十六條 執達吏ハ競買ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競賣調書ニ添附スヘシ 第十七條 競買ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競買ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所属區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得 異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス 異議ノ裁判ハ之ヲ以テ適當ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得ス 第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競買ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アルトキハ此限ニ在ラス 第十九條 第三者力競買ノ目的物ニ關シテ訴

第三十條 競賣期日、其開始、競賣圖書及ヒ...

第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取...

第三章 不動産ノ競賣

第三十條 競賣期日、其開始、競賣圖書及ヒ...

第二十八條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付...

第三十條 競賣期日、其開始、競賣圖書及ヒ...

第四十條 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リ...

第四十一條 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記...

第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セザル
裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フ
民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第
三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタ
ル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ
三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得
第四十四條 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキ
ハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ
決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十
一條第一項第一號乃至第三號第六號及第七
七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ
第二十五條第二項、第三項及第二十六條
第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス
第四十五條 第二十七條第一項及第二項ノ
規定ハ増價競賣ニ之ヲ準用ス
左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス
一 競賣請求者
二 債務者
三 第三取得者及ヒ讓渡人
四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利
者
五 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ認
明シタル者
第四十六條 競賣ノ公告ニハ増價競賣ノ申立
ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタ
ル増價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條

第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九
號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ
第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條
乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至
第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六
百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本章
ノ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス
第四十七條 競賣期日ニ請求債權者カ定メタ
ル増價金額ニ連スル競買ノ申込ヲキトキハ
請求債權者ヲ以テ競落人トス
民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最
高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁
判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ
之ヲ公告スルコトヲ要ス
第四十八條 增價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完
済ニ因リテ其效力ヲ失フ
第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因
リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ
於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五
條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス
附則
第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ムス明治三十一年勅令第百二十三號ヲ以
テ同年七月十六日ヨリ施行ス
第五十一條 明治二十三年法律第九十二號增
價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

破産法

(大正十一年四月二十五日)
法律第七十一號

改正、大正一五法律七〇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テル破産法ヲ編可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

第一章 實體規定

第一節 總則

第一條 破産ハ其ノ宣告ノ時ヨリ效力ヲ生ス
第二條 外國人又ハ外國法人ハ破産ニ關シ日
本人又ハ日本人ト同一ノ地位ヲ有ス但シ
其ノ本國法ニ依リ日本人又ハ日本法人カ同
一ノ地位ヲ有スルトキニ限ル
第三條 日本ニ於テ宣告シタル破産ハ破産者
ノ財產ニシテ日本ニ在ルモノニ付テノミ其
ノ效力ヲ有ス
外國ニ於テ宣告シタル破産ハ日本ニ在ル財
產ニ付テハ其ノ效力ヲ有セス
民事訴訟法ニ依リ裁判上ノ請求ヲ爲スコト
ヲ得ヘキ債權ハ日本ニ在ルモノト看做ス
第四條 解散シタル法人ハ破産ノ目的ノ範圍
内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス
第五條 相續人又ハ相續財產ニ對スル破産ノ

第二章 破産財團

第六條 破産者カ破産宣告ノ時ニ於テ有スル
一切ノ財產ハ之ヲ破産財團トス
破産者カ破産宣告前ニ生シタル原因ニ基キ
將來行フコトアルヘキ請求權ハ破産財團ニ
屬ス
差押フルコトヲ得サル財產ハ破産財團ニ屬
セス但シ民事訴訟法第五百七十條第一項第
四號第七號ニ掲ケタルモノ、同條第二項ノ規
定ニ依リ差押ノ承諾アリタルモノ及破産宣
告後差押フルコトヲ得ルニ至リタルモノハ
此ノ限ニ在ラス
第七條 破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ
破産管財人ニ專屬ス
第八條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ相續ノ開
始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後
ニ爲シタル單純承認ハ破産財團ニ對シテハ
限定承認ノ效力ヲ有ス
第九條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ遺產相續
ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣
告後ニ相續ノ拋棄ヲ爲シタルトキト雖破産
財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス
破産管財人ハ前項ノ規定ニ拘ラス拋棄ノ效

第三章 破産管財人

第十條 破産管財人ニ對シテ破産ノ宣告アリ
タル場合ニ於テハ之ニ屬スル一切ノ財產ヲ
以テ破産財團トス
被相續人カ相續人ニ對シ及相續人カ被相續
人ニ對シテ有シタル權利ハ消滅セザリシモ
ノト看做ス
第十一條 破産管財人ハ破産者ノ爲ニ特定遺
贈アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告ノ
當時承認又ハ拋棄ヲ爲サザリシトキハ破産
管財人破産者ニ代リテ其ノ承認又ハ拋棄ヲ
爲スコトヲ得
第十二條 民法第八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ準用ス
第十三條 同居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續
ノ場合ニ於テ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告
アリタルトキハ担保財產モ亦破産財團ニ屬
ス
第十四條 因籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續
財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相
續開始ノ時ニ於テ前戸主カ有シタル財產ヲ
以テ破産財團トス
第十五條 相續人カ相續財產ノ全部又ハ一部

ヲ處分シタル後相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人カ反對給付ニ付有スル權利ハ破産財團ニ屬ス
 相續人カ既ニ反對給付ヲ受ケタルトキハ之ヲ破産財團ニ返還スルコトヲ要ス但シ其ノ當時相續人カ破産ノ原因タル事實又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ其ノ現ニ受ケタル利益ヲ返還スルヲ以テ足ル前二項ノ規定ハ前戶主カ前條ノ財産ヲ處分シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 破産債權

第十五條 破産者ニ對シ破産宣告前ノ原因ニ基キテ生シタル財産上ノ請求權ハ之ヲ破産債權トス
 第十六條 破産債權ハ破産手續ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス
 第十七條 期限附債權ハ破産宣告ノ時ニ於テ辨別期ニ至リタルモノト看做ス
 第十八條 債權カ無利息ニシテ其ノ期限カ破産宣告後ニ到來スヘキ場合ニ於テハ破産債權ノ額ハ破産宣告ノ時ヨリ期限ニ至ル迄ノ破産債權ニ對スル法定利息ヲ債權額ヨリ控除スルモノトス
 第十九條 前條ノ規定ハ金額及存続期間ノ確定スル定期金債權ニ之ヲ準用ス但シ其ノ總額カ法定利率ニ依リ其ノ定期金ニ相當スル

利息ヲ生スヘキ元本額ヲ超ユルトキハ其ノ元本額ヲ以テ破産債權ノ額トス
 第二十條 第十八條ノ場合ニ於テ期限カ不確定ナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス定期金債權ノ金額又ハ存続期間カ不確定ナルトキ亦同シ
 第二十一條 前三條ノ規定ハ法人又ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニハ之ヲ準用セス
 第二十二條 債權ノ目的カ金錢ニ非サルトキ又ハ金錢ナルモ其ノ額カ不確定ナルトキ若ハ別個ノ通貨ヲ以テ定メタルモノナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス
 第二十三條 條件附債權ハ其ノ金額又ハ前條ノ規定ニ依ル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス
 前項ノ規定ハ破産者ニ對シテ行フコトアルヘキ將來ノ請求權ニ之ヲ準用ス
 第二十四條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ金額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第二十五條 保證人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル

債權ノ金額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第二十六條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人若ハ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ求償權ヲ有スル者ハ其ノ金額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ債權者カ其ノ債權ノ金額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項但書ノ場合ニ於テ前項ノ求償權ヲ有スル者カ別個ノ履行ヲ爲シタルトキハ其ノ別個ノ割合ニ應ジテ債權者ノ權利ヲ取得ス
 前二項ノ規定ハ擔保ヲ供シタル第三者カ破産者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ求償權ニ付之ヲ準用ス
 第二十七條 第二十四條、第二十五條及前條第一項第二項ノ規定ハ數人ノ保證人カ各自債務ノ一部ヲ負擔スヘキ場合ニ於テ其ノ負擔部分ニ付之ヲ準用ス
 第二十八條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ法人ノ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ金額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第二十九條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ有限ノ責任ヲ負フ者又ハ其ノ法人カ破

產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ法人ノ債權者ハ有限ノ責任ヲ負フ者ニ對シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ法人ハ出資ノ請求ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス
 第三十條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ財産ノ分離アリタルトキト雖相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ金額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十一條 相續財産及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ金額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十二條 前二條ノ場合ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタル相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ相續債權者及受遺者ハ相續人ノ固有財産ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合亦同シ
 第三十三條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ハ其ノ被相續人ニ對スル債權及被相續人ノ債務消滅ノ爲ニ爲シタ

ル出捐ニ付相續債權者ト同一ノ權利ヲ有ス
 第三十四條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ハ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス
 第三十五條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ規定アルトキハ相續開始後ノ前戶主ノ債權者ハ債權ノ金額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十六條 相續財産及前戶主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ規定アルトキハ相續開始後ノ前戶主ノ債權者ハ債權ノ金額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第三十七條 民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ前戶主ハ將來行フコトアルヘキ求償權ノ金額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第二十六條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十八條 左ニ掲タル請求權ハ之ヲ破産債權トセス但シ法人又ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 一 破産宣告後ノ利息
 二 破産宣告後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

三 破産手續參加ノ費用
 四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徴金
 第三十九條 破産財團ニ屬スル財産ニ付一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル破産債權ハ他ノ債權ニ先ツ
 第四十條 同一順位ニ於テ辨別スヘキ債權ハ各其ノ債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨別ス
 第四十一條 優先權カ一定ノ期間内ノ債權額ニ付存在スル場合ニ於テハ其ノ期間ハ破産宣告ノ時ヨリ起リテ之ヲ計算ス
 第四十二條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債權者ノ債權ハ受遺者ノ債權又ハ相續開始後ノ前戶主ノ債權者ノ債權ニ先ツ
 第四十三條 相續財産ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立ニ因リ相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先チ相續財産ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ハ相續人ノ債權者ノ債權ニ先ツ
 第四十四條 相續財産及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續人ノ破産財團ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先ツ
 第四十五條 相續財産及前戶主ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始後ノ前戶主

ノ債權者ノ債權ハ前主ノ破産財團ニ付テハ相續債權者ノ債權ニ先ツ

第四十六條 法人又ハ相續財團ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ債權額ト第十條乃至第二十條ノ規定ニ依リテ定ル額トノ差額ノ請求權及第三十八條ニ掲ケル請求權ハ法人ノ債權者又ハ相續債權者ノ他ノ債權ニ後ル

第四章 財團債權

第四十七條 左ニ掲ケル請求權ハ之ヲ財團債權トス

- 一 破産債權者ノ共同ノ利益ノ爲ニスル裁判上ノ費用
- 二 國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權但シ破産宣告後ノ原因ニ基テ請求權ハ破産財團ニ關シテ生シタルモノニ限ル
- 三 破産財團ノ管理換價及配當ニ關スル費用
- 四 破産財團ニ關シ破産管財人ノ爲シタル行為ニ因リテ生シタル請求權
- 五 事務管理又ハ不當利得ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權
- 六 委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲ニ爲シタル行為ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權

七 第五十九條第一項ノ規定ニ依リ破産管財人カ債務ノ履行ヲ爲ス場合ニ於テ相手方カ有スル請求權

八 破産宣告ニ因リテ雙務契約ニ關シ終了ノ申入アリタル場合ニ於テ其ノ終了ニ至ル迄ノ間ニ生シタル請求權

九 破産者及之ニ扶養セララル者ノ扶助料

第四十八條 破産管財人負擔附隨ノ履行ヲ受ケタルトキハ債權ノ利益ヲ受クヘキ請求權ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テ之ヲ財團債權トス

第四十九條 財團債權ハ破産手續ニ依ラスシテ隨時之ヲ辨決ス

第五十條 財團債權ハ破産財團ヨリ先ツ之ヲ辨決ス

第五十一條 破産財團カ財團債權ノ總額ヲ辨決スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ財團債權ノ辨決ハ法令ニ定ムル優先權ニ拘ラス未タ辨決セサル債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但シ財團債權ニ付存スル留置權、特別ノ先取特權、質權及抵當權ノ效力ヲ妨ケス

第四十七條第一號乃至第七號ノ財團債權ハ他ノ財團債權ニ先ツ

第五十二條 第十七條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條第一項ノ規定ハ第四十七

第五章 法律行為ニ關スル破産ノ效力

第五十三條 破産者カ破産宣告ノ後破産財團ニ關スル財產ニ關シテ爲シタル法律行為ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス破産者カ破産宣告ノ日ニ於テ爲シタル法律行為ハ破産宣告後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第五十四條 破産宣告ノ後破産財團ニ關スル財產ニ關シ破産者ノ法律行為ニ因ラスシテ權利ヲ取得スルモノ其ノ取得ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 破産宣告ノ後破産財團ニ關シ破産宣告前ニ生シタル登記原因ニ基キ破産宣告ノ後爲シタル登記又ハ不動產登記法第二條第一號ノ規定ニ依ル假登記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ登記權利者カ破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ爲シタル登記又ハ假登記ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利ノ設定、移轉又ハ變更ニ關スル登録又ハ假登録ニ付之ヲ準用ス

條第七號及第四十八條ニ規定スル財團債權ニ之ヲ準用ス

第五十六條 破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知ラスシテ破産者ニ爲シタル辨決ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知リテ破産者ニ爲シタル辨決ハ破産財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テノミ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

第五十七條 爲替手形ノ振出人又ハ裏書人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂人又ハ豫備支拂人カ其ノ事實ヲ知ラスシテ引受又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ小切手及金銭其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五十八條 前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ破産宣告ノ公告前ニ在リテハ其ノ事實ヲ知ラザリシモノト推定シ公告後ニ在リテハ其ノ事實ヲ知リタルモノト推定ス

第五十九條 雙務契約ニ付破産者及其ノ相手方カ破産宣告ノ當時未タ共ニ其ノ履行ヲ完了セザルトキハ破産管財人ハ其ノ選擇ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ破産者ノ債務ヲ履行シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相手方ハ破産管財人ニ對

シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ契約ノ解除ヲ爲スカ又ハ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

破産者ニ對シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第六十條 前條ノ規定ニ依リ契約ノ解除アリタルトキハ相手方ハ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

破産者ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ現存セザルトキハ其ノ價額ニ付財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第六十一條 取引所ノ相場アル商品ノ賣買ニ付一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ時期カ破産宣告後ニ到來スヘキトキハ契約ノ解除アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ損害賠償ノ額ハ履行地又ハ其ノ地ノ相場ノ標準ト爲ルヘキ地ニ於ケル同種ノ取引ニシテ同一ノ時期ニ履行スヘキモノノ相場ト賣買ノ代價トノ差額ニ依リテ之ヲ定ム

前條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル損害賠償ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 第五十九條第二項ノ規定ハ民法

第六百二十一條、第六百三十一條又ハ第六百四十二條第一項ノ規定ニ依リ相手方又ハ破産管財人カ有スル解除權ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第六十三條 貸與人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ借賃ノ前拂又ハ借賃ノ債權ノ處分ハ破産宣告ノ時ニ於ケル当期及次期ニ關スルモノヲ除ク外之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得サルニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ其ノ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前二項ノ規定ハ地上權及永小作權ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 破産者カ請負契約ニ因リ仕事ヲ爲ス義務ヲ負擔スルトキハ破産管財人ハ必要ナル材料ヲ供シ破産者ヲシテ其ノ仕事ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ仕事カ破産者自ラ爲スコトヲ要セザルトキハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ破産者カ其ノ相手方ヨリ受クヘキ報酬ハ破産財團ニ屬ス

第六十五條 委任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ委任者カ破産宣告ノ通知ヲ受ケ且破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債

第六十六條 交互計算ハ當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ終了ス此ノ場合ニ於テハ各當事者ハ計算ヲ閉鎖シ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 數人共同シテ財產權ヲ有スル場合ニ於テ共有者ノ中破産ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ分割ヲ爲ササル定アルトキト雖破産手續ニ依ラスシテ其ノ分割ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 民法第七百九十六條第二項第三項及第七百九十七條ノ規定ハ配偶者ノ財產ヲ管理スル者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ同法第八百九十七條ノ規定ハ親權ヲ行フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産宣告ノ當時緊屬スル訴訟ハ破産管財人又ハ相手方ニ於テ之ヲ受繼クコトヲ得第四十七條第七號ニ掲クル請求權ニ關スル訴訟ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ訴訟費用ハ之ヲ財團債權トス

第七十條 破産債權ニ付破産財團ニ屬スル財產ニ對シシタル強制執行、假差押又ハ假處分ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ但シ強制執行ニ付テハ破産管財人ニ於テ破産財團ノ爲其ノ手續ヲ續行スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ破産管財人カ強制執行ノ手續ヲ續行スルトキハ費用ハ之ヲ財團債權トシ強制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴ニ付テハ破産管財人ヲ被告トス

前二項ノ規定ハ一般ノ先取特權者カ破産財團ニ屬スル財產ニ對シシタル競賣手續ニ之ヲ準用ス

第七十一條 破産財團ニ屬スル財產ニ對シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル滯納處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ破産ノ宣告ハ其ノ處分ノ續行ヲ妨ケス

破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産宣告ノ當時行政廳ニ緊屬スル事件アルトキハ其ノ手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 左ニ掲クル行爲ハ破産財團ノ爲之ヲ否認スルコトヲ得

- 一 破産者カ破産債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後ニ爲シタル擔保ノ供與、債務ノ消滅ニ關スル行爲其ノ他破産債權者ヲ害スル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキニ限ル
- 三 前號ノ行爲ニシテ破産者ノ親族、戶主、家族又ハ同居者ヲ相手方トスルモ但シ相手方カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
- 四 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前三十日內ニ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ破産者ノ義務ニ關セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ破産者ノ義務ニ關セスルモノ但シ債權者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコト又ハ破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルトキニ限ル

第六章 否認權

第七十三條 前條ノ規定ハ破産者ヨリ手形ノ支拂ヲ受ケタル者カ其ノ支拂ヲ受ケサレハ債務者ノ一人又ハ數人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘカリシ場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ最終ノ償還義務者又ハ手形ノ振出ヲ委託シタル者カ振出ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ破産管財人ハ之ヲシテ破産者カ支拂ヒタル金額ヲ償還セシムルコトヲ得

第七十四條 支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後債權利ノ設定、移轉又ハ變更ヲ以テ第三者ニ對テ行爲力カ其ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ行爲力權利ノ設定、移轉又ハ變更アリタル日ヨリ十五日ヲ經過シタル後惡意ニテ爲シタルモノナルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得但シ登記及登錄ニ付テハ假令又ハ假登錄アリタル後本登記又ハ本登録ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利取得ノ效力ヲ生スル登録ニ付之ヲ準用ス

第七十五條 否認權ハ否認セムトスル行爲ニ付執行力アル債務名義アルトキ又ハ其ノ行

爲カ執行行爲ニ基クモノナルトキト雖之ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十六條 否認權ハ訴又ハ抗辯ニ依リ破産管財人ノ之ヲ行フ

第七十七條 否認權ノ行使ハ破産財團ノ原狀ニ復セシム

第七十八條 第五號ニ掲クル行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ其ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存スルトキハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存セサルトキハ相手方ハ其ノ償還ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得反對給付ノ償還カ現存スル利益ヨリ大ナル場合ニ於テ其ノ差額ニ付亦同シ

第七十九條 破産者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ其ノ受ケタル給付ヲ返還シ又ハ其ノ償還ヲ償還シタルトキハ相手方ノ償還ハ之ニ因リテ原狀ニ復ス

第八十條 第七十二條、第七十三條及前二條ノ規定ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリ

タル場合ニ於テ被相續人、相續人、相續財產管理人及遺言執行者カ相續財產ニ關シテ爲シタル行爲其ノ相手方カ第十三條ノ規定ニ關シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第八十一條 相續財產ニ對シ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ受遺者ニ對スル償還其ノ他債務ノ消滅ニ關スル行爲カ其ノ償還ニ先ツ否認スルコトヲ得

第八十二條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第八十條ノ規定スル行爲カ否認セラレタルトキハ相續債權者ニ對シテ爲シタル後否認セラレタル行爲ノ相手方ニ其ノ權利ノ償還ニ應ジテ殘餘財產ヲ分配スルコトヲ得

第八十三條 左ノ場合ニ於テハ否認權ハ轉得者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

- 一 轉得者カ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對シテ否認ノ原因アルコトヲ知リタルトキ
- 二 轉得者カ破産者ノ親族、戶主、家族又ハ同居者ナルトキ但シ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三 轉得者カ無償行爲又ハ之ト同視スヘキ有償行爲ニ因リテ轉得シタル場合ニ於テ各其ノ前者ニ對シ否認ノ原因アル

トキ
第七十七條 第二項ノ規定ハ前項第三號ノ規定ニ依リ否認權ノ行使アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第八十四條 破産宣告ノ日ヨリ一年前ニ爲シタル行爲ハ支拂停止ノ事實ヲ知りタルコトヲ理由トシテ之ヲ否認スルコトヲ得ス
第八十五條 否認權ハ破産宣告ノ日ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行爲ノ日ヨリ二十年ヲ経過シタルトキ亦同シ
第八十六條 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ破産債權者ノ提起シタル訴訟カ破産宣告ノ當時繫屬スルトキハ其ノ訴訟手續ハ受継又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス
第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 取戻権

第九十條 前條第一項ノ規定ハ物品買入ノ委託ヲ受ケタル關係カ其ノ物品ヲ委託者ニ發送シタル場合ニ之ヲ準用ス
第九十一條 破産者カ破産宣告前取戻權ノ目的タル財産ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ取戻權者ハ反對給付ノ請求權ヲ移轉ヲ請求スルコトヲ得破産管財人カ取戻權ノ目的タル財産ヲ讓渡シタル場合亦同シ
前項ノ場合ニ於テ破産管財人カ反對給付ヲ受ケタルトキハ取戻權者ハ破産管財人カ反對給付トシテ受ケタル財産ノ給付ヲ請求スルコトヲ得
第九十二條 破産財團ニ屬スル破産ノ上ニ存スル特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目的タル破産ニ付別除權ヲ有ス
第九十三條 破産財團ニ屬スル破産ノ上ニ存スル留置權ニシテ商法ニ依ルモノハ破産財團ニ付得

第八章 別除権

第九十四條 數人共同シテ財産權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ共有ニ關スル債權ヲ有スル他ノ共有者ハ分割ニ因リテ破産者ニ歸スルキ共有財産ノ部分ニ付別除權ヲ有ス
第九十五條 別除權ハ破産手續ニ依ラスシテ之ヲ行フ
第九十六條 別除權者ハ其ノ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受ケタルコト能ハサル債權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ別除權ヲ拋棄シタル債權額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
第九十七條 破産財團ニ屬セサル破産者ノ財産ノ上ニ特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受ケタルコト能ハサル債權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
華族世襲財産ヲ差押フル權利ヲ有スル者及破産者カ更ニ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ前ノ破産ニ付破産債權者ヲ有スル者亦同シ
前項ニ掲ケタル權利ヲ有スル者ニハ第二編中

別除權ニ關スル規定ヲ準用ス
第九十八條 破産債權者カ破産宣告ノ當時破産者ニ對シテ債務ヲ負擔スルトキハ破産手續ニ依ラスシテ相殺ヲ爲スコトヲ得
第九十九條 破産債權者ノ債權カ破産宣告ノ時ニ於テ期限附若ハ解除條件付ナルトキ又ハ第二十二條ニ掲ケルモノナルトキト雖相殺ヲ爲スコトヲ妨ケス債務カ期限附若ハ條件付ナルトキ又ハ將來ノ請求權ニ關スルモノナルトキ亦同シ
第一百條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權ヲ有スル者カ其ノ債務ヲ辨濟スル場合ニ於テハ後日相殺ヲ爲ス爲其ノ債權額ノ限度ニ於テ辨濟額ノ寄託ヲ請求スルコトヲ得
第一百一條 解除條件附債權ヲ有スル者カ相殺ヲ爲スコトキハ其ノ相殺額ニ付擔保ヲ供シ又ハ寄託ヲ爲スコトヲ要ス
第一百二條 第十八條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ハ破産債權者ノ債權ニ之ヲ準用ス
第一百三條 破産債權者カ貸借人ナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ノ借貸ニ付相殺ヲ爲スコトヲ得敷金アルトキハ其ノ後ノ借貸ニ付亦同シ
前項ノ規定ハ地代及小作料ニ付之ヲ準用ス

第九章 相殺権

第一百四條 左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス
一 破産債權者カ破産宣告ノ後破産財團ニ對シテ債務ヲ負擔シタルトキ
二 破産者ノ債務者カ破産宣告ノ後他人ニ破産債權ヲ取得シタルトキ
三 破産者ノ債務者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知りテ破産債權ヲ取得シタルトキ但シ其ノ取得カ法定ノ原因ニ基クトキ、債務者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタル時ヨリ前ニ生シタル原因ニ基クトキ又ハ破産宣告ノ時ヨリ一年前ニ生シタル原因ニ基クトキハ此ノ限ニ在ラズ
第一百五條 破産事件ハ債務者カ營業者ナルトキハ其ノ主タル營業所ノ所在地、外國ニ主タル營業所ヲ有スルトキハ日本ニ於ケル主タル營業所ノ所在地、營業者ニ非サルトキ又ハ營業所ヲ有セザルトキハ其ノ普通裁判所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬ス
第一百六條 相續財産ニ關スル破産事件ハ相續

第二章 手續規定

開始地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第十七條 前二條ノ規定ニ依ル管轄裁判所ナキトキハ財産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
債權ハ裁判所ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル地ヲ以テ其ノ所在地ト看做ス
前二項ノ規定ニ依リ二以上ノ裁判所カ管轄權ヲ有スルトキハ先ニ破産ノ申立アリタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第一百八條 破産手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス
第一百九條 破産事件ニ關シテハ裁判所ハ五ニ法律上ノ補助ヲ求ムルコトヲ得
第一百十條 破産手續ニ關スル裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
裁判所ハ職權ヲ以テ破産事件ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得
第一百十一條 破産手續ニ關スル裁判ハ職權ヲ以テ其ノ送達ヲ爲スコトヲ要ス
第一百十二條 破産手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本編ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス
第一百十三條 抗告裁判所ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス但シ裁判所ハ其

ノ決定ヲ以テ直ニ效力ヲ生スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

抗告裁判所ノ破産ノ宣告ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ其ノ效力ヲ生ス

第百十四條 破産手續ニ關スル申立、陳述及抗告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十五條 本編ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ官報及登記事項ノ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

公告ハ最終ノ掲載アリタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第百十六條 裁判所ノ管轄内ニ前條第一項ノ新聞紙ナキトキハ公告ハ裁判所及破産者ノ營業所若ハ住所ノ所在地ノ出張所又ハ其ノ管轄内ノ市役所、町村役場若ハ之ニ準スヘキ公署ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ公告ハ揭示ノ日ヨリ三日ヲ経過シタル後其ノ效力ヲ生ス

第百十七條 本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十八條 本編ノ規定ニ依リ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ送達ハ書類ノ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ公告ハ一切ノ關係人ニ對スル送達ノ效力ヲ有ス

第百十九條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ破産ヲ以テ通達シテ破産ノ登記ヲ各營業所又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ爲シタルコトヲ要ス

第百二十條 裁判所力破産者ニ關スル登記アルコトヲ知リタルトキハ破産ヲ以テ通達シテ破産ノ登記ヲ登記所ニ爲シタルコトヲ要ス破産ノ登記ニ關スル權利ニシテ登記シタルモノアルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第百二十一條 前二條ノ規定ハ破産取消、破産廢止又ハ強制和議取消ノ決定カ確定シタル場合及破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス破産管財人カ破産ノ登記アリタル權利ヲ破産財團ヨリ拋棄シタル場合ニ於テ登記簿ニ申立アリタルトキ亦同シ

第百二十二條 登記所カ前二條ノ規定ニ依リテ登記ノ爲メ受ケタルトキハ通達ナク其ノ前項ノ登記ニ付テハ登録費ヲ課セス

第百二十三條 登記ノ原因タル行為カ否認セラレタルトキハ破産管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ

第百三十一條及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十四條 前四條ノ規定ハ破産財團ニ關スル權利ニシテ登録シタルモノニ之ヲ準用ス

第百二十五條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ法人ノ設立又ハ目的タル事業ニ付官廳ノ許可アリタルモノナルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告アリタル旨ヲ主務官廳ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ破産取消、破産廢止若ハ強制和議取消ノ決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 破産宣告

第百二十六條 債務者カ支拂ヲ爲スコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

債務者カ支拂ヲ停止シタルトキハ支拂ヲ爲スコト能ハサルモノト推定ス

第百二十七條 法人ニ對シテハ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テモ亦破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ合名會社及合資會社ノ存立中ハ之ヲ適用セス

第百二十八條 法人ニ對シテハ其ノ解散ノ後ト雖殘餘財産ノ引渡又ハ分配カ終了セザル間ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百二十九條 相續財產ヲ以テ相續債權者及

受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

第百三十條 破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後相續力開始シタルトキハ破産手續ハ破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後ニ於ケル困難ノ喪失ハ破産手續ニ關シテハ其ノ效力ヲ有セス

第百三十一條 相續財產ニ對シテハ民法第四百一十一條ノ規定ニ依リ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル間ニ限り破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ間ニ限定承認又ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續債權者及受遺者ニ對スル債務カ未ダ終了セザル間亦同シ

第百三十二條 債權者又ハ債務者ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

債權者カ破産ノ申立ヲ爲ストキハ其ノ債權ノ存在及破産ノ原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要ス

第百三十三條 民法ニ依リテ設立シタル法人又ハ事業組合ニ對シテハ理事、合名會社合資會社又ハ株式會社ニ對シテハ無限責任社員、株式會社又ハ相互保險會社ニ對シテハ取締役ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得前項ニ規定スル法人ニ對シテハ清算人モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條 理事、無限責任社員、取締役又ハ清算人ノ全員カ破産ノ申立ヲ爲ササル場合ニ於テハ破産ノ原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要ス

第百三十五條 前二條ノ規定ハ第百三十三條ニ規定スル法人以外ノ法人ニ之ヲ準用ス

第百三十六條 相續財產ニ對シテハ相續債權者及受遺者ノ外相續人、相續財產管理人及遺言執行者モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得相續財產管理人、遺言執行者又ハ限定承認若ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續人カ相續財產ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

相續人、相續財產管理人又ハ遺言執行者カ破産ノ申立ヲ爲ストキハ破産ノ原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要ス

第百三十七條 破産申立ノ當時既ニ外國ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキハ破産申立人ハ破産ノ原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要セス

第百三十八條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ申立同時ニ財產ノ概況ヲ示スヘキ書面債權者及債務者ノ一覧表ヲ提出スルコトヲ要ス申立同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ既後遲延ナク之ヲ提出スルコト

第百三十九條 債權者カ破産ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ破産手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

費用ノ豫納ニ關スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第百四十條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ破産手續ノ費用ハ假ニ隔庫ヨリ之ヲ支辨ス破産申立人カ債權者ナル場合ニ於テ費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ、豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ及裁判所カ債權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百四十一條 破産決定書ニハ破産宣告ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十二條 裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ破産管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ破産宣告ノ日ヨリ二週間以上四月以下ナルコトヲ要ス

二 第一回ノ債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ハ破産宣告ノ日ヨリ一月内ナルコトヲ要ス

三 債權調査ノ期日但シ其ノ期日ト債權

届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス
前項第二號及第三號ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ妨ケス
第百四十三條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス
一 破産決定ノ主文
二 破産管財人ノ氏名及住所
三 前條ノ規定ニ依リ定メタル期間及期日
四 破産者ノ債務者及破産財團ニ屬スル財産ノ所持者ハ破産者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ其ノ財産ヲ交付スヘカヲサレバ及債務ヲ負擔スルコト又ハ其ノ財産ヲ所持スルコト、所持者カ別除權ヲ有スルトキハ其ノ債權ヲ有スルコトヲ一定ノ期間内ニ破産管財人ニ届出ツヘキ旨ノ命
第一項第四號ノ届出ヲ怠リタル者ハ之ニ因リテ破産財團ニ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス
知レタル債權者、債務者及財産所持者ニハ前項ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス
前二項ノ規定ハ第一項第二號乃至第四號ニ掲ケル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス
第一項第四號ノ届出ヲ怠リタル者ハ之ニ因リテ破産財團ニ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

トヲ要ス
第百四十四條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス
第百四十五條 裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認ムルトキハ破産ノ宣告ト同時ニ破産停止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産決定ノ主文並破産停止ノ決定ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ破産停止ノ決定ノ取消カ確定シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス
第百四十六條 前條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、產業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セズ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ
第百四十七條 破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレバ其ノ居住地ヲ離ルルコトヲ得ス
第百四十八條 裁判所ハ必要ト認ムルトキハ破産者ノ引致ヲ命スルコトヲ得
引致ニハ引致狀ヲ發シテ之ヲ爲ス
引致ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス
第百四十九條 破産者カ逃走シ又ハ財産ヲ隠匿シ又ハ毀棄スル虞アルトキハ裁判所ハ其ノ監守ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ破産者ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ命ジテ監守ヲ執行セシム
第百五十條 監守ヲ命セラレタル破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレバ外人ト面接又ハ通信スルコトヲ得ス
第百五十一條 監守ノ必要カ止ミタルトキハ裁判所ハ破産者若ハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ監守ノ決定ヲ取消スコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ警察官署ニ命ジテ監守ヲ解カシム
第百五十二條 前五條ノ規定ハ破産者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者並支配人ニ付テ準用ス相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ
第百五十三條 破産者、其ノ代理人並其ノ理事及之ニ準スヘキ者ハ破産管財人、監査委員又ハ債權者集會ノ請求ニ因リ破産ニ關シ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人、前主、相續財産管理人、遺言執行者並相續人及前主ノ代理人亦同シ
前項ノ規定ハ前二前項ニ規定スル資格ヲ有

シタル者ニ之ヲ準用ス
第百五十四條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖債務者及第百五十二條ニ規定スル者ノ引致又ハ監守ヲ命スルコトヲ得
第百五十五條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産財團ニ關シ假若押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得
裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得
前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
第百五十六條 破産取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テハ裁判所ハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス
第百五十七條 破産管財人ハ破産管財人ノ職務ヲ分掌スルコトヲ得
第百五十八條 破産管財人ハ一人トス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ數人ヲ選任スルコトヲ得

第百五十九條 裁判所ハ破産管財人ニ其ノ選任ヲ證スル書面ヲ交付スルコトヲ要ス
破産管財人ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ利害關係人ノ請求アルトキハ前項ノ書面ヲ示スコトヲ要ス
第百六十條 破産管財人ハ正當ノ事由アルニ非サレバ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス
破産管財人カ其ノ任務ヲ辭セムトスルトキハ裁判所ニ申立ヲ爲スコトヲ要ス
第百六十一條 破産管財人ハ裁判所ノ監督ニ關ス
第百六十二條 破産財團ニ關スル訴訟ニ付テハ破産管財人ヲ以テ原告又ハ被告トス
第百六十三條 破産管財人數人アルトキハ共同シテ其ノ職務ヲ行フ但シ裁判所ノ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スルコトヲ得
破産管財人數人アルトキハ第三者ノ同意表示ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル
第百六十四條 破産管財人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス
破産管財人カ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ破産管財人ハ利害關係人ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ
第百六十五條 破産管財人ハ臨時故障アル場合ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシムル爲自己ノ責任ヲ以テ代理人ヲ選任スルコトヲ得
前項ノ代理人ノ選任ハ裁判所ノ認可ヲ得ル

第百六十六條 破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受ケルコトヲ得其ノ額ハ裁判所之ヲ定ム
第百六十七條 裁判所ハ債權者集會ノ決議若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産管財人ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ破産管財人ヲ審訊スルコトヲ要ス
第百六十八條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ破産管財人又ハ其ノ相續人ハ滯留ナク債權者集會ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
破産者、破産債權者又ハ後任ノ破産管財人カ債權者集會ニ於テ計算ニ付異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト爲ス
破産管財人ハ利害關係人ノ同意ニ依リ計算報告書及監査委員ノ意見書ヲ債權者集會ノ日ヨリ三日前ニ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス
第百六十九條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テ是迄ノ事情アルトキハ破産管財人又ハ其ノ相續人ハ後任ノ破産管財人又ハ破産者カ財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス
第四章 監査委員
第百七十條 監査委員ヲ置クカ否ハ第一回ノ

債權者集會ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ要ス
但シ後ノ債權者集會ニ於テ其ノ決議ヲ變更
スルコトヲ得
第七十一條 監査委員ハ三人以上トシ債權
者集會ニ於テ之ヲ選任ス
監査委員ノ選任ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得
ルコトヲ要ス
第七十二條 監査委員ノ職務ノ執行ハ過半
數ヲ以テ之ヲ決ス
特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ヲ爲スコ
トヲ得ス
第七十三條 各監査委員ハ何時ニテモ破産
管財人ニ對シテ破産財團ニ關スル報告ヲ求
メ又ハ破産財團ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得
第七十四條 監査委員ハ何時ニテモ債權者
集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得
重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係
人ノ申立ニ因リ監査委員ヲ解任スルコトヲ
得
第七十五條 第六十四條及第六十六條
ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準用ス

第五節 債權者集會

破産債權者ノ申立アリタルトキ亦同シ
第七十七條 債權者集會ノ期日又會議ノ日
的タル事項ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要
ス
債權者集會ノ延期又ハ續行ニ付言渡アリタ
ルトキハ送達又ハ公告ヲ爲スコトヲ要セス
第七十八條 債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮
ス
第七十九條 債權者集會ノ決議ニハ議決權
ヲ行フコトヲ得ヘキ出席債權者ノ過半
數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半
額ヲ超ユル者ノ同意アルコトヲ要ス
債權者集會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有
スル者ハ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得ス
第八十條 前條ノ規定ニ依リ決議ヲ爲スコ
ト能ハサルトキト雖決議スヘキ事項ニ付同
意シタル者ノ債權額カ議決權ヲ行フコトヲ
得ヘキ出席債權者ノ總債權ノ半額ヲ超
ユルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ決議アリタ
ルトモノト看做スコトヲ得
前項ノ決定ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要
ス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコト
ヲ得ス
第八十一條 破産債權者ハ代理人ヲ以テ其
ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ
代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコ
トヲ要ス

第八十二條 破産債權者ハ確定債權額ニ應
ジテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得
未確定債權ノ停止條件附債權ノ將來ノ請求
權又ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クル
コト能ハサルヘキ債權額ニ付破産管財人又
ハ破産債權者ノ異議アルトキハ裁判所ハ議
決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ
付之ヲ行ハシムヘキカヲ定ム
裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ何時ニテ
モ前項ノ規定ニ依リ決定ヲ變更スルコトヲ
得
前二項ノ規定ニ依リ決定ハ其ノ言渡アリタ
ルトキハ送達ヲ爲スコトヲ要セス其ノ決定
ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第八十三條 債權者集會ノ決議ハ之ヲ以テ
監査委員ノ同意ニ代フルコトヲ得
債權者集會ノ決議カ監査委員ノ意見ト異ナ
ルトキハ其ノ決議ニ從フ
第八十四條 債權者集會ノ決議カ破産債權
者ノ一般ノ利益ニ反スルトキハ裁判所ハ破
産管財人、監査委員若ハ破産債權者ノ申立
ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ決議ノ執行ヲ禁
止スルコトヲ得
議決權ヲ有セザリシ破産債權者カ前項ノ申
立ヲ爲スニハ其ノ破産債權者タルコトヲ曉
明スルコトヲ要ス
第一項ノ規定ニ依リ禁止決定ハ其ノ言渡アリ

第六節 破産財團ノ管理 及 換價

第八十五條 破産管財人ハ就職ノ後直ニ破
産財團ニ關スル財產ノ占有及管理ニ著手ス
ルコトヲ要ス
第八十六條 破産管財人ハ必要ト認ムルトキ
ハ裁判所書記、執達吏又ハ公證人ヲシテ破
産財團ニ關スル財產ニ封印ヲ爲サシムルコ
トヲ得此ノ場合ニ於テ封印ヲ爲シタル者ハ
圖書ヲ作ルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ封印除去ノ場合ニ之ヲ準用ス
第八十七條 裁判所書記ハ破産宣告ノ後直
ニ破産者ノ財產ニ關スル帳簿ヲ閉鎖シ之ニ
署名捺印シ且圖書ヲ作り之ニ帳簿ノ現狀ヲ
記載スルコトヲ要ス
第八十八條 破産管財人ハ過半ナク裁判所
書記、執達吏又ハ公證人ノ立會ヲ以テ破産
財團ニ關スル一切ノ財產ノ價額ヲ評定スル
コトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ過半ノ成アル
場合ヲ除ク外破産者ノ立會ヲ以テムルコト
ヲ要ス
第八十九條 破産管財人ハ財產目録及貸借
對照表ヲ作ルコトヲ要ス
破産管財人ハ財產目録及貸借對照表ノ原本

ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ
要ス封印ニ關スル圖書ニ付亦同シ
利害關係人ハ前項ノ規定スル書類ノ閲覧ヲ
求ムルコトヲ得
第九十條 裁判所ハ通信官署又ハ公衆通信
取扱所ニ對シ破産者ニ宛テタル郵便物又ハ
電報ヲ破産管財人ニ配達スヘキ旨ヲ通知ス
ルコトヲ要ス
破産管財人ハ其ノ受取リタル前項ノ郵便物
又ハ電報ノ開披ヲ爲スコトヲ得
破産者ハ前項ノ郵便物又ハ電報ノ開覽ヲ求
ムルコトヲ得且破産財團ニ關セサルモノノ交付ヲ求
ムルコトヲ得
第九十一條 裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ
破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ通知
ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得
破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シタル
トキ又ハ破産終結ノ決定アリタルトキハ裁
判所ハ前條第一項ノ通知ヲ取消スコトヲ要
ス
第九十二條 第一回ノ債權者集會前ニ於テ
ハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産者
及之ニ扶養セラルル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ
破産者ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得
貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ保管方法
ハ裁判所之ヲ定ム
第九十三條 破産管財人ハ破産宣告ニ至リ

タル事情或破産者及破産財團ニ關スル經過
及現狀ニ付第一回ノ債權者集會ニ報告ヲ爲
スコトヲ要ス
第九十四條 第一回ノ債權者集會ニ於テハ
扶助料ノ給與、營業ノ廢止又ハ繼續及高價
品ノ保管方法ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス
第九十五條 破産管財人ハ別除權者ニ對シ
其ノ權利ノ目的タル財產ヲ示スヘキコトヲ
求ムルコトヲ得
破産管財人カ前項ノ財產ヲ評價セムトスル
トキハ別除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第九十六條 一般ノ債權調査ノ終了前ニ於
テハ破産管財人ハ破産財團ノ換價ヲ爲スコ
トヲ得第一回ノ債權調査ノ終了前強制和議
ノ提供アリタル場合ニ於テ其ノ落着ニ至ル
迄亦同シ
破産財團ニ關スル財產ニシテ過半ナク之ヲ
換價スルニ非サレハ破産財團ニ損害ヲ生ス
ル虞アルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス監査委
員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許
可ヲ得テ破産管財人其ノ換價ヲ爲スコトヲ
得
第九十七條 破産管財人左ニ掲クル行爲ヲ
爲スニハ監査委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
但シ第七號乃至第十四號ニ掲クル行爲ニ付
千圓以上ノ價格ヲ有スルモノニ關セサルト
キハ此ノ限ニ在ラス

一 不動産ニ關スル物權、登記スヘキ日
 本船舶及外國船舶ノ任意賣却
 二 遺棄物、漁業權、特許權、意匠權、
 實用新案權及著作權ノ任意賣却
 三 營業ノ讓渡
 四 商品ノ一括賣却
 五 債權
 六 第九條第二項ノ規定ニ依ル債權拋棄
 ノ承認、第十條ノ規定ニ依ル包括遺贈
 拋棄ノ承認及第十一條第一項ノ規定ニ
 依ル特定遺贈ノ拋棄
 七 動産ノ任意賣却
 八 債權及有價證券ノ讓渡
 九 第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行
 ノ請求
 十 訴ノ提起
 十一 和解及仲議契約
 十二 權利ノ拋棄
 十三 財團債權、取戻權及別除權ノ承認
 十四 別除權ノ目的ノ受戻
 第十五 第九十八條 第一項ノ債權者集會前ニ於テ
 前條ノ規定ニ依リ監査委員ノ同意ヲ要スル
 行為ヲ爲スノ必要アルトキハ破産管財人ハ
 裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
 監査委員及債權者集會ニ於テハ破産管財
 人ハ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但
 シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得

ルヲ以テ定ル
 第九十九條 前二條ノ場合ニ於テ破産管財
 人ハ遲滞ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ
 意見ヲ聽クコトヲ要ス
 第二百條 破産管財人カ第九十七條ニ揭ク
 ル行為ヲ爲スニ付監査委員ノ同意ヲ得タル
 トキト雖裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ其ノ
 行為ノ執行ノ中止ヲ命シ且其ノ行為ニ關ス
 ル決議ヲ爲サシムル爲債權者集會ヲ召集ス
 ルコトヲ得
 第二百一條 破産管財人カ第九十六條乃至
 第九十八條ノ規定ニ違反シ又ハ前條ノ規
 定ニ依ル執行ノ中止ノ命令ニ違反シタルトキ
 ト雖之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコト
 ヲ得ス
 第二百二條 第九十七條第一號及第二號ニ
 掲クルモノノ換價ハ民事訴訟法ニ依リテ之
 ヲ爲ス
 第二百三條 破産管財人ハ民事訴訟法ニ依リ
 別除權ノ目的タル財產ノ換價ヲ爲スコトヲ
 得此ノ場合ニ於テハ別除權者ハ之ヲ拒ムコ
 トヲ得ス
 前項ノ場合ニ於テ別除權者ノ受クヘキ金額
 カ未ク確定セサルトキハ破産管財人ハ代金
 ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ
 ハ別除權者ハ代金ノ上ニ存ス
 第二百四條 別除權者カ法律ニ定メタル方法

ニ依ラスシテ別除權ノ目的ヲ處分スル權利
 ヲ有スルトキハ裁判所ハ破産管財人ノ申立
 ニ因リ別除權者カ其ノ處分ヲ爲スヘキ期間
 ヲ定ム
 別除權者カ前項ノ期間内ニ處分ヲ爲ササル
 トキハ前項ノ權利ヲ失フ
 第二百五條 破産管財人ハ債權者集會ノ定ム
 ル所ニ依リ債權者集會又ハ監査委員ニ破産
 財團ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス
 第二百六條 破産管財人カ其ノ寄託シタル貨
 幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ返還ヲ求ム
 ルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキ
 ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス但シ債權
 者集會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ
 其ノ決議ニ依ル
 破産管財人カ前項ノ規定ニ違反シタル場合
 ニ於テ受寄者カ善意ニシテ且過失ナキトキ
 ハ辨濟ハ其ノ效力ヲ有ス
 前二項ノ規定ハ破産管財人カ受寄者ヲシテ
 支拂其ノ他ノ給付ヲ爲サシムル爲證券ヲ發
 行スル場合ニ之ヲ準用ス
 第二百七條 商法第九十二條ノ規定ハ法人カ
 破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス但
 シ互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ
 於テ基金ノ支拂ニ付亦同シ
 第二百八條 無限責任又ハ保證責任ノ相互保
 險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産

管財人ハ損失分擔ノ割合ニ應ジ會社ノ債務
 ヲ辨濟スルニ必要ナル金額ヲ社員ニ賦課ス
 ルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テ社員中ニ無資力者アルト
 キハ其ノ負擔スヘキ金額ハ他ノ社員之ヲ負
 擔ス
 第二百九條 前條ノ場合ニ於テハ破産管財人
 ハ第九十九條第二項ノ規定ニ依リ財產目
 録及貸借對照表ノ原本ヲ裁判所ニ提出シタ
 ル後直ニ計算表ヲ作り之ニ各社員ノ氏名、
 住所及負擔額ヲ記載スルコトヲ要ス
 第二百十條 破産管財人ハ前條ノ計算表ニ主
 務官廳カ認シタル定款ノ原本ヲ添附シ之
 ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコ
 トヲ要ス
 破産ノ宣告ヲ受ケタル相互保險會社ニ關ス
 ル登記簿カ破産裁判所タル區域裁判所ノ出張
 所ニ在ルトキハ登記簿カ交付シタル社員名
 簿ノ原本ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス
 第二百十一條 前條ノ申請アリタルトキハ裁
 判所ハ計算表ニ記載シタル社員ヲ呼出ス爲
 期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 裁判所ハ利害關係人ノ同意ニ供スル爲期日
 ヲ三日前ニ計算表ヲ備ヘ置クコトヲ要ス
 第二百十二條 裁判所ハ前條ノ期日ニ於テ相
 互保險會社ノ取締役、監査役、破産管財人
 及監査委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

社員ハ期日ニ於テ異議ヲ述フルコトヲ得
 第二百十三條 裁判所ハ社員ノ異議ヲ理由ア
 リトスルトキ其ノ他必要ト認ムルトキハ計
 算表ヲ更正シ又ハ破産管財人ヲシテ之ヲ更
 正セシメタル後計算表認可ノ決定ヲ爲スコ
 トヲ要ス
 計算表認可ノ決定ハ期日又ハ直ニ爲シタ
 ル一週間内ノ期日ニ於テ之ヲ言渡スコトヲ
 要ス
 計算表認可ノ決定書ハ利害關係人ノ同意ニ
 供スル爲計算表ト共ニ之ヲ備ヘ置クコトヲ
 要ス
 第二百十四條 第二百十一條第一項及前條第
 一項第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不
 服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第二百十五條 計算表認可ノ決定アリタルト
 キハ破産管財人ハ遲滞ナク各社員ヲシテ其
 ノ負擔額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス
 社員ニ對スル強制執行ハ執行文ヲ附シタル
 決定ノ正本及計算表ノ抄本ニ依リテ之ヲ爲
 ス
 民事訴訟法第五百二十一條、第五百四十五
 條及第五百四十六條ノ規定ニ依ル新八第二
 百四十五條ニ定ムル裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 第二百十六條 各社員ハ計算表認可ノ決定書
 渡ノ日ヨリ一月ノ不變期間内ニ破産管財人
 ニ對シ計算表ニ付異議ノ訴ヲ提起スルコト

ヲ得
 異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタ
 ルトキ又ハ過失ナクシテ之ヲ主張スルコト
 能ハサリシコトヲ說明スルニ非サレハ之ヲ
 提起スルコトヲ得ス
 第二百十七條 前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所
 ノ管轄ニ專屬ス但シ訴訟ノ目的ノ價額カ區
 裁判所ノ管轄額ヲ超ユル場合ニ於テ本案ノ辯
 論前ニ當事者ノ申立アリタルトキハ決定ヲ
 以テ破産裁判所ノ所在ヲ管轄スル地方裁判
 所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス
 前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
 ヲ得其ノ抗告期間ハ決定言渡ノ日ヨリ之ヲ
 起算ス
 第一項ノ決定カ確定シタルトキハ事件ハ地
 方裁判所ニ專屬ス此ノ場合ニ於テハ區域判
 所ノ訴訟手續ニ關スル費用ハ之ヲ地方裁判
 所ノ訴訟手續ニ關スル費用ノ一部ト看做ス
 第二百十八條 第二百十六條第一項ノ期間内
 異議ノ訴ニ付口頭辯論ヲ開クコトヲ得ス
 數額ノ訴ノ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲ス
 コトヲ要ス
 第二百十九條 強制執行ノ停止及續行並執行
 處分ノ取消ニ付テハ民事訴訟法第五百四十
 七條及第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス
 第二百二十條 異議ノ訴ニ付爲シタル判決ハ
 社員ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百二十一條 社員ノ無資力、異議ノ訴其ノ他ノ事由ニ因リ社員ニ對スル賦課ヲ必要トスルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十二條 最後ノ配當ノ許可アリタルトキハ破産管財人ハ最後ノ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十三條 最後ノ計算表ニ依リ全部ノ辨濟ヲ爲スニ足ルヘキ金額ヲ得ルコト能ハサルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ脱退シタル社員ニ對シテモ亦其ノ責任ノ限度内ニ於テ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 前十六條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ産業組合其ノ他ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條 匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因リテ終了シタルトキハ破産管財人ハ既各組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十六條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ財産分擔アリタルトキハ相續財産ノ處分ハ破産管財人ノ之ヲ爲スコトヲ要ス限定承認又ハ財産分擔アリタル後相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

破産管財人カ前項ノ處分ヲ終ヘタルトキハ

破産債権ニ付破産管財人ノ財産目録及貸借對照表ヲ補充スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ包括受遺者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス

第七章 破産債権ノ届出及調査

第二百二十八條 破産債権者ハ裁判所ノ定メタル期間内ニ其ノ債権ノ額及原因、一般ノ先取特權其ノ他ノ優先權アルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ届出テ且證據書類又ハ其ノ原本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス

別除權者ハ前項ノ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受ケタルコト能ハサルヘキ債権額ヲ届出ツルコトヲ要ス

破産債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ第一項ノ規定スル事項ノ外裁判所、件名及番號ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二百二十九條 裁判所書記ハ債権表ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 債権者ノ氏名及住所

二 債権ノ額及原因

三 優先權アルトキハ其ノ權利

四 別除權者カ前條第二項ノ規定ニ依リテ届出テタル債権額

裁判所書記ハ債権表ノ原本ヲ破産管財人ニ交付スルコトヲ要ス

第二百三十條 債権ノ届出ニ關スル書類及債権表ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百三十一條 債権調査ノ期日ニ於テハ届出アリタル各債権ニ付第二百二十九條第一項ニ掲グル事項ヲ調査ス

第二百三十二條 破産者ハ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

届出ヲ爲シタル破産債権者又ハ其ノ代理人ハ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得代理人ハ代理權ヲ認ニスル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百三十三條 債権ノ調査ハ破産管財人出頭スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十四條 期間後ニ届出アリタル債権ニ付テハ破産管財人及破産債権者ノ異議アル場合ヲ除ク外債権調査ノ一般期日ニ於テ其ノ調査ヲ爲スコトヲ得

破産管財人又ハ破産債権者ノ異議アリタルトキハ裁判所ハ前項ノ債権ノ調査ヲ爲ス爲

特別期日ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ費用ハ期間後ニ届出ヲ爲シタル破産債権者ノ負擔トス

第二百三十五條 前條ノ規定ハ破産債権者カ届出テタル事項ニ付届出期間後他ノ破産債権者ノ利益ヲ害スヘキ變更ヲ加ヘタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條 第二百三十四條第二項ノ規定ハ破産債権者カ債権調査ノ一般期日後ニ債権ノ届出ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條 債権調査ノ特別期日ヲ定ムル決定ハ之ヲ公告シ且破産管財人、破産者及届出ヲ爲シタル破産債権者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第二百三十八條 前條ノ規定ハ債権調査ノ期日ノ變更或ハ債権調査ノ延期及履行ニ之ヲ準用ス但シ公告アリタルトキハ公告及送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百三十九條 前二條ノ規定ニ依リ決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百四十條 債権調査ノ期日ニ於テ破産管財人及破産債権者ノ異議ナカリシトキハ債権ノ額及優先權ハ之ニ依リテ決定ス

破産者カ異議ヲ述ヘタル債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ債権者ハ破産者ヲ相手方トシテ之ヲ受審クコトヲ得

第二百四十一條 裁判所ハ債権調査ノ結果ヲ

債権表ニ記載スルコトヲ要ス破産者ノ述ヘタル異議亦同シ

裁判所書記ハ確定シタル債権ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記載シ裁判所ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス

第二百四十一條 確定債権ニ付テハ債権表ノ記載ハ破産債権者ノ全員ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四十三條 破産債権者カ債権調査ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ其ノ債権ニ付異議アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ其ノ債権者ニ通知スルコトヲ要ス

第二百四十八條第一項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第二百四十四條 異議アル債権ニ付テハ其ノ債権者ハ異議者ニ對シ訴ヲ以テ其ノ債権ノ確定ヲ求ムルコトヲ得

異議者數人アルトキハ之ヲ共同被告トス破産者カ異議者ノ一人ナルトキ亦同シ

裁判所ハ債権者ニ其ノ債権ニ關スル債権表ノ抄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第二百四十五條 債権確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百四十六條 異議アル債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スル場合ニ於テ債権者カ

其ノ債権ノ確定ヲ求ムルトスルトキハ異議者ヲ相手方トシテ訴訟ヲ受審クコトヲ要ス

第二百四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十七條 破産債権者ハ第二百四十一條第一項ノ規定ニ依リ債権表ニ記載シタル事項ニ付テノ異議確定ノ訴ヲ提起シ又ハ第二百四十四條第二項若ハ前條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受審クコトヲ得

第二百四十八條 執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債権ニ付テハ異議者ハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ依リテノミ其ノ異議ヲ主張スルコトヲ得

第二百四十四條第二項第三項、第二百四十六條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十九條 裁判所ハ破産管財人又ハ破産債権者ノ申立ニ依リ債権ノ確定ニ關スル訴訟ノ結果ヲ債権表ニ記載スルコトヲ要ス

第二百五十條 債権ノ確定ニ關スル訴訟ニ付爲シタル判決ハ破産債権者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百五十一條 破産財團カ債権ノ確定ニ關スル訴訟ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキハ異議ヲ主張シタル破産債権者ハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債権者トシテ訴訟費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十二條 債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ目的ノ價額ハ配當ノ確定額ヲ標準トシ受訴裁判所之ヲ定ム

第二百五十三條 公訴附帯ノ私訴ニ付テハ第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受審キ、上訴ヲ爲シ又ハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百五十四條 公訴附帯ノ私訴ノ目的タル債權ニ付破産者カ異議者ノ一人ナル場合ニ於テハ之ヲ共同被告トスルコトヲ得ス

第二百五十五條 第三十八條第四號ニ掲ケタル請求權ニ付テハ兩又ハ公共團體ハ過期ナク其ノ額及原因ヲ裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百五十六條 第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ニ付之ヲ準用ス

第二百五十七條 前條第一項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ノ原因カ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ處分ナルトキハ裁判所ハ過期ナク其ノ請求權ノ額及原因ヲ破産管財人ニ通知スルコトヲ要ス

第二百五十八條 乃至第二百五十條ノ規定ハ破産管財人カ異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス

テハ破産管財人配當スルニ適當ナル金額アリト認ムル毎ニ過期ナク配當ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十七條 破産管財人配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十八條 破産管財人ハ配當表ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 配當ニ加フヘキ債權者ノ氏名及住所

二 配當ニ加フヘキ債權ノ額

三 配當スルコトヲ得ヘキ金額

配當ニ加フヘキ債權ハ優先權ノ有無ニ依リテ之ヲ區別シ優先權アルモノニ付テハ其ノ順位ニ從ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百五十九條 破産管財人ハ利害關係人ノ同意ニ依リテ之ヲ記載スルコトヲ得

第二百六十條 破産管財人ハ配當ニ加フヘキ債權ノ總額及配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十一條 異議アル債權ニ付テハ債權者カ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ確定ニ關スル訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二百六十二條 別除權者カ前條ニ定ムル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ目的ノ處分ニ着手シタルコトヲ證明シ且其ノ處分ニ依リテ辨濟ヲ受タルコトヲ能ハサルヘキ債權額ヲ曉明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十三條 左ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ直ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

一 債權者ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間内ニ生シタルトキ

二 前二條ニ定ムル事項ノ證明及曉明アリタルトキ

三 別除權者カ除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受タルコトヲ能ハサルハ其ノ債權額ヲ證明シタルトキ

第二百六十四條 債權者ハ配當表ニ對シ除斥期間經過ノ後一週間内ニ限り裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

裁判所カ配當表ノ更正ヲ命シタルトキハ其ノ決定書ハ利害關係人ノ同意ニ依リテ之ヲ公告スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ抗告ノ期間ハ決定書ヲ備ヘタル日ヨリ起算ス

第二百六十五條 破産管財人ハ前條第一項ニ定ムル期間經過シタル後、異議ノ申立アリタルトキハ其ノ決定アリタル後過期ナク配當ヲ定ムルコトヲ得

知ラズルコトヲ要ス

第二百七十五條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債權者ハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十六條 解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ成就セサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ其ノ債權者ニ支拂フコトヲ要ス第百一十一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又ハ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十七條 別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利放棄ノ意思ヲ表示セス又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受タルコトヲ能ハサルハ其ノ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十八條 第二百七十五條又ハ前條ノ規定ニ依リテ除斥セラレタル債權者ノ爲ニ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ配當スルコトヲ要ス第百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十九條 配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ過期ナク配當表ヲ更正スル

テ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

配當率ヲ定ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百六十六條 解除條件附債權ヲ有スル者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第二百六十七條 強制和議ノ提供アリタルトキハ裁判所ハ破産管財人カ未タ配當率ノ通知ヲ發セサル場合ニ限り提供者ノ申立ニ依リ其ノ配當ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十八條 前條ノ規定ニ依リ配當ノ中止ヲ命シタル場合ニ於テ強制和議ノ提供ノ棄却若ハ其ノ不認可ノ決定カ確定シタルトキ又ハ債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續行スヘキコトヲ命ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十九條 債權者ハ破産管財人ニ就キ配當ヲ受クルコトヲ要ス

破産管財人カ配當ヲ爲シタルトキハ債權表及債權ノ證書ニ配當シタル金額ヲ記入シ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第二百七十條 第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ定ムル事項ヲ證明又ハ曉明セサルニ依リテ配當ヨリ除斥セラレタル債權者カ

後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ其ノ證明又ハ曉明ヲ爲シタルトキハ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付他ノ同順位ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受クルコトヲ得

第二百七十一條 左ニ掲ケタル債權ニ對スル配當額ハ破産管財人ノ寄託スルコトヲ要ス

一 第二百四十四條、第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ異議アリタル債權ニ付新ノ提起又ハ訴訟ノ受審アリタルモノ

二 配當率ノ通知ヲ發スル前ニ新額又ハ行政訴訟ノ落着キタル債權

三 第二百六十二條ノ規定ニ依リ別除權者カ曉明シタル債權額

四 停止條件附債權及將來ノ請求權

五 第二百六十六條ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セサル場合ニ於ケル解除條件附債權

第二百七十二條 破産管財人最後ノ配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意アリタルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十三條 最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間以上一月内ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立タルコトヲ得ス

第二百七十四條 最後ノ配當ニ在リテハ破産管財人ハ配當表ニ對スル異議者ノ後過期ナク各債權者ニ對スル配當額ヲ定ム其ノ通知

知ラズルコトヲ要ス

第二百七十五條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債權者ハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十六條 解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ成就セサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ其ノ債權者ニ支拂フコトヲ要ス第百一十一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又ハ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十七條 別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利放棄ノ意思ヲ表示セス又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受タルコトヲ能ハサルハ其ノ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十八條 第二百七十五條又ハ前條ノ規定ニ依リテ除斥セラレタル債權者ノ爲ニ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ配當スルコトヲ要ス第百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十九條 配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ過期ナク配當表ヲ更正スル

コトヲ要ス
 第二百八十條 左ニ掲タル配當額ハ債權者ノ爲破産管財人ノ供託スルコトヲ要ス
 一 第二百七十一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ寄託シタル配當額
 二 配當額ノ通知ヲ發スル前ニ異議ノ訴、訴訟又ハ行政訴訟ノ著セザル債權ニ對スル配當額
 三 債權者カ受取ラサル配當額
 第二百八十一條 計算報告ノ爲ニ招集シタル債權者集會ニ於テハ破産管財人カ價值ナキ爲換價セザリシ財産ノ處分ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百八十二條 債權者集會終結シタルトキハ裁判所ハ破産終結ノ決定ヲ爲シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス
 前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第二百八十三條 配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ相當ノ財産アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ追加配當ヲ爲スコトヲ要ス破産終結ノ決定アリタル後ト雖亦同シ
 破産管財人追加配當ノ許可ヲ得タルトキハ運滞ナク配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告シ且各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百八十四條 追加配當ハ最後ノ配當ニ付作りタル配當表ニ依リテ之ヲ爲ス
 第二百八十五條 破産管財人追加配當ヲ爲シタルトキハ運滞ナク計算報告書ヲ作り之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス
 第二百八十六條 配當率又ハ配當額ノ通知ヲ發スル前破産管財人ニ知レサル財團債權者ハ各配當ニ於テ配當スヘキ金額ヲ以テ辨濟ヲ受タルコトヲ得ス
 第二百八十七條 確定債權ニ付テハ破産管財人カ債權額ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシ場合ニ限リ債權額ノ記載ハ破産者ニ對シテ確定判決同一ノ效力ヲ有ス債權者ハ破産終結ノ後債權額ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百五十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス
 第二百八十八條 破産者カ其ノ實ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ債權額ノ期日ニ出頭スルコト能ハザリシトキハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ一週間内ニ限リ異議ヲ追完スル爲メ破産裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 裁判所ハ異議ヲ以テ破産者ノ異議アル債權ノ債權者ニ原狀回復ノ申立書ヲ送達スルコトヲ要ス

裁判所原狀回復ヲ許シタルトキハ破産者カ債權額ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタルト同一ノ效力ヲ生ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權表ニ異議ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百八十九條 相續財産ニ對シテ被産ノ宣告アリタル場合ニ於テ最後ノ配當ヨリ除斥セラレタル相續債權者及受遺者ハ殘餘財産ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得
 第九章 強制和議
 第二百九十條 破産者ハ何時ニテモ強和議ノ提供ヲ爲スコトヲ得
 第二百九十一條 強制和議ノ提供ハ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス
 第二百九十二條 強制和議ノ提供ハ相續財産ニ在リテハ相續人ノ一致アルコトヲ要ス
 第二百九十三條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先債權者有スル者ハ強制和議ニ付テハ之ヲ破産債權者ト看做サス
 第二百九十四條 強制和議ノ提供ヲ爲スニハ提供者ハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルコトキハ其ノ擔保其ノ他強制和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス
 第二百九十五條 強制和議ノ提供者ノ所在不明ナルトキ又ハ詐欺破産ノ公訴繫屬スルト

キハ強制和議ヲ爲スコトヲ得ス詐欺破産ニ付有罪ノ判決確定シタルトキ亦同シ
 第二百九十六條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽キ強制和議ノ提供ヲ棄却スルコトヲ得
 一 債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルコトアルトキ
 二 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日公告後ニ其ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ
 三 強制和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
 四 強制和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
 第二百九十七條 裁判所強制和議ノ提供ヲ棄却セザル場合ニ於テ監査委員アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス
 第二百九十八條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監査委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス
 第二百九十九條 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス
 期日ニハ届出ヲ爲シタル破産債權者、強制和議ノ提供者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲シ其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破

産債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者、破産管財人及監査委員ヲ呼出スコトヲ要ス
 前項ニ規定スル者ニハ強制和議ノ條件及監査委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス
 第三百條 裁判所ハ強制和議ノ提供者及監査委員ノ申立ニ因リ強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ヲ債權額調査ノ一般期日ト併合スルコトヲ得
 第三百一條 強制和議ノ提供者ハ期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得
 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス
 強制和議ノ提供者又ハ其ノ代理人期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲ササルトキハ其ノ提供ヲ撤回シタルモノト看做ス
 第三百二條 強制和議ノ提供者ハ破産債權者ヲ利スル場合ニ限リ債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得
 第三百三條 強制和議ハ一般ノ債權額調査ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得ス
 第三百四條 強制和議ノ條件ハ各破産債權者ニ付平等ナルコトヲ要ス但シ不利益ヲ受タズル者ノ同意アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百五條 強制和議ノ提供者又ハ第三者カ強制和議ノ條件ニ依ラスシテ破産債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル行爲ハ之ヲ無効トス
 第三百六條 強制和議ヲ可決スルニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出頭破産債權者ノ過半数ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ニ超ユル者カ期日ノ履行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ履行期日ヲ定メ之ヲ公告スコトヲ要ス
 第三百八條 強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ公告シタル期日ニ於テ強制和議ノ認可ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百九十九條第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ認可ニ付意見ヲ述フルコトヲ得
 第二百九十九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ

定ムル決定ニ之ヲ適用ス
 第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債権者ノ申立ニ因リ又ハ債権ヲ以テ強制和議不認可ノ規定ヲ爲スコトヲ得
 一 強制和議ノ手續又ハ決議力法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺力追完スヘカクサルモノナルトキ
 二 第二百九十五條ニ規定スル事由力強制和議ノ決議ニ生シタルトキ
 三 強制和議ノ決議力不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ
 四 強制和議ノ決議力破産債権者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ
 決議力有セザリシ破産債権者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破産債権者タルコトヲ證明スルコトヲ要ス
 申立人ハ申立ノ原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要ス
 第三百十一條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ノ可決アリタルトキハ社団法人ニ在リテハ定款ノ變更ニ開スル規定ニ從ヒ社団法人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ得テ社団法人ヲ繼續スルコトヲ得
 第三百十二條 法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキ又ハ通商ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其ノ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議

ノ認可ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 前項ノ期日ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 法人ヲ繼續セザルトキ又ハ通商ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス
 第三百十三條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續債権者ニ限り強制和議ニ開スル決議ニ加ハルコトヲ得
 第三百十四條 相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ノ債権者ニ限り強制和議ニ開スル決議ニ加ハルコトヲ得
 第三百十五條 相續財產及相續人又ハ前項ノ主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ノ債権者又ハ前項ノ主ノ相續開始後ノ債権者ニ限り之ニ開スル決議ニ加ハルコトヲ得
 第三百十六條 前三條ノ場合ニ於テハ強制和議ニ開スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債権者ノ債権ハ第三百六條第一項ノ債権ニ之ヲ算入セス
 第三百十七條 強制和議力前條ノ破産債権者ノ正當ノ利益ヲ害スヘキトキハ裁判所ハ其ノ申立ニ因リ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十八條 強制和議認可ノ決定ハ之ヲ公告シ且公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス
 第三百十九條 破産債権者有セザリシ破産債権者カ強制和議認可ノ決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルニハ其ノ破産債権者タルコトヲ證明スルコトヲ要ス
 第三百二十條 強制和議ニ開スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破産債権者ハ強制和議不認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 第三百二十一條 強制和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス
 第三百二十二條 強制和議認可ノ決定力確定シタルトキハ裁判所書記ハ強制和議ノ條件ヲ債権表ニ記載スルコトヲ要ス
 第三百二十三條 強制和議認可ノ決定力確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債権者及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先債権者有スル者ノ確定債権ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス
 財團債権及一般ノ優先債権アル債権ニシテ異爲供託ヲ爲スコトヲ要ス破産管財人ニ對シテ證明アリタル一般ノ優先債権アル債権ニ付亦同シ

第三百二十四條 第二百八十二條ノ規定ハ強制和議ノ認可ノ決定力確定シタル場合ニ之ヲ適用ス
 第三百二十五條 破産財團ノ管理及處分ニ付テハ破産者ハ強制和議ニ定メタル制限ニ從フコトヲ要ス
 第三百二十六條 強制和議ハ破産債権者ノ全員ノ同意且其ノ全員ニ對シテ效力ヲ有ス
 強制和議ハ破産債権者カ破産者ノ保證人其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ有スル權利及破産債権者ノ爲ニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ボサス
 第三百二十七條 法人ノ債務ニ付責任ヲ負フ社員ハ破産債権者ニ對シ強制和議ノ定ムル制限ニ於テ其ノ責任ヲ負フ但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ
 第三百二十八條 確定債権ヲ有スル破産債権者ハ破産者カ債権調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシ場合ニ限り破産債権者ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破産債権者ノ爲ニ擔保ヲ供シタル者ニ對シテ得但シ民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ適用ヲ妨ケス
 第三百二十五條第三項及民事訴訟法第五百十大條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場

合ニ之ヲ適用ス
 第三百二十九條 強制和議力不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキハ各破産債権者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消ス
 コトヲ得但シ過失ニ因リ強制和議不認可ノ申立ヲ爲サザリシ破産債権者ハ此ノ限ニ在ラス
 讓歩ノ取消ハ破産債権者カ取消ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス強制和議認可ノ決定確定ノ時ヨリ二年ヲ経過シタルトキ亦同シ
 第三百三十條 破産者又強制和議ノ履行ヲ怠リタルトキハ其ノ履行ヲ受ケサル破産債権者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得
 第三百三十一條 讓歩ノ取消ハ破産債権者カ強制和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ボサス
 讓歩ノ取消ニ因リテ回復シタル債權額ニ付テハ破産債権者ハ強制和議ノ履行完了ノ後ニ非サレハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス
 第三百三十二條 破産者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テ届出ヲ爲シタル破産債権者ノ過半数ニシテ其ノ債權額力其ノ者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十四條 第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ之ヲ適用ス
 第三百三十五條 強制和議取消ノ決定力確定シタルトキハ破産手續ヲ續行ス
 第三百三十六條 第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス
 第三百三十七條 第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ公訴ノ提起ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做ス
 第三百三十七條 第四百一十一條乃至第四百十

六條及第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ付テハ準用ス
破産手續履行ノ費用ハ假令國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第三百三十八條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ付テハ從前ノ破産債權ノ額ヨリ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ破産債權ノ額トス

第三百三十九條 從前ノ破産債權ニ付テハ破産債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ノミヲ調査ス

第三百四十條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタルモノアルトキハ從前ノ破産債權ノ額ヲ以テ配當ニ加フヘキ債權ノ額ト看做シ破産財團ニ其ノ債權者カ受ケタルモノヲ加算シテ配當率ノ標準ヲ定ム但シ其ノ債權者ハ他ノ破産債權者カ自己ノ受ケタルモノト同一ノ割合ノ配當ヲ受ケタル迄ハ配當ヲ受ケタルト得ス

第三百四十一條 破産終結ノ後破産者カ強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ對シテ爲シタル擔保ノ供與ハ強制和議ノ取消ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第三百四十二條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ハ從前ノ債權ニ付テハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十三條 強制和議取消ノ申立及破産ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所カ其ノ一ニ付強制和議取消ノ決定又ハ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ他ノ一ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル棄却ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十四條 第三百三十一條第一項及第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ履行完了前ニ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス第三百三十三條ノ規定ニ依リ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキ亦同シ

第三百四十五條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ハ強制和議ノ履行完了前其ノ固有財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財產ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

民法第六百四十五條、第六百四十六條、第六百四十七條第一項及第六百四十八條、第六百五十條第一項及第六百五十一條第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十六條 第三百三十一條ノ規定ハ相續財產ニ關スル強制和議取消ノ申立ニ之ヲ準用ス

第十章 破産廢止

第三百四十七條 破産者ハ債權届出ノ期間内ニ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ同意ヲ爲ササル破産債權者ニ對シテ他ノ破産債權者ノ同意ヲ得テ破産財團ヨリ擔保ヲ供シタルトキハ破産廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得

未確定債權ニ付其ノ債權者ノ同意ヲ必要トスヘキカ否ハ裁判所之ヲ定ム破産債權者ニ供スヘキ擔保カ相當ナルカ否ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立アルコトヲ得ス

第三百四十八條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人總額ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三百三十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百四十九條 破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立ニ必要ナル條件カ具備スルコトヲ要ス

第三百五十條 裁判所ハ破産廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百五十一條 破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間經過前ニ届出ヲ爲シタル破産債權者モ亦異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條 裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破産廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破産者、破産管財人及異議ヲ申立タル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條 破産宣告ノ後裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ債權者ヲ以テ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、產業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セズ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

第三百五十四條 裁判所カ破産廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條 破産廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權ノ辨濟ヲ爲シ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十六條 第二百九十一條及第二百九十二條ノ規定ハ破産廢止ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條 第二百八十七條ノ規定ハ破産廢止ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一章 小破産

第三百五十八條 破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ滿タスト認ムルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ第四百四十三條第一項ニ掲タル事項ノ外小破産決定ノ主文ヲ公告シ且同條第二項ノ書面ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ滿タサルコトヲ發見シタルトキハ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ小破産ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ノ主文ヲ公告シ且破産管財人、監査委員並知レタル債權者及債務者ニ之ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百六十條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓以上ナルコトヲ發見シタルトキハ小破産取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

定ヲ準用ス

第三百六十一條 小破産ノ決定及小破産取消ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三百六十二條 第一回ノ債權者集會ノ期日及債權調査ノ期日ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ併合スルコトヲ要ス

第三百六十三條 監査委員ハ之ヲ罷カス

第三百六十四條 第一回ノ債權者集會、強制和議取消後ノ第一回ノ債權者集會並債權調査、計算報告及強制和議ノ爲ニスル債權者集會ヲ除クノ外裁判所ノ決定ヲ以テ債權者集會ノ決議ニ代フ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三百六十五條 配當ハ一回トシ最後ノ配當ニ關スル規定ニ依ル但シ追加配當ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百六十六條 小破産手續ニ關スル公告ハ第三百十六條ノ規定ニ依ル揭示ヲ爲スヲ以テ足ル

第三編 復讐

第三百六十七條 破産者カ辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ破産債權者ニ對スル債務ノ全部ノ免責ヲ得タルトキハ破産裁判所ハ破産者ノ申

立ニ因リ復権ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス
申立人ハ免責ヲ認ムル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百六十八條 復権ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレバ其ノ效力ヲ生ゼス

第三百六十九條 裁判所ハ復権ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百七十條 破産債権者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ三月内ニ復権ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百七十一條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産者及異議ヲ申立テタル破産債権者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百七十二條 復権ノ決定力確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百七十三條 第八條乃至第一百二十二條及第一百十四條乃至第一百七條ノ規定ハ復権ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四編 罰則

第十年以下ノ懲役ニ處ス

一 破産財團ニ關スル財産ヲ隱匿、毀棄又ハ債権者ノ利益ニ處分スルコト

二 破産財團ノ負擔ヲ虚偽ニ増加スルコト

三 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

四 第四百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十五條 債務者破産宣告ノ前後ヲ同ハス左ニ揚タル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 浪費又ハ賭博其ノ他ノ射博行爲ヲ爲シ因テ著ク財産ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト

二 破産ノ宣告ヲ通延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分スルコト

三 破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘ラス或債権者ニ特別ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ

債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ債務者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期ニ依リ債務者ノ義務ニ屬セザルモノ

四 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

五 第四百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十六條 債務者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者並支配人前二條ニ規定スル行爲ヲ爲シ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ前二條ノ例ニ依リ相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戶主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第三百七十七條 本法ニ依リ監守ヲ命セラレタル者逃走シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ外人ト面接若ハ通信シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

破産者裁判所ノ許可ヲ得スシテ居住地ヲ離レタルトキ前項ニ同シ

第三百七十八條 債務者及第三百七十六條ニ規定スル者ニ非スシテ第三百七十四條ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者又ハ自己若ハ他人ヲ利スル目的ヲ以テ破産債権者トシテ虚偽ノ權利ヲ行ヒタル者ハ債務者ニ對スル破産

宣告確定シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七十九條 第三百七十四條、第三百七十五條及前條ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和職ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

第三百八十條 破産管財人又ハ監査委員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス破産債権者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十一條 破産管財人、監査委員、破産債権者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三百八十二條 第五百三十三條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者破産裁判所ニ其ノ事

實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則

第三百八十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百九十八號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

第三百八十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第三編、同年法律第一百號及家資分散法ハ之ヲ廢止ス

第三百八十五條 民法施行法第二條第三條及非訟事件手續法第五十二條第五十三條ハ之ヲ削除シ刑法施行法第二十五條第一項第三號ハ之ヲ削ル

第三百八十六條 他ノ法令中身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セザル者ニ關スル規定ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セザル者及家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ之ヲ破産者ト看做ス

第三百八十七條 本法施行前破産若ハ復権ノ申立、破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ支拂擔保ノ許可若ハ假許可アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ明治二十三年法律第三十二號商法第五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

本法施行前ニ爲シタル家資分散又ハ支拂擔

保者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ズ

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保險契約ハ破産宣告ノ後三箇月ヲ經過シタルトキハ其效力ヲ失フ

第三百九十一條 商法施行法中第三百八十八條乃至第四百五條及第四百七條ヲ削リ「第四百六條」ヲ「第四百三十八條」ニ改メ同法ニ左ノ一條ヲ加フ

第三百九十九條 商法施行法中第九條ノ廢止ス但シ同條例第二十一條乃至第二十三條及第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

附則 (大正十五年法律第七十號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第五百號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

和議法 (大正十一年四月二十五日) (法律第七十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル和議法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニスル強制和議ヲ謂フ
第二條 和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ効力ヲ生ス
第三條 破産法第五條及第七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付テハ適用ス
第四條 破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及第九十一條ノ規定ハ和議ノ開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第五條 破産法第九十八條乃至第四百條ノ規定ハ和議債權者ノ相殺權ニ付テハ適用ス
第六條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス
第七條 和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限り其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコ

トヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス
第八條 破産法第九十九條、第二百十條、第二百二十二條及第二百二十四條ノ規定ハ和議開始及和議取消又ハ和議停止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス
第九條 和議停止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス
第十條 前條ノ規定ニ依リ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ登記又ハ登錄ノ囑託ハ破産ノ登記又ハ登錄ノ囑託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第十一條 前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニスルシタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス
第十二條 破産法第二條、第三條、第九十九條乃至第一百一十條、第一百一十三條乃至第一百一十八條

及第二百二十五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス

和議手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

第二章 和議ノ開始

第十二條 破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債權者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス
第十三條 和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
第十四條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルコトキハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス
第十五條 和議申立人ハ申立ト同時ニ財産ノ狀況ヲ示スヘキ明細書及債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滞ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス
第十六條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス
第十七條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
第十八條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始

和議法 第二章 和議ノ開始

ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

- 一 破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ
 - 二 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ
 - 三 詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリタルトキ
 - 四 和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ
 - 五 和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ
- 第十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得
- 一 和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ
 - 二 債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ
 - 三 和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ
 - 四 和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
 - 五 和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
- 第二十條 裁判所ハ和議開始ノ決定前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ債務

者ノ財産ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得
第二十一條 裁判所ハ整理委員ヲ選任シ期間ヲ定メテ債務者ノ財産、帳簿及和議ノ條件ニ付必要ナル調査ヲ爲サシメ且和議ノ開始スヘキカ否ニ付意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス
第二十二條 整理委員ハ自己ノ責任ヲ以テ鑑定人ヲ選任スルコトヲ得
第二十三條 和議申立人ハ前條第一項ニ依リ調査ヲ拒ムコトヲ得ス
第二十四條 破産法第五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第二十五條 重要ナル理由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ整理委員ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ整理委員ヲ審訊スルコトヲ要ス
第二十六條 破産法第五十九條乃至第六十一條、第六十四條乃至第六十六條、第六十九條及第七十二條ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス
 第五十三條 和議認可ノ決定ニ對シテハ即時
 抗告ヲ爲スコトヲ得
 破産法第三百十九條ノ規定ハ和議債權者ニ
 之ヲ準用ス
 第五十四條 和議認可ノ決定ノ確定ニ因リ
 テ其ノ效力ヲ生ズ
 第五十五條 和議認可ノ決定ヲ確定シタルト
 キハ裁判所書記ハ和議ノ條件ヲ債權表ニ記
 載スルコトヲ要ス
 第五十六條 和議認可ノ決定ヲ確定シタルト
 キハ債務者ハ和議ノ爲ニ生シタル債權、和
 議手續ノ費用及一般ノ先取特權其ノ他一般
 ノ優先權アル債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ニ規定スル債權ニシテ異議アルモノニ
 付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス
 第五十七條 破産法第三百二十五條乃至第三
 百二十七條及第三百四十二條ノ規定ハ和議
 ノ效力ニ付テ之ヲ準用ス
 第五十八條 和議認可ノ決定ヲ確定シタルト
 キハ第十七條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタ
 ル破産ノ申立第四十條第二項ノ規定ニ依
 リ中止シタル強制執行、假差押及假處分ハ
 其ノ效力ヲ失フ

第六章 和議ノ廢止

ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス
 一 和議ノ可決前ニ和議ノ提供力其ノ
 提供ヲ撤回シタルトキ
 二 債權者集會ノ第一期日ヨリ二月内ニ
 和議ヲ可決セザルトキ
 第六十條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人
 若ハ整理委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ
 和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ
 於テハ債務者ヲ審訊スルコトヲ要ス
 一 第二十條第一項第二項ノ規定ニ依ル
 裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ
 二 債務者カ第三十一條又ハ第三十二條
 第一項第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
 三 債務者カ第三十四條ノ規定ニ依リ職
 求アリタルニ拘ラス自ラ金錢ノ收支ヲ
 爲シタルトキ
 第六十一條 裁判所カ和議廢止ノ決定ヲ爲シ
 タルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告ス
 ルコトヲ要ス

第七章 讓歩及和議ノ取消

爲スコトヲ得
 第六十四條 破産法第三百三十二條第一項及
 第二項ノ規定ハ和議ノ取消ニ之ヲ準用ス
 和議取消ノ申立ニ必要ナル債權額及總債權
 ノ計算ニ付テハ第四十八條ノ規定ニ依リテ
 定リタル債權額ニ依ル
 第六十五條 和議ノ取消ハ和議債權者カ和議
 ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ボサス
 第六十六條 裁判所カ和議取消申立棄却又ハ
 和議取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文
 及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス
 前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
 ヲ得
 第六十七條 破産法第三百三十八條、第三百
 四十條及第三百四十一條ノ規定ハ第九條ノ
 規定ニ依リ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ
 準用ス

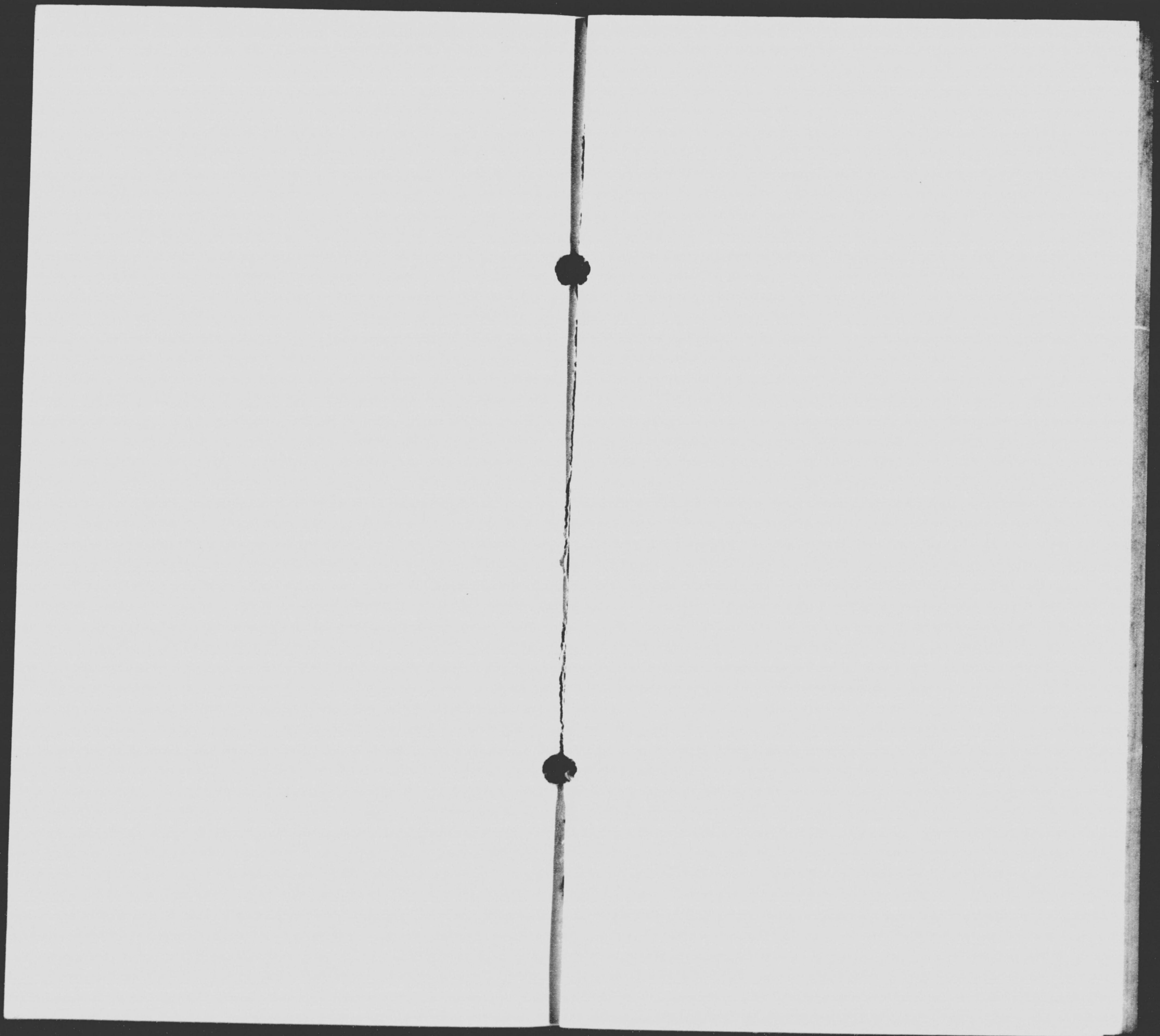
第八章 罰則

第六十八條 整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ
 關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シ
 タルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下
 ノ罰金ニ處ス和議債權者、其ノ代理人又ハ
 理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議
 ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束
 シタルトキ亦同シ
 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒

收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハ
 サルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
 第六十九條 整理委員、管財人又ハ和議債權
 者其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ
 賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年
 以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其
 ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
 第七十條 第二十三條又ハ第三十七條ノ規定
 ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サ
 ス又ハ虚偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以
 下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス和議申
 立人又ハ債務者第二十一條又ハ第三十六條
 ノ規定ニ依リ調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虚偽
 ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ
 前項ノ罪ヲ犯シタル者和解裁判所ニ其ノ事
 實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免
 除スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正
 十一年勅令第四百九十八號ヲ以テ同十二年一
 月一日ヨリ施行ス)
 和議手續參加ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁
 判上ノ請求ト看做ス



參照
條文
商

法

帝國法律研究會

商法目次

商法

第一編 總則	第一章 法例	一
	第二章 商人	一
	第三章 商業登記	一
	第四章 商號	一
	第五章 商業帳簿	一
	第六章 商業使用人	一
	第七章 代理商	一
第二編 會社	第一章 總則	四
	第二章 合名會社	五
	第三章 設立	五
	第四章 會社ノ内部ノ關係	五
	第五章 會社ノ外部ノ關係	五
	第六章 社員ノ退社	六
	第七章 解散	七
	第八章 清算	七
	第九章 合資會社	八
	第十章 株式會社	九
	第十一章 株式會社ノ設立	九
	第十二章 株式會社ノ機關	九
	第十三章 株式會社ノ機關	九

第一編 株式會社	第一章 總則	一七
	第二章 取締役	一七
	第三章 監査役	一七
	第四章 會社ノ計算	一七
	第五章 社債	二一
	第六章 定款ノ變更	二二
	第七章 解散	二三
	第八章 清算	二五
	第九章 株式合資會社	二六
	第十章 外國會社	二七
	第十一章 外國會社	二七
	第十二章 外國會社	二七
第三編 商行爲	第一章 總則	二九
	第二章 買賣	二九
	第三章 交互計算	三〇
	第四章 匿名組合	三三
	第五章 仲立營業	三三
	第六章 問屋營業	三五
	第七章 運送取扱營業	三五
	第八章 運送取扱營業	三六
	第九章 物品運送	三七
	第十章 貨物運送	三七
	第十一章 倉庫營業	三九
	第十二章 倉庫營業	三九
	第十三章 倉庫營業	三九
	第十四章 倉庫營業	三九
	第十五章 倉庫營業	四二
	第十六章 倉庫營業	四二

第一編 總則	第一章 總則	四二
	第二章 火災保險	四二
	第三章 運送保險	四六
	第四章 生命保險	四六
第二編 手形	第一章 總則	四八
	第二章 爲替手形	四八
	第三章 爲替手形	四八
	第四章 爲替手形	四八
	第五章 爲替手形	四八
	第六章 爲替手形	四八
	第七章 爲替手形	四八
	第八章 爲替手形	四八
	第九章 爲替手形	四八
	第十章 爲替手形	四八
	第十一章 爲替手形	四八
	第十二章 爲替手形	四八
	第十三章 爲替手形	四八
	第十四章 爲替手形	四八
	第十五章 爲替手形	四八
	第十六章 爲替手形	四八
	第十七章 爲替手形	四八
	第十八章 爲替手形	四八
	第十九章 爲替手形	四八
	第二十章 爲替手形	四八
	第二十一章 爲替手形	四八
	第二十二章 爲替手形	四八
	第二十三章 爲替手形	四八
	第二十四章 爲替手形	四八
	第二十五章 爲替手形	四八
	第二十六章 爲替手形	四八
	第二十七章 爲替手形	四八
	第二十八章 爲替手形	四八
	第二十九章 爲替手形	四八
	第三十章 爲替手形	四八
	第三十一章 爲替手形	四八
	第三十二章 爲替手形	四八
	第三十三章 爲替手形	四八
	第三十四章 爲替手形	四八
	第三十五章 爲替手形	四八
	第三十六章 爲替手形	四八
	第三十七章 爲替手形	四八
	第三十八章 爲替手形	四八
	第三十九章 爲替手形	四八
	第四十章 爲替手形	四八
	第四十一章 爲替手形	四八
	第四十二章 爲替手形	四八
	第四十三章 爲替手形	四八
	第四十四章 爲替手形	四八
	第四十五章 爲替手形	四八
	第四十六章 爲替手形	四八
	第四十七章 爲替手形	四八
	第四十八章 爲替手形	四八
	第四十九章 爲替手形	四八
	第五十章 爲替手形	四八
	第五十一章 爲替手形	四八
	第五十二章 爲替手形	四八
	第五十三章 爲替手形	四八
	第五十四章 爲替手形	四八
	第五十五章 爲替手形	四八
	第五十六章 爲替手形	四八
	第五十七章 爲替手形	四八
	第五十八章 爲替手形	四八
	第五十九章 爲替手形	四八
	第六十章 爲替手形	四八
	第六十一章 爲替手形	四八
	第六十二章 爲替手形	四八
	第六十三章 爲替手形	四八
	第六十四章 爲替手形	四八
	第六十五章 爲替手形	四八
	第六十六章 爲替手形	四八
	第六十七章 爲替手形	四八
	第六十八章 爲替手形	四八
	第六十九章 爲替手形	四八
	第七十章 爲替手形	四八
	第七十一章 爲替手形	四八
	第七十二章 爲替手形	四八
	第七十三章 爲替手形	四八
	第七十四章 爲替手形	四八
	第七十五章 爲替手形	四八
	第七十六章 爲替手形	四八
	第七十七章 爲替手形	四八
	第七十八章 爲替手形	四八
	第七十九章 爲替手形	四八
	第八十章 爲替手形	四八
	第八十一章 爲替手形	四八
	第八十二章 爲替手形	四八
	第八十三章 爲替手形	四八
	第八十四章 爲替手形	四八
	第八十五章 爲替手形	四八
	第八十六章 爲替手形	四八
	第八十七章 爲替手形	四八
	第八十八章 爲替手形	四八
	第八十九章 爲替手形	四八
	第九十章 爲替手形	四八
	第九十一章 爲替手形	四八
	第九十二章 爲替手形	四八
	第九十三章 爲替手形	四八
	第九十四章 爲替手形	四八
	第九十五章 爲替手形	四八
	第九十六章 爲替手形	四八
	第九十七章 爲替手形	四八
	第九十八章 爲替手形	四八
	第九十九章 爲替手形	四八
	第一百章 爲替手形	四八

商法目次

商法

第一章 總則

第二章 商人

第三章 商業登記

第四章 商號

第五章 商標

第六章 商標

第七章 商標

第八章 商標

第九章 商標

第十章 商標

第十一章 商標

第十二章 商標

第十三章 商標

第十四章 商標

第十五章 商標

第十六章 商標

第十七章 商標

第十八章 商標

第十九章 商標

第二十章 商標

第二十一章 商標

第二十二章 商標

第二十三章 商標

第二十四章 商標

第二十五章 商標

第二十六章 商標

第二十七章 商標

第二十八章 商標

第二十九章 商標

第三十章 商標

第三十一章 商標

第三十二章 商標

第三十三章 商標

第三十四章 商標

第三十五章 商標

第三十六章 商標

第三十七章 商標

第三十八章 商標

第三十九章 商標

第四十章 商標

第四十一章 商標

第四十二章 商標

第四十三章 商標

第四十四章 商標

第四十五章 商標

第四十六章 商標

第四十七章 商標

第四十八章 商標

第四十九章 商標

第五十章 商標

商法

(明治三十三年三月九日)
(大正一一年一月十八日)

改正(明治四十四年法律七十三號) 改正(大正一一年一月十八日) 法律七十一號 商標法ノ修正ノ件ヲ關シテ之ヲ公布セシム

此法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十三年勅令第三百三十三號) 以テ同年六月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年法律第三十二號商法ハ第三編ヲ除ク外此法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一章 總則

第一節 法例

第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス

第二條 公法人ノ商行爲ニ關スル適用法(二)ニ依リテ之ヲ定ム

第三條 公法人ノ商行爲ニ付テハ法令ニ別段ノ定ナキトキニ限リ本法ノ規定ヲ適用ス

第四條 絕對的商行爲(二六三)

第二章 商人

第一條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲スル者トスル者ヲ謂フ

第二條 絕對的商行爲(二六三)

第三條 相對的商行爲(二六四)

第四條 小商人ノ意義及效果(八)

第五條 未成年者ノ營業許可及其ノ取消制限(民九二九)

第六條 未成年者及妻ノ登記(非訟一四〇ノ二號及三號)

第七條 法定代理人ノ登記(非訟一六六一一七〇)

第八條 會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許ス

第三章 商業登記

第九條 本法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ハ當事者ノ請求ニ依リ其營業所ノ裁判所ニ爲シテ之ヲ登記ス

商法 第一編 總則 第一章 法例 第二章 商人 第三章 商業登記

△小商人ニ不適用(八)

△登記ノ管轄登記所(非訟一三九以下)

第十條 本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項

△支店ノ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ選

第十二條 登記スヘキ事項ハ登記及ヒ公告ノ

第十三條 支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事

第十四條 登記ハ其公告ト低額ノシルトキト

第十五條 登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ

△市町村ノ區域(商施一四)

△北海道ノ一府縣(商施一六)

△商號ト共ニ營業ノ讓渡(二二)

第二十四條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル

第二十五條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日ノ取

費用ハ一個月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ

△株主名簿(一七二)

△社員名簿(一七三)

△社員名簿(一七三)

△社員名簿(一七三)

△社員名簿(一七三)

△社員名簿(一七三)

△社員名簿(一七三)

△社員名簿(一七三)

△社員名簿(一七三)

△商號讓渡ノ對抗要件(二二)

△商號登記ノ抹消請求(二四)

第十六條 商人ハ其氏、氏名其他ノ名義ヲ以

第十七條 會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合

第十八條 會社ニ非シテ商號中ニ會社タル

第十九條 他人カ登記シタル商號ハ同市町村

△市町村ノ區域(商施一四)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

△商號ノ登記(非訟一五八、一五九)

第二十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ

△市町村ノ區域(商施一四)

第二十一條 商號ノ讓渡ハ其登記ヲ爲スニ非

第二十二條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場

第二十三條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場

第二十四條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場

第二十五條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日ノ取

費用ハ一個月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ

△代理(民九九以下)

△委任(民六四三以下)

△代理(民九九以下)

△委任(民六四三以下)

△代理(民九九以下)

△委任(民六四三以下)

△代理(民九九以下)

△委任(民六四三以下)

△代理(民九九以下)

△委任(民六四三以下)

△代理(民九九以下)

△委任(民六四三以下)

△代理(民九九以下)

△委任(民六四三以下)

△代理(民九九以下)

△委任(民六四三以下)

シタル電風表示ハ主人ニ對シテ其效力ヲ生

第三十一條 支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要ス前條第一項ニ定メタル事項及其變更並ニ消滅亦同シ

第三十二條 支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第三十三條 商人ハ重頭又ハ手代ヲ選任シ其營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任スルコトヲ得

シ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 支配人ハ重頭又ハ手代ニ非サル使用人ハ主人ニ代ハリテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノト推定ス

第三十六條 代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

第三十八條 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營業ノ

都領ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第四十條 當事者カ契約ノ期間ヲ定メザリシトキハ各當事者ハ二个月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタル債權ニ付キ本人ノ爲メニ占有スル物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルト

キハ此限ニ在ラス

△商人ノ留置權(二八四)
△運送取扱人ノ留置權(三二四)
△留置權(民二九五以下)

第二章 會社

第一節 總則

第四十二條 本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フ

第四十三條 會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種トス

第四十四條 會社ハ之ヲ法入トス

△合名會社(四九)

△合資會社(一〇四)

△株式合資會社(二二五)

第四十五條 會社ノ設立ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十六條 會社ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得ス

第四十七條 會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六个月内ニ開業ヲ爲サザルトキハ裁判所ハ該會社ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得但正當ノ事由アルトキハ其會社ノ請求ニ因リ此期間ヲ伸長スルコトヲ得

△合名會社解散ノ事由(七四ノ七號)

△合資會社ニ準用(一〇五)

△株式合資會社ノ解散事由(二四六)

第四十八條 會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ該會社ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得

第四十九條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第五十條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

一 目的
二 商號
三 社員ノ氏名、住所
四 本店及ヒ支店ノ所在地

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第五十一條 會社ハ定款ヲ作りタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
二 本店及ヒ支店
三 設立ノ年月日
四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
五 社員ノ出資ノ種類及ヒ財產ヲ目的トスル出資ノ價格
六 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名
七 數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定
會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ前項ニ定メタル登記ヲ爲シ本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス
本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ

足ル

△登記ノ效力(二二、一四)
△支店登記欠缺ノ效力(四三、四六)
△會社設立登記ノ效力(四五、四六)
△會社ノ解散命令(四七)
△登記事項變更ノ登記(五三)
△罰則(二六一、一號)

第五十二條 會社カ其本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ前條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス
同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
△罰則(二六一、二項ノ一號)
△會社變更ノ登記(非訟一八〇)
第五十三條 第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
△罰則(二六一、二項ノ一號)
△會社變更ノ登記(非訟一八〇)
第二節 會社ノ内部ノ關係
第五十四條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス

ル民法ノ規定ヲ準用ス

△組合(民六六七)
△組合財產ノ共有(六六八)
第五十五條 社員カ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者カ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其辨濟ノ實ニ任ス此場合ニ於テハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス
△債務者ノ實力ノ擔保(民五六九)
△賣買ト他ノ有價契約(民五五九)
第五十六條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ
△會社ノ内部關係(五四)
△社員除名ノ事由(七〇ノ三號及四號)
第五十七條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
△支配人ノ選任(二九)
△支配人ノ登記(三一)
第五十八條 定款ノ變更其他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス
△定款ノ變更(民三八)
第五十九條 社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得ズシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ其讓渡ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スル

コトヲ得ス

△退社員ノ責任(七三)
第六十條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ關スル商行為ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス
社員カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行為ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半数ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得
前項ニ定メタル權利ハ他ノ社員ノ一人カ其行為ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ
△支配人ノ營業禁止義務(三三)
△無限責任社員間ノ關係(三三六)
△社員除名ノ事由(七〇ノ二號)
△社員ノ責任ノ消滅(七三)

第三節 會社ノ外部ノ關係
第六十一條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メサルトキハ各社員會社ヲ代表ス
△社員ノ代表權(五一ノ一項六號)
第六十一條ノ二 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支

配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得
第三十條ノ二第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六十二條 會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權利ヲ有ス
民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス
△社員ノ代表權(六一)
第六十三條 會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ實ニ任ス
△新入社員ノ責任(六四)
△退社員ノ責任(七三)
△社員ノ責任ノ消滅(一〇三)
第六十四條 設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ其加入前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ
△社員ノ連帶責任(六三)
第六十五條 社員ニ非サル者ニ自己ヲ社員ナリト稱セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ舊章ノ第三章ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ
△社員ノ連帶責任(六三)
第六十六條 社員ノ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會

社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二年間債權者カ之ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシトキハ此限ニ在ラス
△出資ノ減少ト定款及登記(五〇ノ五號)
△罰則(二六一、二項ノ三號)
第四節 社員ノ選任
第六十七條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得
△出資ノ減少ト定款及登記(五〇ノ五號)
△罰則(二六一、二項ノ三號)

第六十八條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキ又ハ或社員ノ終身期間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六個月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス
會社ノ存立時期ヲ定メタルトキハ同ハス己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得
△存立時期ト登記(五一ノ一項ノ四號)
△退社ノ法定原因(六九)
△會社ノ繼續(七五)

第六十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總社員ノ同意
- 三 死亡
- 四 破産
- 五 禁治産
- 六 除名

△社員除名ノ事由(七〇)
 △社員ノ解散請求(八三)
 △禁治産者(民七)

第七十條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

- 一 社員カ出資ヲ爲スコト能ハサルトキ
- 二 又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ
- 三 社員カ第六十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 四 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當テリ會社ニ對シテ不正ノ行為ヲ爲シタルトキ
- 五 社員カ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ干渉シタルトキ
- 六 其他社員カ重要ナル義務ヲ違ササル

第七十一條 △除名ニ因リテ退社(六九ノ六號)

退社員ハ勞務又ハ費用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ受ケルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

△勞務ノ出資(民六六七ノ二項)
 △持分組合員ノ持分拂戻(民六八二)
 △持分組合員ノ持分中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用キタルトキハ退社員ハ其氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

△商號(二六)

第七十二條 △會社ノ商號(二七)

退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ規定ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ適用ス

△社員ノ連帶責任(六三)
 △自願社員ノ責任(六五)
 △持分讓渡ノ對抗條件(五九)

第七十四條 第五節 解散

第七十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ満了其他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

三 總社員ノ同意

四 會社ノ合併

五 社員カ一人ト爲リタルコト

六 會社ノ破産

七 裁判所ノ命令

△社員解散ノ請求(八三)
 △會社ノ繼續(七五)
 △會社ノ合併(四四ノ三)
 △裁判所ノ解散命令(四七、四八)
 △合名會社ノ合併(七七、七八)
 △裁判所ノ清算人選任(八八)

第七十五條 前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

△社員ノ退社(六八、六九)
 △會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ廢會ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

△合併ノ登記(八一)
 △解散ノ登記(非款一八一、一八四)
 △會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 △會社ノ合併(四四ノ三)

會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議人日ヨリ二週間内ニ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

會社ハ前項ノ期間内ニ其債權者ニ對シテ與應アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ通知ヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

△貸借對照表(二六)

△前項(二六二ノ二號、二六二ノ九號)

第七十九條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ對シテ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

△前項(二六二ノ二號)

第八十條 △合併ニ因リテ變更登記(非款一八二)

會社カ第七十八條第二項ニ定メタル公告ヲ爲サシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

會社カ知レタル債權者ニ催告ヲ爲サスシテ

合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

△前項(二六二ノ二號)

第八十一條 △前項(二六二ノ二號)

會社カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

△前項(二六二ノ二號)

第八十二條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ繼承ス

第八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ請求スルコトヲ得但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得

△解散ノ登記(非款一八四)

第八十四條 △合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得

第七十八條及ヒ第七十九條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

△合併ノ決議(七八)
 △合併ノ要件(七九ノ二項、二號)

第八十三條ノ三 前條ノ場合ニ於テ會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承諾ヲ得又ハ第七十九條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合名會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合資會社ニ付テハ第七十七條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

△組織變更ノ登記(非款一八四ノ三、一八四ノ四)

第八十四條 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ有限責任社員ヲ加入セシメ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ合資會社ト爲リタル時ヨリ二週間内ニ前條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

△組織變更ノ登記(非款一八四ノ四)

第六節 清算

第八十四條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス

△解散法人ノ性質(民七三)

第八十五條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得但此場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十

條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 △會社ノ帳簿保存期間(一〇一)
 △罰則(二六二ノ二、二六三、九號)
 第八十六條 前條ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メザリシトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス
 △清算ニ關スル規定(八七、八九)
 第八十七條 清算ハ總社員又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス
 清算人ノ選任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
 △裁判所ノ清算人選任(八八、八九)
 △清算人ノ解任(九六)
 △解散後社員ノ死亡ト相續人(一〇二)
 第八十八條 第七十四條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス
 △清算人ノ會社代表(九三ノ二項)
 △清算ニ關スル事件(非訟一三六、一三七八ノ二項)
 第八十九條 會社ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス
 △裁判所ノ解散命令(四七、四八)
 △解散ノ請求(八三)
 第九十條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清

算人ハ二週内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 一 清算人ノ氏名、住所
 二 會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其氏名
 三 數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定
 △清算人ノ會社代表(九三ノ二項)
 △清算ト登記(九七)
 △罰則(二六二ノ二、二七一)
 第九十一條 清算ノ登記(非訟一七五、一七七)
 △清算人ノ職務左ノ如シ
 一 現務ノ終了
 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
 三 殘餘財産ノ分配
 會社ヲ代表スヘキ清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
 清算人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第九十一條ノ二 會社ハ辨濟期ニ至ラサル債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス
 (條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル總定人ノ評價ニ

從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス
 △債務者ノ期限ノ利益推定(民一三六)
 △條件成就ノ效力(二二七)
 第九十二條 會社ニ現存スル財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ清算人ハ辨濟期ニ拘ハラズ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得
 △社員ノ連帶責任(六三)
 第九十三條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス
 △準用規定(五四)
 第九十三條ノ二 第六十一條及ヒ第六十一條ノ二ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス
 裁判所カ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テ會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキハ其清算人ハ各自會社ヲ代表ス
 △各社員ノ會社代表(六一)
 △共同代表(六一ノ二項)
 △清算人登記(九〇)
 第九十四條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス
 清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス
 △會社ノ帳簿保存期間(一〇一)
 △罰則(二六二ノ二)

第九十五條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ス
 △殘餘財産ノ請求(一〇三ノ二項)
 △罰則(二六二ノ二、二六三)
 △準用規定(五四)
 第九十六條 社員カ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此解任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得
 △清算人ノ選任(八七)
 △清算人解任裁判所(非訟一三六)
 △清算人解任不服申立不許(非訟一三七)
 第九十七條 第九十條ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ清算人ハ二週内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス
 △罰則(二六二ノ二、二六三)
 第九十八條 清算人ノ任務カ終了シタルトキハ清算人ハ過半ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス
 前項ノ計算ニ對シ社員カ二个月内ニ異議ヲ述ヘザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト爲ス但清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス
 △清算人ノ職務(九一)

第九十九條 清算カ終了シタルトキハ清算人ハ過半ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
 △罰則(二六二ノ二、二七一)
 △清算終了ノ登記(非訟一七八)
 第九十九條ノ二 會社カ事業ニ著手シタル後社員カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テ之ヲ其無効ヲ主張スルコトヲ得
 △設立無効ノ訴ノ管轄(九九ノ三)
 第九十九條ノ三 前條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 數箇ノ訴カ同時ニ繫屬スルトキハ辯論及ヒ裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 △設立無効ノ訴(九九ノ二)
 第九十九條ノ四 設立ヲ無効トスル判決ハ當事者ニ非サル社員ニ對シテモ其效力ヲ有ス原告カ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス
 △設立無効ノ訴(九九ノ二)
 第九十九條ノ五 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
 △設立無効登記ノ聽取(非訟一三五、一四)
 第九十九條ノ六 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ

爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス
 設立ヲ無効トスル判決ハ會社ト第三者トノ間ニ成立シタル行爲ノ效力ニ影響ヲ及ボサス
 △法定清算(八六、九八)
 △設立無効ノ訴(九九ノ二)
 第一百條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ二週内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
 △取消シ得ヘキ法律行爲(民一一〇、一一二六)
 △設立取消ノ申請登記(非訟一八四ノ二項)
 第一百一條 會社ノ帳簿其營業ニ關スル簿書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ第八十五條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム
 第一百二條 社員カ死亡シタル場合ニ於テ其相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス
 △遺產相續(民九九四以下)
 △相續財産ノ共有(民一〇〇二)

第三百三條 第六十三條ニ定メタル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年ヲ経過シタルトキハ消滅ス...

第三章 合資會社

第三百四條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス...

モ又以テ其出資ノ目的ト爲スルコトヲ得...

第三百九條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定...

ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得...

第三百四條 定款又ハ無限社員ノ同意ヲ以テ特...

第四章 株式會社

第一節 設立

第三百十九條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス...

△記名捺印(明治三十五年法律第十七號) 第三百一十一條 前條第五號乃至第七號ニ掲ケ...

一 存立時期又ハ解散ノ事由 二 株式ノ額面以上ノ發行...

△定款ノ變更(一三五) 第三百二十三條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケ...

△株式會社ノ設立登記(一四一) 第三百二十五條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケ...

第百二十六條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ連ニ其引受クヘキ株式ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス株式申込證ハ發起人ノ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 定款作成ノ年月日
- 二 第百二十條及ヒ第百二十二條ニ掲ケタル事項
- 三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數
- 四 第一回拂込ノ金額
- 五 一定ノ時期マテニ會社カ成立セサルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス

△第一回ノ拂込金額(二八ノ二項)
△第一回ノ拂込請求時期(二二九)
△罰則(二六二ノ二號)

△貼用印紙(印稅四)

第百二十六條ノ二、第百七十二條ノ二ノ規定ハ株式申込人又ハ株式引受人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

△第一回株式拂込(二二九、一三〇)
△株式拂込ノ催告(一五二)

第百二十七條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲ス

務ヲ要フ

△一株ノ金額(二二〇ノ四號)
△株式ノ額面以上ノ發行(二二二ノ二號)
△第一回拂込ノ時期(二二九)

第百二十八條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ス

第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

△一株ノ金額(二二〇ノ四號)
△株式ノ額面以上ノ發行(二二二ノ二號)
△第一回株式拂込(二二九、一三〇)
△株式拂込ノ催告(一五二)

第百二十九條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ還滯ナク各株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

△株式申込ノ效力(二二七)
△株式發行ノ價額(二二八)
△創立總會招集ノ時期(二三二)
△第一回拂込ノ調査(二三四ノ一項二號)
△發起人ノ責任(二三六)
△株式共有ノ效果(二四六ノ二項)
△株式ノ額面以上ノ發行(二二二ノ二號)

第百三十條 株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ一定ノ期間内ニ其拂込

ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得但し其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

發起人カ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ此場合ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

△發起人ノ株式引受責任(二三六)
△株式拂込ノ催告(一五二)

第百三十一條 各株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ還滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第百五十六條第一項、第二項、第百六十一條第三項、第百六十二條及ヒ第百六十二條乃至第百六十三條ノ四ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス

△株式會社ノ創立總會(一三二、一三五、一三八)

△株主ノ議決權(一六二)

第百三十二條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

△罰則(二六二ノ一號)

第百三十三條 創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

△取締役被選資格(一六四)
△監査役ニ準用(一八九)

△取締役及ヒ監査役ノ選任(二二三)

第百三十四條 取締役及ヒ監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

- 一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
- 二 各株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ
- 三 第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ノ正當ナルヤ否ヤ

取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セザレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ検査役ヲ選任シ其者ニ代ハリテ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

△取締役及ヒ監査役ノ責任(二四二ノ四)
△罰則(二六一、二六二、二六二ノ二)

第百三十五條 創立總會ニ於テ第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但し金額以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與アル株式ノ數ヲ減シタルトキハ其者ハ金額ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

△定款ノ記載事項(二二二、第三號乃至第五號)

第百三十六條 引受ナキ株式又ハ第百二十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ還滯シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ

△第一回拂込ノ時期及金額(二二九)
△株主ノ募集(二二五、二二六)
△拂込ノ催告(一三〇)
△還滯債務(民四三二、四四五)

第百三十七條 前二條ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

△發起人ノ會社又ハ第三者ニ對スル責任(二四二ノ二)

第百三十八條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲スコトヲ得

△創立總會ト定款變更(二三五)
△創立總會ノ決議要件(二三二ノ二項)

第百三十九條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

△株式會社設立ノ登記(二四二ノ一項)

第百四十條 (創設)

第百四十一條 會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第百二十四條ニ定メタル調査終了ノ日ヨリ又發起人カ株式ノ總數ヲ

引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 第百二十條第一號乃至第四號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項
- 二 本店及ヒ支店
- 三 設立ノ年月日
- 四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
- 五 各株ニ付キ拂込ミタル株金額
- 六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率
- 七 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所
- 八 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名
- 九 數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第五十一條第二項、第三項、第五十二條及ヒ第五十三條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第百四十二條 會社カ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ハ株式引受人ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

△詐欺、強迫ニ因ル意思表示ノ取消(民

第九六

第四百二十二條ノ二 發起人カ會社ノ設立ニ關シ其任務ヲ怠リタルトキハ其發起人ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ

發起人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其發起人ハ第三者ニ對シテモ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ

△株式會社ノ發起人(二一九一—二二三)

△發起設立(二二三、二二四)

△募集設立(二二五、二二六)

△連帶債務(民四二二—四四五)

第四百二十三條ノ三 會社カ成立セザル場合ニ於テハ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲シタル行為ニ付キ連帶シテ其責任ヲ負フ

前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス

△事業着手後ノ設立無効ノ訴(二二三)

第四百二十四條ノ四 取締役又ハ監査役カ第四百三十四條第一項ニ定メタル任務ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フニキ場合ニ於テ發起人モ亦其責任ヲ負フニキトキハ其取締役、監査役及ヒ發起人ハ之ヲ連帶債務者トス

△取締役及監査役ノ調査報告義務(二二三—二四一)

△取締役ノ連帶責任(一七七)

△取締役及監査役ノ連帶責任(一八六)

△監査役ニ準用規定(一八九)

第二節 株式

第四百二十三條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

△定款ノ必要事項(二二〇)

△株式金額ノ均一(二四五)

第四百二十四條 株主ノ責任ハ其引受ケ又ハ譲受ケタル株式ノ金額ヲ限度トス

株主ハ株式ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

△同時設立(二二三)

△募集設立(二二九、二三〇)

△株主拂込義務(一五二—一五四)

第四百四十五條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス但一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り之ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得

△定款ノ記載事項(二二〇ノ四號)

第四百四十六條 株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

△所有權以外ノ財產權ノ共有(民二六四)

第四百四十七條 株券ハ第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年

規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ無効トス但株券ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

△罰則(二六二—二六三)

第四百四十八條 株券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメザル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其金額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

△無記名株券ノ請求(一五五)

△罰則(二六二—二六三)

△貼用印紙(印四ノ一六號)

△記名捺印(商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律)

第四百四十九條 株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得

ス

△株式讓渡ノ對抗要件(一五〇)

△無記名株券ノ請求(一五五)

△會社自己株券取得禁止(一五一ノ一項)

第四百五十條 記名株式ノ移轉ハ取得者ノ姓名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

△株主名簿ノ記載事項(一七二)

第四百五十一條 會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ買入ル目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ消却スルコトヲ得但定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ニ在ラス

△資本減少手續(二一〇)

△配當條件(一九五)

△配當ノ標準(一九七)

△罰則(二六一、二六二)

第四百五十二條 株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主カ期日ニ拂込ラザルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲サザルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ會社カ株主ニ對シ其權利

ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトキハ會社ハ其通知スヘキ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

△株主ノ責任(一四四)

△株式ノ共有(一四六)

△會社ノ通知及催告方法(一七二—一七三)

△會社ノ公告方法(二二〇)

第四百五十三條 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ラザルトキハ其權利ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ最モ先ニ滞納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得ス

讓渡人カ拂込ラザルトキハ會社ハ株式ヲ讓渡スルコトヲ要ス此場合ニ於テ讓渡人ニ依リテ得タル金額カ滞納金額ニ滿タザルトキハ從前ノ株主ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨濟セザルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル連約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

△株券ノ讓渡(一三三)

第四百五十三條ノ二 前條第一項ノ規定ニ依リ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ連帶

ナク其株主ノ姓名、住所及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要ス

△會社ノ公告方法(二二〇)

第四百五十四條 第四百五十三條ニ定メタル讓渡人ノ責任ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

△株式讓渡ノ對抗要件(一五〇)

第四百五十五條 株金全額ノ拂込アリタルトキハ株主ハ其株券ヲ無記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其無記名式ノ株券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

△株式ノ金額(一四四、一四五)

△罰則(二六二)

第四百五十五條ノ二 無記名式ノ株券ヲ有スル者カ株主ノ權利ヲ行ハントスルトキハ其權利ノ行使ニ必要ナル員數ノ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス

△株券ノ供託(一六二—一六三)

△定款變更ノ決議方法(二〇九ノ一項)

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第四百五十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載

スルコトヲ要ス
 會社力無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ
 於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ
 旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコト
 ヲ要ス
 △株主總會(一五七、一五九、一六〇、一
 八二、二八〇)
 △會社ノ通知催告方法(一七二、一七三)
 △株券ノ供託(一六一、一六二)
 △會社ノ公告方法(一一〇)
 第百五十七條 定時總會ハ毎年一回一定ノ時
 期ニ於テ取締役ノ召集スルコトヲ要ス
 年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテ
 ハ毎配當期ニ總會ヲ召集スルコトヲ要ス
 △株主總會召集ノ方法(一五六)
 第百五十八條 (削除)
 第百五十九條 臨時總會ハ必要アル毎ニ取締
 役ノ召集ス
 △臨時總會ノ召集(一七四、一八二、一九
 八、二二七、二三〇)
 第百六十條 資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株
 主ハ會議ノ目的タル事項及ヒ其召集ノ理由
 ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會
 ノ召集ヲ請求スルコトヲ得
 取締役力前項ノ請求アリタル後二週間内ニ
 總會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其請求ヲ
 爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其召集

ヲ爲スコトヲ得
 △株主ノ總會召集ノ申請(非訟一六六、
 一三一、一三二)
 第百六十條ノ二 總會ハ取締役ノ提出シタル
 書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲
 メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得
 △罰則(二六二)
 第百六十一條 總會ノ決議ハ本決又ハ定款ニ
 別段ノ定アル場合ヲ除ク外出府シタル株主
 ノ決議權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
 無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週
 間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス
 株主ハ代理人ヲ以テ其決議權ヲ行フコトヲ
 得但代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社
 ニ差出タスコトヲ要ス
 總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル
 者ハ其決議權ヲ行フコトヲ得ス
 △社債募集ト特別決議(一九九)
 △定款變更ノ決議(二〇九)
 △解散又ハ合併ノ決議(二二二)
 第百六十二條 各株主ハ一株ニ付キ一箇ノ議
 決權ヲ有ス但一株以上ヲ有スル株主ノ議
 決權ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得
 △社員ノ表決權(民六五)
 第百六十三條 總會召集ノ手續又ハ其決議ノ
 方法法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主、
 取締役又ハ監査役ハ訴ヲ以テ之ヲ其決議ノ

無効ヲ主張スルコトヲ得
 株主ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ヘタ
 ルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席
 スルコトヲ拒マレタルトキニ限り又株主カ
 總會ニ出席セサル場合ニ於テハ自己ニ對ス
 ル總會召集ノ手續法令又ハ定款ニ反スル
 コトヲ理由トスルトキニ限り前項ノ訴ヲ提
 起スルコトヲ得
 第九十九條ノ三及ヒ第九十九條ノ四ノ規定
 ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 △株主總會召集ノ方法(一五六)
 △株主總會ノ議決(一六一)
 第百六十三條ノ二 決議無効ノ訴ハ決議ノ日
 ヨリ一ヶ月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
 口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非
 ナレハ之ヲ開始スルコトヲ得ス
 訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役選任
 ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス
 △決議無効ノ訴ノ條件(一六三)
 第百六十三條ノ三 株主カ決議無効ノ訴ヲ提
 起シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔
 保ヲ供スルコトヲ要ス但其株主カ取締役又
 ハ監査役ナルトキハ此限ニ在ラス
 △訴訟上ノ擔保(民訴一四四)
 第百六十三條ノ四 決議シタル事項ノ登記ア
 リタル場合ニ於テ其決議ヲ無効トスル判決
 カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地

ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
 △決議無効ノ登記(非訟一九五、二〇二)
 第二款 取締役
 第百六十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ株主
 中ヨリ之ヲ選任ス
 會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル
 規定ニ從フ
 △取締役ノ有スヘキ株式數(一一〇)
 △取締役ノ株券供託義務(一六八)
 △委任(民六四二、六五六)
 第百六十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ
 要ス
 △取締役任務終了後ノ權利義務(一六七
 ノ二)
 第百六十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユル
 コトヲ得ス但定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ配
 當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ルマテ其
 任期ヲ延長スルコトヲ妨ケス
 △取締役ノ任務終了後ノ權利義務(一六
 七ノ二)
 第百六十七條 取締役ハ何時ニテモ株主總會
 ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但任期
 ノ定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其
 任期中ニ之ヲ解任シタルトキハ其取締役ハ
 會社ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠

償ヲ請求スルコトヲ得
 △委任ノ解除(民六五二)
 第百六十七條ノ二 取締役ノ任務力終了シタ
 ル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ定メタル員數
 ノ取締役ヲキニ至リタルトキハ選任シタル
 取締役ハ被選及ヒ禁治產ノ場合ヲ除ク外新
 ニ選任セラレタル取締役力就職スルマテ仍
 ホ取締役ノ權利義務ヲ有ス
 △取締役ノ員數(一六五)
 第百六十八條 取締役ハ定款ニ定メタル員數
 ノ株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス
 △取締役ノ有スヘキ株式數(一一〇)
 第百六十九條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段
 ノ定ナキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ
 決ス支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ
 △支配人ノ選任及ヒ解任(五七)
 第百七十條 定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ
 取締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メ又ハ
 數人ノ取締役力共同シ若クハ取締役力支配
 人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メ
 サルトキハ取締役ハ各自會社ヲ代表ス
 第三十條ノ二第二項及ヒ第六十二條ノ規定
 ハ取締役ニ之ヲ準用ス
 第百七十一條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議
 録ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ且株主名簿及
 ヒ社債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス
 株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニ

テモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコ
 トヲ得
 △罰則(二六二、二六三)
 第百七十二條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載
 スルコトヲ要ス
 一 株主ノ氏名、住所
 二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
 三 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂
 込ノ年月日
 四 各株式ノ取得ノ年月日
 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ
 其數、番號及ヒ發行ノ年月日
 △株式讓渡ノ對抗條件(一五〇)
 △罰則(二六二、二六三)
 第百七十二條ノ二 會社ノ株主ニ對スル通知
 又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住
 所又ハ其者カ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツ
 ルヲ以テ定ル
 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其到達スヘカリ
 シ時ニ到達シタルモノト看做ス
 △株金拂込ノ通知(一五二、一五三)
 △總會召集ノ通知(一五六)
 △會社解散ノ通知(二三四)
 第百七十三條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載
 スルコトヲ要ス
 一 社債權者ノ氏名、住所
 二 債券ノ番號

三 社債ノ總額
 四 各社債ノ金額
 五 社債ノ利率
 六 社債償還ノ方法及ヒ期限
 七 數額ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其拂込ノ金額及ヒ時期
 八 各社債ニ付キ拂込ミタル金額及ヒ拂込ノ年月日
 九 債券發行ノ年月日
 十 各社債ノ取得ノ年月日
 十一 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日
 △前則(二六二)ノ二
 △擔保附社債信託法(同四〇以下)
 第百七十四條 會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ連帶シテ株主總會ヲ召集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス
 會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ取締役ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス
 △前則(二六二)ノ二
 第百七十五條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部額ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス
 取締役カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ

商行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得
 前項ニ定メタル權利ハ監査役ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二個月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ
 △商行爲(二六三、二六四)
 第百七十六條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セス
 第百七十七條 取締役カ其任務ヲ怠リタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 △會社ト取引(一九三)
 △會社ト下取締役トノ關係(一六四)
 △取締役及監査役ノ連帶責任(一八六)
 第百七十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一個月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第百八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 會社カ取締役ノ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 對シテノミ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 第百八十八條 (削除)
 第百八十九條 第百六十四條、第百六十六條但書、第百六十七條、第百六十七條ノ二、第百七十七條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス
 △取締役ノ任期(一六四)
 △任期ノ伸長(一六六但書)
 △解任(一六七)
 △任務終了後ノ權利義務(一六七ノ二)
 △連帶責任(一七七)
 △期限(一七九)

月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス
 前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 會社カ取締役ノ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 對シテノミ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 △會社ト取引(一九三)
 △會社ト下取締役トノ關係(一六四)
 △取締役及監査役ノ連帶責任(一八六)
 第百七十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一個月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第百八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 會社カ取締役ノ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 對シテノミ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 第百八十八條 (削除)
 第百八十九條 第百六十四條、第百六十六條但書、第百六十七條、第百六十七條ノ二、第百七十七條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス
 △取締役ノ任期(一六四)
 △任期ノ伸長(一六六但書)
 △解任(一六七)
 △任務終了後ノ權利義務(一六七ノ二)
 △連帶責任(一七七)
 △期限(一七九)

△前則(二六二)ノ二
 第百八十四條 監査役ハ取締役又ハ支那人ヲ兼ヌルコトヲ得ス但取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第百九十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ス
 △書類ノ承認(一九二)ノ一項
 第百八十五條 會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得
 △取締役ニ對スル訴(一七八)
 △株主總會召集ノ請求(一六〇)
 第百八十六條 監査役カ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負ヘキ場合ニ於テ取締役モ亦其責任ヲ負ヘキトキハ其監査役及ヒ取締役ハ之ヲ連帶債務者トス
 △取締役ノ責任(一七七、一四二)ノ四
 △會社ト監査役トノ關係(一八九)
 △書類承認ト責任解除(一九三)

第百八十七條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一個月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第百八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 會社カ取締役ノ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 對シテノミ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 第百八十八條 (削除)
 第百八十九條 第百六十四條、第百六十六條但書、第百六十七條、第百六十七條ノ二、第百七十七條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス
 △取締役ノ任期(一六四)
 △任期ノ伸長(一六六但書)
 △解任(一六七)
 △任務終了後ノ權利義務(一六七ノ二)
 △連帶責任(一七七)
 △期限(一七九)

要ス
 一 財産目録
 二 貸借對照表
 三 營業報告書
 四 損益計算書
 五 準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案
 △監査役ノ書類調査及報告義務(一八三)
 第百九十一條 取締役ハ定時總會ノ會日前ニ前項ニ掲ケタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ本店ニ備フルコトヲ要ス
 株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得
 △營業時間内書類閲覧請求(一七一)ノ二項
 △監査役ノ閲覧報告義務(一八三)
 △前則(二六二)
 第百九十二條 取締役ハ第百九十條ニ掲ケタル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス
 取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス
 △會社ノ公告方法(一九〇)
 △書類閲覧ノ效果(一九三)
 △前則(二六二)ノ二、二六二ノ二

第九十三條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタルトキハ會社ハ取締役及ヒ監査役ニ對シテ其責任ヲ解除シタルモノト看做ス但取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

△取締役ノ責任(一七七)

△取締役ト監査役ト連帶責任(一八六)

第九十四條 會社ハ其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス

△準備金(一八六)

△利益配當要件(一九五)

△株式ノ額面以上發行(二二二)

第九十五條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

△準備積立金(一九四ノ一項)

第九十六條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ第九十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後二年以上

開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但利率ハ法定利率ニ超ユルコトヲ得ス

△利息債權(民四〇四)

第九十七條 利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株主額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

△利息ノ配當ト準備金(一九四)

△利益配當要件(一九五)

△利息ノ配當(一九六)

第九十八條 裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會計財務ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ検査役ヲ選任スルコトヲ得

△検査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監査役ヲシテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得此總會ニ於テ前項ノ調査ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任ス

第一項ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

△數回分割社債拂込(一七三ノ七號)

第九十九條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ第二百三條第二項及ヒ前條ニ定メタル行爲ヲ爲スコトヲ得

△社債申込書ノ作成(二〇三ノ二項)

△社債ノ拂込(二〇四)

第二百四條 取締役ハ第二百四條ノ拂込アリタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第九十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二 各社債ニ付キ拂込ミタル金額

第五十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

△社債原簿ノ記載事項(一七三ノ三號)

△合名會社ノ登記(五三)

第二百五條 債券ハ社債金額ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

債券ニハ會社ノ商號及ヒ第九十三條第二

ルコトヲ得

△株主總會ノ招集(一六〇)

△監査役ノ選任(一六〇ノ二項)

△監査役ノ報告(非訟一三六―一三〇)

第五節 社債

第九十九條 社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依リテ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

△定款變更ノ決議(二〇九)

第二百條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株主額ニ超ユルコトヲ得ス

△定款變更ノ決議(二〇九)

第二百一條 各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二條 社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

△社債償還ノ方法及ヒ期限(一七三ノ六號)

第二百三條 社債ノ募集ニ應セントスル者ハ社債申込證ニ其引受クヘキ社債ノ數及

號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

△社債原簿ノ記載事項(一七三ノ二號)

△社債ノ通知及催告(一七二ノ二)

第六節 定款ノ變更

第二百八條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテ之ヲ變更スルコトヲ得

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

△株主總會招集ノ通知(一五六)

△定款ノ變更(一三五、一三八)

第二百九條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテ之ヲ變更スルコトヲ得

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

△株主總會招集ノ通知(一五六)

△定款ノ變更(一三五、一三八)

第二百十條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテ之ヲ變更スルコトヲ得

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

△株主總會招集ノ通知(一五六)

△定款ノ變更(一三五、一三八)

第二百十一條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテ之ヲ變更スルコトヲ得

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

△株主總會招集ノ通知(一五六)

△定款ノ變更(一三五、一三八)

第二百十二條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテ之ヲ變更スルコトヲ得

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

△株主總會招集ノ通知(一五六)

△定款ノ變更(一三五、一三八)

第二百十三條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテ之ヲ變更スルコトヲ得

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

△株主總會招集ノ通知(一五六)

△定款ノ變更(一三五、一三八)

住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

社債申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 第九十三條第三號乃至第七號ニ掲ケタル事項

三 社債發行ノ價額又ハ其最低價額

四 會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株主ノ總額

五 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

六 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債募集者ハ社債申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス

△社債ノ登記(非訟一九一)

△貼用印紙(印稅四ノ二〇號)

△罰則(二六二)

第二百三條 前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケル場合ニハ之ヲ適用セス

社債募集ノ委託ヲ受ケタル者カ自ラ社債ノ一部ヲ引受ケル場合ニ於テ其一部ニ付キ亦同シ

△社債申込證(二〇三)

第二百四條 社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ通稱ナク各社債ニ付キ其金額又ハ

債券ニハ會社ノ商號及ヒ第九十三條第二

△定款變更ノ決議(二〇九)
 第二十九條 定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但第六十一條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セサル者ハ總株主ノ員數ニ之ヲ算入セス
 前項ニ定メタル員數ノ株主出席セザルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各株主ニ對シテ其假決議ノ趣旨ヲ通知シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ更ニ一月内ニ第二回ノ株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス
 第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス
 前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス
 △無記名式株券ノ供託(二六一ノ二項)
 △株主總會ノ議決權(一六一)
 △罰則(二六二)
 第二十條 會社ノ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ增加スルコトヲ得ス
 △資本ノ總額(一一〇)
 第二十一條 會社ハ其資本ヲ增加スル場合ニ限リ優先株ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其旨ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス

△優先株ト株式申込證(二二二ノ三)
 △株式申込方式(二二二ノ三)
 △増資ノ登記(二二七)
 △株券記載事項(二二八)
 第二十二條 會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ボスヘキトキハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス
 優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス
 △定款變更ノ決議(二〇八、二〇九)
 第二十三條 會社カ其資本ヲ增加スル場合ニ於テ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ヲ爲ス者アルトハ其者ノ其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數ハ資本增加ノ決議ト同時ニ之ヲ決議スルコトヲ要ス
 △特別決議(二〇九)
 △決議事項記載ノ株式申込證(二二二ノ三ノ六號)
 第二十四條 株式申込證ハ取締役之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 會社ノ商號
 二 增加スベキ資本ノ總額
 三 資本増加ノ決議ノ年月日
 四 第一回拂込ノ金額
 五 額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ其旨

六 前條ノ規定ニ依リテ決議シタル事項
 七 優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ其種類及ヒ其各種ノ株式ノ數
 八 一定ノ時期マテニ資本増加ノ登記ヲ爲ササルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト
 數種ノ優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ其引受クヘキ株式ノ種類及ヒ各種ノ株式ノ數ヲ記載スルコトヲ要ス
 △罰則(二六二)
 第二十三條 會社カ其資本ヲ增加シタル場合ニ於テ各新株ニ付キ第九十九條ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス
 △罰則(二六二)
 第二十四條 監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス
 一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
 二 各新株ニ付キ第九十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ
 株主總會ハ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得
 △罰則(二六一、二六二、二六二ノ二)

第二十五條 (削除)
 第二十六條 引受ナキ株式又ハ第九十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ取締役ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込力取消サレタルトキ亦同シ
 △第一回ノ拂込(二二九)
 第二十七條 會社ハ第九十三條ノ規定ニ依リテ召集シタル株主總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 一 增加シタル資本ノ總額
 二 資本増加ノ決議ノ年月日
 三 各新株ニ付キ拂込ミタル株金額
 四 優先株ヲ發行シタルトキハ其種類及ヒ其各種ノ株式ノ數
 第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ新株券ノ發行及ヒ新株ノ譲渡又ハ其豫約ヲ爲スコトヲ得ス
 △登記ノ手續(非訟一八九、一九四ノ三、一九五)
 第二十八條 新株ヲ發行シタルトキハ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス
 △株券ノ記載事項(一四八)
 △優先株ノ發行(二二二)
 第二十九條 第九十六條第一項、第三項、第九十七條及ヒ第九十七條第二項ノ規定ハ新株發行ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十條 株主總會ニ於テ資本減少ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其減少ノ方法ヲ決議スルコトヲ要ス
 第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十一條 資本減少ノ爲メ株式ヲ併合スヘキ場合ニ於テハ會社ハ株主ニ對シ一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提供スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ提供セザルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得但其期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ス
 △會社ノ通知催告方法(一七二ノ二)
 第三十二條 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セザルトキハ其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ於テ併合ニ適セザル株アルトキハ其株ニ付キ亦同シ
 前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式ヲ發賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ

株主ニ交付スルコトヲ要ス
 △株式ノ發賣(二二二)
 第三十三條 第九十五條第三項及ヒ第九十五條第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十四條 株式併合ノ場合ニ於テ從前ノ株式ヲ目的トスル實權ハ併合ニ因リテ株主カ受クヘキ株式及ヒ金錢ノ上ニ存在ス
 △實權(民三五〇)
 △實權ノ實行(民三六八)
 △先取特權(民三〇四)
 第七節 解散
 第三十一條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
 一 第七十四條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事由
 二 株主總會ノ決議
 三 株主カ七八未滿ニ減シタルコト
 △裁判所ノ解散命令(四七、四八)
 △解散又ハ合併ノ決議方法(二二二)
 第三十二條 前條第二號及ヒ合併ノ決議ハ第九十九條ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 △特別決議ノ方法(二〇九)
 第三十三條 (削除)
 第三十四條 會社カ解散シタルトキハ破

應ノ場合ヲ除ク外取締役ハ過半ナク株主ニ對シテ其通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

△無記名株式(一五五)

△會社ノ公告方法(二一〇)

第二百二十五條 第七十六條及第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ五ノ規定ハ株式合併セザル場合ニ於テ合併ニ因リ消滅スル會社ノ株式ヲ目的トスル買權ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第二百二十六條 會社ヲ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲ル但定款ニ別段ノ定アルトキハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

△會社ト清算人トノ關係(二二八)

△清算人ノ選任手續(非訟一三六一一三八ノ二)

第二百二十七條 清算人ハ就職ノ後過半ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

△罰則(二六二、二六二ノ二)

第二百二十七條ノ二 清算人ハ財産目録、貸借對照表及ヒ事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ之ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

第二百二十八條 株主總會ニ於テ選任シタル清算人ハ何時ニモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

△株式會社ノ清算人(二二六)

第二百二十九條 殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株主金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ株主ニ分配スルコトヲ要ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

△利益又ハ利息ノ配當標準(一九七)

△優先株發行條件(二一一)

第二百三十條 清算事務カ終ハリタルトキハ清算人ハ過半ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株

主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

△罰則(二六二)

第二百三十一條 (削除)

第二百三十二條 會社カ事業ニ着手シタル後株主、取締役又ハ監査役カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テ之ヲ無効ト主張スルコトヲ得

第九十九條ノ三乃至第九十九條ノ六及ヒ第六十三條ノ二第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十三條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル借書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所ニ之ヲ選任ス

△商業帳簿及借書ノ保存(二二八)

△會社ノ帳簿及借書ノ保存(二〇一)

△保存者選任ノ申請(非訟二六三三項) 第二百三十四條 第八十四條、第八十九條乃至第九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十五條、第九十七條、第九十九條、第一百五十七條乃至第六十條ノ二、第六十三條乃至第六十三條ノ四、第六十四條、第六十七條、第六十七條ノ二、第七十條、第七十一條、第七十六條乃至第七十九條、

第八十一條、第八十三條乃至第八十七條、第九十一條乃至第九十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社

第二百三十五條 株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス

△社員ノ連帶責任(六三)

△株主ノ責任(一四四)

第二百三十六條 左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

一 無限責任社員相互間ノ關係

二 無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係

三 無限責任社員ノ選任

此他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス

△社員ノ出資(五五)

△社員ノ責任(六三、六四)

△出資減少ノ條件(六六)

△利益配當要件(六七)

△社員ノ選任(六八、七三)

第二百三十七條 無限責任社員ハ發起人ト爲リテ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 第二百二十條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項

二 株主ノ總額

三 無限責任社員ノ氏名、住所

四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

△發起人ト定款作成(二一〇)

△記名捺印(商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律)

第二百三十八條 無限責任社員ハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス

株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 第二百二十二條、第二百二十六條第二項第一號、第四號、第五號及ヒ前條ニ掲ケタル事項

二 無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其各自カ引受ケタル株式ノ數

△發起人ノ株主募集(二二五)

△罰則(二六二ノ二項)

第二百三十九條 創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

△監査役ノ取締役兼任禁止(二八四)

△監査役ノ責任(二四五)

第二百四十條 無限責任社員ハ創立總會ニ出席シテ其意見ヲ述フルコトヲ得但株式ヲ引

受ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

無限責任社員カ引受ケタル株式其他ノ出資ハ議決權ニ關シテハ之ヲ算入セス

前二項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス

△株式引受人ノ議決權(二二二)

△株主總會ノ決議(二六一)

第二百四十一條 監査役ハ第二百三十四條第一項及ヒ第二百三十七條第四號ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

△罰則(二六二、二六二ノ二)

第二百四十二條 會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二百二十條第一號、第二號、第四號、第七號及ヒ第二百四十一條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二 株主ノ總額

三 無限責任社員ノ氏名、住所

四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格

五 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタルトキハ其氏名

六 監査役ノ氏名、住所

七 數人ノ無限責任社員カ共同シ又ハ無限責任社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ

代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

△株式合資會社ノ登記(非款一八六) 第二百四十三條 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ準用ス但第六十四條乃至第六十八條、第七十五條及第七十九條ノ規定ハ此限ニ在ラス

△代表無限責任社員(二四二) △取締役(一六四、一七九)

第二百四十四條 株式合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス 第二百九條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

△定款變更ノ決議(二〇九) △準用規定(一〇五)

△目的ノ範圍外ノ行為(五八) △會社ノ代表(六一、六一ノ二) △社員ノ退社(六九) △會社ノ解散(七四) △會社ノ合併(七七) △會社ノ組織變更(八三ノ二、八三ノ四) 第二百四十五條 監査役ハ無限責任社員ヲシテ株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ス △監査役ノ選任(二三九)

第二百四十六條 株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散ス但第八十三條ノ場合ハ此限ニ在ラス

△解散ノ請求(八三) △合資會社ノ解散原因(一一八)

△準用規定(一〇五) 第二百四十七條 無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ株主ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス 第一百八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

△定款變更ノ決議(二〇九) △解散ノ登記及繼續ノ登記(一八八ノ二項)

第二百四十八條 會社カ解散シタルトキハ合併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外清算ハ無限責任社員ノ全員又ハ其選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス 無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス 株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無限責任社員ノ全員若クハ其相續人又ハ其選任スル者ト同數ナルコトヲ要ス

△株式會社ノ解散(二二一、二二二、二二五)

△準用規定(二三六) △裁判所ノ解散命令(四七、四八) 第二百四十九條 無限責任社員ハ何時ニテモ其選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用ス

△清算人ノ解任(九六、一二八) 第二百五十條 第二百條ノ規定ハ株式合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス

△社員ノ權利ヲ行フ者ノ決定(二〇二) 第二百五十一條 清算人ハ第二百二十七條、第二百二十七條ノ二及ヒ第二百三十條ニ定メタル計算ニ付キ株主總會ノ承認ノ外無限責任社員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

△株主總會ノ決議及無限責任社員ノ一致(二四四) 第二百五十二條 株式合資會社ハ第二百四十四條ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

△社員ノ退社ト組織變更(二四七) 第二百五十三條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會ハ直チニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此總會ニ於テハ無限責任社員モ亦其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ議決權ヲ行フコトヲ得

第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第八十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

△合併ノ決議ト書類ノ作成(七八) △合併ノ決議ト債權者ノ承認又ハ異議(七九) △合名會社ノ組織變更(八三ノ三) 第二百五十四條 (前條)

第六章 外國會社

第二百五十五條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似セルモノト同一ノ登記及ヒ公告ヲ爲スコトヲ要ス

右ノ外國日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設立ノ登記ト同時ニ其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十二條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之ヲ準用ス

△外國法人ノ認許(民三六) △外國會社ノ登記(非款二〇二、二〇四)

第二百五十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二百五十七條 外國會社カ始メテ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第二百五十八條 日本ニ支店ヲ設ケタル日本會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百五十九條 第四百七條、第四百九條、第五百十條、第五百十五條第一項、第五百五條第一項、第五百六條、第二百七條及ヒ第七十七條第二項ノ規定ハ日本ニ於テ設立スル外國會社ノ株券又ハ債券ノ發行及ヒ其株式又ハ債券ノ移轉ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト爲ス

第二百六十條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行為ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ該會社ノ業務ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七十條 罰則 第二百六十一條 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役、檢査役又ハ株式會社若クハ株式合資會社ノ支配

店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第二百五十八條 日本ニ支店ヲ設ケタル日本會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百五十九條 第四百七條、第四百九條、第五百十條、第五百十五條第一項、第五百五條第一項、第五百六條、第二百七條及ヒ第七十七條第二項ノ規定ハ日本ニ於テ設立スル外國會社ノ株券又ハ債券ノ發行及ヒ其株式又ハ債券ノ移轉ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト爲ス

第二百六十條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行為ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ該會社ノ業務ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七十條 罰則 第二百六十一條 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役、檢査役又ハ株式會社若クハ株式合資會社ノ支配

人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ罰金又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ヲ設立シ若クハ資本ノ増加又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ株式總數ノ引受又ハ資本ニ對スル抽込額ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ

二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ開ハス會社ノ計算ニ於テ不正ニ其株式ヲ取得シ又ハ賣權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ

四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投票取引ノ爲メニ會社財產ヲ處分シタルトキ

前項ノ規定ハ刑罰ニ正條アル場合ニハ之ヲ準用ス

△私文書ノ偽造變造罪(刑一五九) △背任罪(刑二四七)

△債權者(二二五、二二五三) 第二百六十二條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス但し其行為ニ付キ刑罰ニ關スルコトハ此限ニ在ラス

一 會社又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違

二百六十二條ノ二 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス但其行為ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

一 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ忘リタルトキ

二 本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ忘リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本編ノ規定ニ依リ閲覧ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閲覧セシメザリシトキ

四 本編ノ規定ニ依ル検査又ハ調査ヲ妨ケタルトキ

五 第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ着手シタルトキ

六 第二百二十六條第二項、第二百三條第二項、第二百三十八條第二項ノ規定ニ違反シテ株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラズ、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 第四百七條第一項又ハ第二百十七條第三項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ

八 株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記

載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

九 定款、株主名簿、社債原簿、總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書及ヒ準備金並ニ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル諸簿ヲ本店若クハ支店ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 第七十四條第一項又ハ第九十八條第二項ノ規定ニ違反シテ株主總會ヲ召集セザルトキ

△過料ノ裁判(非訟二〇六一二〇八)

第二百六十二條ノ三 第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ハ本章ノ適用ニ付テハ之ヲ發起人ト看做ス

第三章 商行為

第二百六十三條 左ニ掲ケタル行為ハ之ヲ商行為トス

一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産、不動産若クハ有價證券ノ有價取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行為

二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル

有價取得ヲ目的トスル行為

三 取引所ニ於テスル取引

四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行為

△動産、不動産(民八六)

△有價證券(四三三、四三三、四三三)

第二百六十四條 左ニ掲ケタル行為ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行為トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行為ハ此限ニ在ラス

一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有價取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行為

二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行為

三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行為

四 運送ニ關スル行為

五 作業又ハ勞務ノ請負

六 出版、印刷又ハ攝影ニ關スル行為

七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引

八 兩替其他ノ銀行取引

九 保險

十 寄託ノ引受

十一 仲立又ハ取次ニ關スル行為

十二 商行爲ノ代理ノ引受

△運送(三三一、三三二、五〇九、一六二九)

△寄託(三五三、三三三、三三三)

△保險(三八四、四三三、六五三、一六七)

△仲立(三〇五、三三三)

△問屋(三三三、三三三)

△代理商(三六一、四一)

△賃貸(民六〇、一六二)

△請負(民六三、二一六、四二)

△委任(民六四、三三六、五六)

第二百六十五條 商人カ其營業ノ爲メニスル行為ハ之ヲ商行為トス

商人ノ行為ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス

△商人ノ意義(四)

△絕對的商行為(二六三)

△相對的商行為(二六四)

△小商人(八)

第二百六十六條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サザルトキハ其行為ハ本人ニ對シテ其效力ヲ生ズ但相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラザリシトキハ代理人ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セザル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケザル行為ヲ爲スコトヲ得

△委任(民六四、四一、六五六)

第二百六十八條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス

△代理權ノ消滅(民一一)

△委任ノ終了(民六五)

第二百六十九條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ直チニ承諾ヲ爲サザルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

△承諾期間ヲ定メタル申込ノ效力(民五二)

第二百七十條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セザルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

△申込ノ效力(民五二、五二四)

△申込承諾ノ效力(五二六)

第二百七十一條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ過期ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコトヲ忘リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス

△申込承諾ノ效力(民五二六)

第二百七十二條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取リタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絶シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其

物品ヲ保管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ價フニ足ラサルトキハ商人カ其保管ニ因リテ損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス

第二百七十三條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタルトキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證力ノ商行爲タルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

△連帶債務(民四三二一四四五)

△保證債務ノ補充性(民四四六)

第二百七十四條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

△有價ノ委任(民六四八)

第二百七十五條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

△商事債務ノ法定利率(二七六)

△消費貸借(民五八七—五九二)

第二百七十六條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

△利息ヲ生スヘキ債權(民四〇四)

第二百七十七條 民法第三百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セス

第二百七十八條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラザルトキハ特種物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス

△會社ノ住所(民四四)

△法人ノ住所(民五〇)

△住所(民二二)

第二百七十九條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限力到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

△債務者ノ遲滞(民四二二)

第二百八十條 (削除)

第二百八十一條 金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示備告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ額目ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

△公示備告ノ手續(民訴七七—七八五)

第二百八十二條 第四百四十一條、第四百四十九條ノ二、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

△手形ノ善意取得者ノ權利(四四一)

△持券人辨ノ手形(四四九ノ二)

△手形裏書ノ方式(四五七)

△手形ノ白地裏書(四六一)

△裏書ノ連續(四六四)

第二百八十三條 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限り債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

△慣習(法例二)

第二百八十四條 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クル

マテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ關シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

△代理商ノ留置權(四一)

△問屋ノ留置權(三一九)

△運送取扱人ノ留置權(三二四)

△占有權(民一八〇—二〇五)

第二百八十五條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

△債權ノ時効(民一六七、一七〇、一七三)

第二百八十五條ノ二 第四十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス

△營利法人ノ設立(民三五)

損毀シ易キ物ハ前項ノ備告ヲ爲サズシテ之ヲ賣買スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ賣買シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

△供託(民四九—四九七)

△供託ノ手續(供一)

△賣買ノ申立(賣三)

第二百八十七條 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非ザレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サズシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非ザレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

△契約解除ノ原因(民五四二)

第二百八十八條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ檢査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルニ非ザレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル現狀アリタル場合ニ於テ買主カ六个月内

ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

△賣主ノ追索擔保(民五六三—五六六)

△賣主ノ瑕疵擔保(民五七〇)

第二百八十九條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ滅失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セス

△契約ノ解除ノ原因(民五四五)

第二百九十條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

△賣買ノ目的物ノ保管又ハ供託(二八九)

ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其總額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

△相殺ノ期間(二九三)

△相殺(民五〇五以下)

第二九二條 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

△手形(四三四以下)

第二九三條 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六ヶ月トス

△交互計算ノ解除(二九六)

第二九四條 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ヲ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述ブルコトヲ得ス但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二九五條 相殺ニ因リテ生シタル債權ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

△商人ノ行為ト報酬(二七五)

△商事債權ノ利率(二七六)

第二九六條 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ヲ閉鎖シテ總額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

△相殺ノ期間(二九三)

第四章 匿名組合

第二九七條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

△有限責任社員ノ出資(一〇八)

△匿名組合員ノ權利(三〇四)

第二九八條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財產ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行為ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セス

△有限責任社員ノ出資(一〇八)

△匿名組合員ノ權利(三〇四)

第二九九條 匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用キ又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責任ヲ任ス

第三〇〇條 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其損失ノ後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得

ハ其損失ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得

△匿名組合契約終了ノ效果(三〇三)

第三〇一條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

△組合員ノ退還(民六七九)

第三〇二條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

二 營業者ノ死亡又ハ禁治産

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

△組合員ノ退還(民六七九)

第三〇三條 組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其損失額ヲ返還スルヲ以テ足ル

△組合員ノ出資ノ歸屬(二九八ノ一項)

第三〇四條 第八條、第十一條及ヒ第一百十五條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五章 仲立營業

第三百五條 仲立人トハ他人間ノ商行為ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

△商行為ノ代理ノ引受(二六四ノ二二號)

△代理商(二六六)

第三百六條 仲立人ハ其媒介シタル行為ニ付キ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受ケルコトヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

△仲立人ノ履行(三一一)

△慣習(法例一)

第三百七條 仲立人カ其媒介スル行為ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行為カ完了スルマテ之ヲ保管スルコトヲ要ス

第三百八條 當事者間ニ於テ行為カ成立シタルトキハ仲立人ハ通商ナク各當事者ノ氏名又ハ商號、行為ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作り署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス

當事者カ直チニ履行ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セズ又ハ之ニ署名セザルトキハ仲立人ハ通商ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

コトヲ要ス

△仲立人ノ報酬請求(三一一)

△仲立人ノ帳簿ノ記載及股本交付(三〇九)

第三百九條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

當事者ハ何時ニテモ仲立人カ自己ノ爲メニ媒介シタル行為ニ付キ其帳簿ノ股本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

△商業帳簿(二五)

△商業帳簿及信書ノ保存(二八)

第三百十條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示サザルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ仲立人ハ第三百八條第一項ノ書面及ヒ前條第二項ノ股本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得

△仲立人ノ履行(三一一)

△代理(民九三以下)

第三百十一條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其相手方ニ示サザリシトキハ之ニ對シテ自ラ履行ヲ爲ス責任ヲ任ス

△代理(民五〇〇)

第三百十二條 仲立人ハ第三百八條ノ手續ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得

△仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負担ス

第六章 問屋營業

△商人ノ行為ト報酬(二七四)

第三百十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

△商行為ノ代理ノ引受(三六四ノ二二號)

第三百十四條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ得テ義務ヲ負フ

問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

△商行為ノ代理(二六六)

△代理權ノ不消滅(二六八)

△委任(民六四三以下)

△代理(民九三以下)

第三百十五條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セザル場合ニ於テ自ラ其履行ヲ爲ス責任ヲ任ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

△辨濟ニ依ル代位(民五〇〇以下)

△慣習(法例一)

第三百十六條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ價額ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔ス

スルトキハ其買入ハ買入ハ委託者ニ對シ
 △其效力ヲ生ス
 △商行爲受任者ノ權限(二六七)
 △買入ト相手方又ハ委託者トノ關係(三
 一四)
 第三百十七條 買入力取引所ノ相場アル物品
 ノ買入又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自
 ラ買主又ハ買主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於
 テハ買主ノ代價ハ買主ノ買主又ハ買主ト爲
 リタルコトヲ通知シテ發シタル時ニ於ケル取
 引所ノ相場ニ依テ之ヲ定ム
 前項ノ場合ニ於テモ買入ハ委託者ニ對シテ
 報明ヲ請求スルコトヲ得
 第三百十八條 買入力買入ノ委託ヲ受ケタル場
 合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ル
 コトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルト
 キハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス
 △買主ノ目的物受取ノ拒否ト買主ノ供託
 又ハ買入(二八六)
 第三百十九條 第三十七條及ヒ第四十一條ノ
 規定ハ買入ニ之ヲ準用ス
 第三百二十條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ
 他人ノ爲メニ買入又ハ買入ニ非サル行爲ヲ
 爲スル者トスル者ニ之ヲ準用ス
 △買入ノ買入(三二二)

第七章 運送取扱營業

第三百二十一條 運送取扱人ト自己ノ名ヲ
 以テ物品運送ノ取次ヲ爲スル者トスル者ヲ
 謂フ運送取扱人ニハ本章ニ別段ノ定アル場
 合ヲ除ク外買入ニ請スル規定ヲ準用ス
 △商行爲ノ代價ノ引受(二六四ノ二一號)
 △買入ノ買入(三三三)
 第三百二十二條 運送取扱人ハ自己又ハ其使
 用人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人
 又ハ他ノ運送取扱人ノ運送其他運送ニ關ス
 ル注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サ
 レハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延滞ニ付キ損
 害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
 △運送取扱人ノ責任消滅時(三二八)
 △運送取扱人ノ責任消滅時(三二八)
 第三百二十三條 運送取扱人カ運送品ヲ運送
 人ニ引渡シタルトキハ直チニ其報酬ヲ請求
 スルコトヲ得(三二五)
 運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタル
 トキハ運送取扱人ハ特約アルニ非サレハ別
 ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
 △商人ノ行爲ト報酬ノ請求(二七四)
 第三百二十四條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ
 受取ルヘキ報酬、運送費其他委託者ノ爲メ
 ニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノ其運送
 品ヲ取戻スルコトヲ得
 第三百二十五條 商人權次テ運送ノ取次ヲ爲
 ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權

利ヲ行使スル義務ヲ負フ
 前項ノ場合ニ於テ後者カ前者ニ辨濟ヲ爲シ
 タルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス
 △辨濟ニ依ル代位(民五〇〇)
 第三百二十六條 運送取扱人カ運送人ニ辨濟
 ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權利ヲ取得ス
 △辨濟ニ依ル代位(民五〇〇)
 第三百二十七條 運送取扱人ハ特約ナキトキ
 ハ自ラ運送品ヲ受取ルコトヲ得此場合ニ於テハ
 運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有
 ス
 運送取扱人カ委託者ノ請求ニ因リテ貨物引
 換證ヲ作リタルトキハ自ラ運送品ヲ爲スモノ
 ト爲ス
 △運送人ノ買入(三三三)
 △貨物引換證ノ效力(三三四一三三四ノ
 三、三三五)
 第三百二十八條 運送取扱人ノ責任ハ荷受人
 カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シ
 タルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
 前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於
 テハ其引渡アルヘカリシ日ヨリ之ヲ起算ス
 前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ應答アリタル
 場合ニハ之ヲ準用セス
 △運送取扱人ノ責任(三三二)
 △商事債權ノ時効(二八五)
 第三百二十九條 運送取扱人ノ委託者又ハ荷

受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキ
 ハ時効ニ因リテ消滅ス
 △運送取扱人ノ報酬請求權(三三三)
 △商事債權ノ時効(二八五)
 第三百三十條 第三百二十八條及ヒ第三百四
 十三條ノ規定ハ運送取扱費ニ之ヲ準用ス
 △高價品ノ運送ト損害ノ賠償(三三八)
 △荷受人ノ權利取得(三三三)

第三百三十一條 運送人トハ陸上又ハ湖川、
 港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スル者
 トスル者ヲ謂フ
 △運送ニ關スル行爲(二六四ノ四號)
 第一節 物品運送
 第三百三十二條 荷受人ハ運送人ノ請求ニ因
 リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス
 運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷受人之ニ署
 名スルコトヲ要ス
 一 運送品ノ種類、重量又ハ容積及ヒ其
 荷造ノ種類、個數並ニ記載
 二 到達地
 三 荷受人ノ氏名又ハ商號
 四 運送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
 △記名捺印(商法中署名スヘキ場合ニ
 關スル法律)

第三百三十三條 運送人ハ荷受人ノ請求ニ因
 リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス
 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人ノ
 署名スルコトヲ要ス
 一 前條第二項第一號乃至第三號ニ據ル
 タル事項
 二 荷造人ノ氏名又ハ商號
 三 運送費
 四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年
 月日
 △貼用印紙(印稅四)
 第三百三十四條 貨物引換證ヲ作リタルトキ
 ハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ
 間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル
 △貨物引換證(三三三)
 第三百三十四條ノ二 貨物引換證ヲ作リタル
 トキハ運送品ニ關スル應分ハ貨物引換證ヲ
 以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 △貨物引換證ノ效力(三三四)
 第三百三十四條ノ三 貨物引換證ハ其記名式
 ナルトキトモ裏書ニ依リテ之ヲ讀渡スコ
 トヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記
 載シタルトキハ此限ニ在ラス
 第三百三十五條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ
 受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物引換證ヲ引渡
 シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使ス
 ル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ